

はじめに

この書は、二〇一七年～二〇一九年にかけて発信した更新集と今週の真言からピックアップし纏めたものです。復習を兼ね再読してください。新しい気付きや発見があるかも知れません。

二〇二〇年一月

かとう はかる

◎目次

はじめに..... 1

第1部..... 3

第2部.....102

第3部.....222

おわりに.....380

第1部

○死ぬために生まれてきたのか!?

唯物論者は言います。「人生は肉体有る限りだと」・・・もしそうなら、私たちは何をしても無意味です。何を得ても無意味です。どんなに素晴らしい人生を送っても無意味です。何せ！ 肉体が無くなればすべて終わってしまうのですから・・・。そんな何も残らない人生に、何の意味があるのでしょうか？

私たちは、わざわざ死ぬために生まれてきたのですか？ 肉体が死んでも何かが残るから、生まれてきたのではありませんか？ どんなに素晴らしいことをやっても残らないなら、私たちは何もしいはずですよ。やったことが何かの形で残ると思うから、一生懸命やるのです。

そうです。肉体で体験したことは、宇宙のアカシックレコードに永遠に刻まれ残るのです。そして、その刻まれた体験は幸せの味付け材料となり、後々私たちのところに帰ってくるのです。

○死ぬと分かっているが生まれてくる理由

「人は死ぬと分かっているが、どうして生まれてくるのでしょうか？」

「人は死ぬと分かっているが、どうして何かを成し遂げようとするのでしょうか？」

「人は死ぬと分かっているが、どうして何かを求めようとするのでしょうか？」

「人は死ぬと分かっているが、どうして何かを残そうとするのでしょうか？」

「人は死ぬと分かっているが、どうして懸命に生きようとするのでしょうか？」

それは自分が、永遠の存在(魂)であることを知っているからです。永遠の存在である魂の自分は、成長したいのです。そのためには、死ぬ世界で体験しなければ成長できないので、死ぬと分かっているが生まれたいのです。もし自分が永遠の存在でなければ、学ぶことも、仕事をする 것도、良い家庭を築くことも、馬鹿らしくてやっていられないはずです。私たちは、肉体ではありません。私たちは永遠の存在である意識体です。生命体です。魂です。その魂は、死ぬ世界で様々な体験をすることで成長できるのです。

※「そんなこと当たり前ですよ！」と人は良く言います。なぜ当たり前だと言えるのでしょうか？ それは、当たり前でないことを知っているからです。当たり前でないことを知らなかったら、当たり前が何か解るは

がありません。だから私たちは、当たり前前の世界から当たり前でない世界に出てきて、当たり前が何なのか学んでいるのです。初めから当たり前を知っていたら、あなたは当たり前でない世界に出てこなかったはずです。

※死ぬと分かっているのに、どうして勉強しなければならないのか？ 死ぬと分かっているのに、どうして働かなければならないのか？ 死ぬと分かっているのに、どうして道徳や倫理や法律を守らなければならないのか？ それは、唯物論者を含めたすべての人たちが、死なない自分を知っているからです。

○**本当に有るモノとは？**

本当に有るものって、見える物ですか？ 見えないモノですか？ 本当に有るモノは見えないのです。本当に無い物が見えるのです。本当に無い見える物は、必ず消えて無くなるからです。でも見えないモノは、永遠に無くなることはありません。当たり前ですね。見えないモノは、無くなりようがないからです。でも地球人類は、この当たり前前のごとがまだ解っていないのです。

私たちが住んでいるこの表現世界は、現象の世界です。現象の世界ですから見えるのです。肌で感じられ

るのです。でも現象ですから、必ず消えて無くなるのです。消えて無くなるということは、幻の世界であるということですよ。それが心の半分くらいまで解ったら、もう争い合うことは無いでしょう。

どうか、見える物と見えないモノの理解力を高めてください。

○他人がいるの？ 自分がいるの？

「他人がいるの？ 自分がいるの？」この疑問は、求道者の誰もがぶち当たる疑問です。

あなたは今、友達を認めています。それは、認めてやれるあなたがいるからです。もし認めてやれるあなたがいなかったら、たとえ友達がいても友達はいません。当然です。あなたが認めて、はじめて友達が存在するからです。ということは、友達はあなたが創っているということです。

認める者がいなかったら認められるモノは無いのです。自分がいるから他人がいるのです。自分がいるから宇宙が有るのです。自分が他人を創り、宇宙を創っているということです。この宇宙は、認める者が主体なのです。認められるモノは客体なのです。他人は外側の存在です。自分は内側の存在です。外側は無いのです。外側は、自分が認めた時だけある世界なのです。

郵便物が配達されても、受取人がいなかったら、配達された郵便物は無いのです。受取人がいて、はじめ

て配達されたものが有るのです。もし地球に認めてやれる人類がいなかったら、光を注いでいる星々は存在しないでしょう。もしあなたがいなかったら、奥さんも子供さんもないでしょう。あなたがいなかったら、日本は無いです。地球は無いです。宇宙は無いです。

○偶然は無い！

人間は何事も偶然に起きると思っていますが、この宇宙に偶然はありません。すべて必然です。なぜなら、宇宙には、きちんとした秩序の主がおられるからです。その秩序の主は、すべての存在を進化成長へと導いているのです。

偶然は無秩序ですが、必然は秩序があるのです。秩序とは、意思を持った法則のことです。すべての出来事の背後には、必ず法則と意思があるのです。当然です。意識主がそうしようと思ってそうさせているのですから、偶然があるわけがないのです。ですから、自己防衛したって無駄です。もし自己防衛ができるなら、それは矛盾です。全能の意識主が、そんな矛盾なことをするわけがありません。

私たちが安心して生きられるのは、必然しか無いからです。その必然は、すべて進化成長へと運んでくれているのです。ただその流れが、私達の目には逆に見えることがあるので、なかなか信じられないだけです。

これだけ神を信じている私でさえも、まだ必然の導きを疑うのですから、一般人に必然を信じなさいと言っても無理な話なのです。でもこの書を読んでいる皆さんは、信じてください。起きていることは全て必然で、それはすべて良いことであると・・・。

偶然を信じていては、一時的りとも心は安定しません。私も努力しますが、どうか皆さんも必然を信じるよう努力して生きてください。

○このアングルで写されてきた!?

皆さんは、このアングルで今日まで人生を歩んできました。他のアングルから写された人生など一つもありません。これはどういう意味かと言いますと、あなたはあなたの人生の主役であるという意味です。主役ですから、いついかなる時もあなた抜きでの人生はなかったということです。いつもあなたがおりました。いつもあなたの意識の前で時間が過ぎ去りました。あなたのいない一秒は、一日は、一週間は、一月は、一年は、ありませんでした。当然です。あなたの意識の無いところで時が進むわけがないからです。

どんなドラマにも、主役が必要なのです。主役は、そく主体者です。主観者です。あなたの周りに置かれている物も、人も、時代背景も、すべてあなたが用意した小道具なのです。

○自己完結型宇宙

宇宙には、二つの見方があるのです。一つは自己完結型宇宙側から見た場合、もう一つは原因と結果の法則側から見た場合です。自己完結型宇宙側から見た場合はポジティブな見方になり、原因と結果の法則側から見た場合はネガティブな見方になります。

あなたが厭なモノを見せられるのは、自分の中にある厭なものに気づかせるためです。また、ドキッとすることを体験させられるのも、ドキッとしなくなる不動心を築くためです。人間は雨が降ったらどうしようとか、飛行機事故に遭ったらどうしようとか心配しますが、自分の成長にとって必要な「自分が・法則が」用意するので、心配することはないのです。なぜなら、みな良いことだからです。

自分で鏡を作り、その鏡に自分の姿を写し、その姿を見て自分の欠点を知り、その欠点を修正して自分を成長させる、正にこの地球は自己完結型の学習道場なのです。この自己完結型学習道場は、自然の中にも応用されています。例えば、自己完結型農法もその一つです。

自己完結型農法とは、肥料は自分の身を使い、害虫から身を守るのも自分がし、タネも自分の残りダネを利用すると言った、正に自力の農法です。今地球で行われている農法では、農薬や化学肥料や改良されたタネなどが使われていますが、これは外側の力に依存している他力農法です。自己完結型農法では、雑草が生

えても害虫が付いても除草剤や農薬は一切使いません。また肥料も、昨年自分が残した茎や葉や周りの雑草を使います。それでは雑草にやられたり虫に食われたりするのではと思うかも知れませんが、雑草の中で競いながら育った種は強くなるので、一部分は虫に食われても全体には及ばないのです。ひ弱に育てるから、雑草にやられたり害虫に食われたりする弱い種になってしまうのです。今の農法は、強い種を弱い種に変えてしまっているのです。それは、楽に、早く、沢山、生産したいからです。楽に、早く、沢山、生産したい経済優先の社会では無理かも知れませんが、儲ける必要のない社会では、自己完結型農法でも十分にやってゆけるのです。

○「1」を知ることの大切さ

私たちは今現に存在しています。これだけは確かです。ということは、私たちは1であるということです。1であるということは、私たちは永遠であり無限であるということです。自分が1であると、心の底で解つたら、すべては自分ですからそこに敵対する相手は生まれません。それどころか、すべてのモノが愛おしくなり、抱きしめたくなります。不安も恐怖も一切なくなります。つまり、心は平安になるのです。

すべてが1であるという真理は、絶対宇宙と相対宇宙(表現宇宙)が一つであることを意味し、さらに神意

識と人間意識が一つであることを意味しているのです。だから、今相對宇宙の中にいながら絶對宇宙の中におり、今人間の思いでありながら神の思いでもあるのです。1はどこまでも1なのです。1の中には1しかないのです。

- 1しか無いから、境目がないのです。
- 1しか無いから、差別が無いのです。
- 1しか無いから、分けられないのです。
- 1しか無いから、誤魔化しようがないのです。
- 1しか無いから、平等なのです。
- 1しか無いから、真しきかないのです。
- 1しか無いから、善しきかないのです。
- 1しか無いから、美しきかないのです。
- 1しか無いから、完全しきかないのです。
- 1しか無いから、死がないのです。
- 1しか無いから、あなたは私であり私はあなたなのです。

- 1しか無いから、人は神であり神は人なのです。
- 1しか無いから、幸せしかないのです。

さらに、

- 1には限界が無いのです。
- 1には初めが無いのです。
- 1には終わりが無いのです。
- 1は永遠です。
- 1は壊しようが無いのです。
- 1は完全な美形です。

このように1は、完全であり真・善・美そのものなのです。その完全と真善美によって存在させられている私たちに、不完全も偽りも不善も醜さもありません。私たちは、どこまでも完全なのです。もし私たちが「1である！」と心の底で解ったら、一つの節目を超えたことになり、もうこの世の苦しみに悩まされることはなくなるでしょう。それどころか、永遠に尽きない永遠に色褪せない幸せの中に入れるでしょう。

どうか、自分が1であることを知ってください。

○「1」の中に全体が有り、全体の中に「1」が有る！

「神は1でありながら無限であり、無限でありながら1である」という真理は、「1の中に全体は有り、全体の中に1は有る」という真理と同じなのです。しかし、「全体の中に1は有り」ということは理解できても、「1の中に全体が有る」ということは、なかなか理解できないでしょう。でも、良く考えてみてください。1の中に全体がなくては、1は1であり得ないのです。なぜなら、1はすべてを含み持った元数だからです。つまり、1しか無いなら全体は1であり、また1しか無いなら1が全体なのは当たり前だからです。1しか無い宇宙において、この真理は絶対崩せないのです。

ゆえに、私は1です。1は私です。全体は私です。私は全体です。このことは、今は理解できないかも知れませんが、いずれ解る時がくるでしょう。

○人の心の汚れと社会の汚れ！

人の心の汚れは、まず、病気に現れます。次に、犯罪に現れます。そして、ゴミの多さに現れます。この原因は、物質主義にあるのです。人類が物に傾けば、病気が多くなり、争いが(犯罪・戦争)が多くなり、ゴミが多くなるのです。

私たちは、沢山の物が無くても生きてゆけるのです。しかし人間は、心の虚しさを物で満たそうとしますので、どうしても物質主義に傾いてしまうのです。今の社会を見てください！ 国が音頭を取って国民の欲望を膨らませ、経済成長させようとしているではありませんか。資本主義は、経済成長させなくては成り立たない仕組みですから、どうしてもそのような政策を取らなくてはならないのです。

資本主義経済はシロアリ経済です。シロアリは、自分の家が倒壊するまでトコトン食いつぶします。同じように資本主義経済も、地球資源をトコトン食いつぶしてしまうのです。地球環境の保護を訴えながら、経済を成長させなくてはならない矛盾にみな気付いているはずですが、でも、豊かな生活を望む人の欲望が、矛盾に目を背けさせているのです。このままシロアリ経済を続ければ、地球環境は持たないでしょう。それどころか、地球は灰色の星になってしまうでしょう。

何がゴミを多くさせているのか？ 何が人を物に縛り付けているのか？ 政治家も、科学者も、教育者も、勿論一般人も、分かっています。でも学びの友の皆さんは、分かっているはずですが、せめて分かっている私たちだけでも、気を付けて生きたいものです。

○私たちは永遠に夢を見続ける

今あなたが見ているもの感じているもの、それは本当に有るモノですか？ 無いものですか？ 本当に無いのです。本当に無いということは、夢を見ているようなものなのです。そうです。私たちは今夢を見ている真つ最中なのです。私たちは、永遠に夢から醒めることはないので。なぜなら、私たちは、永遠に夢の中に留まっていなければ存在できないからです。

今私たちは夢を見ているわけですが、その夢から目覚めたと思っても、それも夢なのです。また、その夢から目覚めたと思っても、それもまた夢なのです。例え自覚の境界線を超え神人になっても、神人になつた夢を見ているのです。なぜ、夢から醒めることができないのか？ それは、表現宇宙から永遠に出られないからです。夢を見続けている私たちがいるから、表現宇宙は存在できるのです。もし私たちが本当に夢から醒めたら、その瞬間に神人も表現宇宙も消えてしまうのです。

本源におられる神は、夢を見ないので。夢を見ないがゆえに、そこには何も無いのです。そんな何も無い宇宙では何の意味もないので、神は自分の意識を放射して夢を作つたのです。意識が夢を見ている時だけ、何かが有るのです。何かがある状態は、夢の状態なのです。

神は自分の意識を放射し、夢を見られる人間という生き物をお創りになりました。だから人間だけが、夢

を見られる特殊な能力を持っているのです。私たちは、始めから夢を見ていたし、今も見ているし、永遠に夢を見続けるのです。その夢は、節目を超えた神人でも永遠に見続けるのです。ただし、進化し少しずつ夢から覚めるにしたがって、苦しい夢から楽しい夢を見るようになります。神がこのような宇宙を創られたのは、永遠に尽きない永遠に色褪せない幸せの夢を永遠に見せるためです。

夢は大勢で見るものではありません。一人で見るものです。それは、私たちが主観宇宙の主だからです。ですから、自分だけ見る一種類の夢しか無いのです。主観宇宙の中から永遠に出られないのは、永遠に夢から醒めることがないからです。

※ 宇宙を頭(知識)で知ろうとしている人は、未だ魂の若い段階の人です。心(実感)で知ろうとしている人は、相当魂の熟した人です。

○ **本当の自分は観えないモノである。**

あなたは、本当の「自分」を観た事がありますか？ “私は毎日自分を見ています”、とあなたは言うかもしれませんが、その自分(肉体の自分)はニセモノの自分であって、実在している自分ではないのです。な

ぜなら、肉体の自分は必ず消えて無くなる自分だからです。

あなたは自分って言いますけど、「自分」って言葉ですね。言葉が自分を表しているわけではないのです。言葉の自身が自分を表しているのです。私たちは言葉に惑わされ、肉体の自分を本当の自分だと誤解しているのです。

この宇宙の真実は、観えないモノの中にあるのです。なぜなら、観えないモノが、生きていますからです。観えないモノが、実在しているからです。本当に生きているモノは、観えないのです。実在しているモノは、観えないのです。反対に、生きていない物(肉体)は、見えるのです。実在していない物は、見えるのです。もう一つ知って欲しいのは、生きているといふ意味は、意識を持っているといふ意味です。実在しているといふ意味は、意識を持っていているといふ意味です。ではそのことを踏まえ、本当の自分を考えてみましょう。本当の自分は、観えないのです。本当に生きているモノは、観えないからです。実在しているモノは、観えないからです。では観えないモノは、有限でしょうか？ 無限でしょうか？ 観えないモノは至るところにあるわけですから、観えないモノは無限です。ということは、本当の自分は無限であるということになります。

もう本当の自分が解かったと思えますが、更に念を押しして言いますと、神は観えません。生命も観えませ

ん。エネルギーも観えません。本当の自分も観えません。それは、生きているモノだからです。実在しているモノだからです。意識そのモノだからです。すべてのモノの本質は、観えない意識なのです。その意識を本当の自分は持っていますから、本当の自分は、「観えないモノである」というわけです。その観えないモノは無限ですから、本当の自分は無限であるというわけです。

このように本当の自分は観えませんが、観えなくては自分の存在がないので、見える物の中に入って自分を表現しているのです。石を自分の体として、花を自分の体として、鳥を自分の体として、人間を自分の体として、星を自分の体として、宇宙を自分の体として、……。ですからどんな体を持つとも、本当の自分は変わらないのです。

さあ、本当の自分が何なのか？ 再確認してください。

- ・ 本当の自分は、観えないモノです。
- ・ 本当の自分は、意識そのものです。

この自覚を深めてください。

※ 観えないモノが、本当にあるモノである。観えないモノが、実在するモノである、という意味の深さを

知ってください。その理解力の深さが、自覚を高めるのです。

○神を想えば、なぜ幸せになれるのか？

この宇宙で最上の波動は神です。神を想えばなぜ幸せになれるのか？ それは最上の波動の中に入れるからです。その波動に接触できるのは、私たちの想念だけです。想念は宇宙一の宝物なのです。想念は何でも創造する力を持っているからです。私たちの人生は、すべて想念が作ってきました。入学も、就職も、結婚も、みな自分の想念によって成就させたのです。その想念を使って神を想えば、幸せになれるのは当たり前なのです。何せ、これまで人生を作ってきた実績が証明しているのですからね・・・。

想念は原因です。成ったのは結果です。「原因と結果の法則」は科学的法則ですから、想念したことが成就するのは当然なのです。今あなたが苦しいのは、苦しいことに想念を使ってきたからです。誰もあなたを不幸にしているのです。あなたの想念が、あなたを不幸にしてきたのです。もし想念を良く使っていたら、今あなたは幸せになっているはずです。どうか、そのことに気付いてください。

と言っても、この世の良いことを思っても、この世の良いことしかやってきません。それでは、神を求めている人は満足できないでしょう。神を求めている人は、神を想ってください。原因と結果の法則が、間違

いなく神に近づけてくれます。つまり、神を想えば神と似たような性質になるので、欠点が無くなります。当然、業は消えます。何よりも、原子核が増えます。私たちは、こんな凄い想念を持っているのですから、利用しなくてはもったいないです。

私は今、もの凄いことを言っているのですよ！ 宇宙のどんな宝物を得たよりも、凄いことを言っているのですよ！ ぜひ、神の自覚を得るために想念を使ってください。神の自覚が得られたら、幸せの中に入れるのですから・・・。

※なぜ、神の自覚が得られたら幸せになれるのかと言いますと、神意識そのものが幸せそのものだからです。意識そのものは、幸せなのです。その同じ意識を私たちは持っているのですから、本来私たちも幸せそのものはずなのです。ただ私たちは、その意識を悪想念に変えているため幸せになれないだけです。それは、自分の事を人間だと思っているからです。自分が神だと思えば、神意識は幸せですから、幸せの中に入れるのです。

○私は神である！

真我意識(絶対宇宙)がすべての大本ですが、真我意識だけでは真我意識の存在がないので、真我意識は、自分を認めてくれる自我意識(相対宇宙)を創り、その意識を通して自分を認めてもらおうとしているのです。悲しいけれど、どんな偉大な能力を持っている真我意識でも、自分を認めてくれる自我意識が無くては、自分の存在が無いのです。また自我意識も、真我意識が無くては自分の存在が無いわけですから、厭でも真我意識を認めてやらなくてはならないのです。

「真我は自我を創って自分を認めてもらい、自我は真我に創られて真我を認めることによって自分を存在させている」、という不思議な関係にあるのが真我と自我の間柄なのです。言い換えれば、互いに足りない部分を補完し合いながら存在しているのが、真我意識(絶対宇宙)と自我意識(相対宇宙)の関係なのです。これは他人事ではなく、神と私たち(人間)の関係をのべているのです。

相手は、誰が創ったのでしょうか？ 自分ではありませんか。自分がいなかったら、相手はいないのでですよ！ また自分がいても、相手がいなかったら自分はいないのでですよ！ 認めてくれる相手が無かったら、認められるモノは無いのです。つまり、認めてくれる人間がいなかったら、認められる神は無いのです。また神がいなかったら、当然人間も存在しないのですから、神と人間は相身互いの関係にあるのです。ならば、

どうして人間は小さな存在なのでしょう？ 人間が、神を存在させているのですよ！ 人間がいなくては、神はいないのでしょ！ だから私は、「神と人間は同じ価値がある」というのです。

皆さん、自分を小さな存在にしないでください。「私は神である！」、と堂々と思ってください。

※ 真我(神)と自我(人間)が同じなのは、この宇宙に一つの意識しかないからです。「神が人間を生み、人間が神を認めることによって二つの自分が存在できる」この痛し痒しの滑稽さを解ってあげてください。

○ 拘りを捨てよう！

この宇宙に問題視すべき拘り事など、何一つ無いのです。私たちに苦しみが生まれるのは、拘るからです。拘るということは、不自由になるということです。限定されるということです。これでは、自由な魂が苦しむのも無理ありません。私たちの魂は、自由奔放な存在です。何でも想えるのです。何でも創れるのです。何でも出来るのです。何処へでも行けるのです。そんな自由な魂に、問題視すべき拘り事などあるわけがないのです。

今多くの人が、お金・地位・権力・人種・性別・あるいは勝敗や損得などの拘りを持つ事によって苦しんでいます。でもその拘り事は、人間社会が生み出した特有のモノで、絶対視すべき拘り事ではないのです。

特に、風習や慣習や俗習などの社会常識は、うまく立ち回れば回避できる拘り事です。

この世の社会常識って何ですか？ 風習って何ですか？ 慣習って何ですか？ 俗習って何ですか？ 絶対従わなくてはならない決まり事ですか？ 人の目さえ気にしなければ、どうでも良い拘り事ではありませんか？ これは、真理を知らないからです。つまり、自分の本性を知らないからです。真理を知らないとい、社会常識に従わなくてはならない錯覚に陥ってしまうのです。だから私は、真理を知って欲しいと願うのです。どうか、この世の拘り事を捨ててください。人間が拘っている事などは、つまらない事なのですから…。私たちが従わねばならない拘り事は、宇宙の法則です。これだけは拘ってください。

※ この世の社会常識に囚われると、柔軟な発想ができなくなります。これは、悟りの障害になります。良くよく注意したいものです。

○肯定語を使うことの大切さ！

あなたは、どうして否定語を使うのですか？ この宇宙に否定すべき事が一つだけありますか？ 「肯定語を使おう！」と私が言うのは、神が創られた完全な宇宙に否定すべきことは何も無いからです。どんな

事も良いことなのです。どんな事も有り難いことなのです。それは、神が完全だからです。その完全なる神が創られた宇宙を否定すれば、あなたは自分を否定することになるのです。なぜなら、あなたは神によって創造された神の子だからです。ですから、決して否定語を使つてはなりません。

このように言うと、「でも、悪があるこの世界で否定語を使わなくては会話になりませんよ。実際今あなたは、”決して否定語を使つてはなりません！”という否定語を使ったではありませんか？」と反論するかも知れません。確かに私は、否定語を使いました。でもこの場合の否定語は、悪を否定し善を肯定するための否定語ですから、肯定語になるのです。

確かにこの世界には、沢山の悪があるように見えます。例えば私たちは、ライオンが子鹿を襲う醜い姿を見せられます。また、病気や事件や事故や災害などで苦しむ人を見せられます。でもその悪は、本当に悪でしょうか？ いつも言うことですが、悪は善の裏返しなのです。悪は善たらしめるための悪ですから、それは悪ではなく善なのです。どんな悪も成長のために必要な悪ですから、みな善なのです。悪がなかったら、私たちに成長は無いのです。

否定語は波動が低く、肯定語は波動が高いのです。ですから否定語を使えば運命が悪くなり、肯定語を使えば運命が良くなるのです。どうか肯定語を多く使ってください。

※人の運命は、光の強さによって決まります。光が強ければ良い運命が、弱ければ悪い運命が・・・その光の強弱は、想念が握っているのです。ポジティブな想念を持てば、光は強くなります。ネガティブな想念を持てば、光は弱くなります。だから私は、肯定語を使いなさいというのです。肯定語は光を呼び、否定語は闇を呼ぶということです。

○神が難しいことをさせるわけがない！

どうして全能の神が、幼い子供たちに難しいことをさせるのでしょうか？ 神は、簡素・簡潔・単純・簡単なことが好きなのです。その良い例が、一番必要なモノほど私たちの身近に沢山置き、しかも簡単に手に入るようにしてくれている点です。例えば、一番必要な空気は回りに沢山あり、いつでも吸えます。水だって慈雨によって簡単に手に入ります。食べ物にしても、芋やカボチャやサンマやイワシなど、庶民的なモノほど手軽に沢山取れます。そんな神が、私たちに難しいことをさせるわけがないのです。そう考えると瞑想も、簡単にできるようにしてくれているはずですよ。

そうです。瞑想は、ただ自分の想念を使って神を想い続けることです。自分の想念は、自由意志で使えます。誰にも邪魔されません。どこに行く必要ありません。また、何の技術もいりません。勿論、お金もか

かりません。やる気になったら、いつでもできます。

瞑想を難しく説いている人は、瞑想を知らない人です。どうか、瞑想を難しく考えないでください。

※ 瞑想は、「私は神であった！」と心の底で思えるようになることです。この心の底で思えた意識状態を「自覚した！」というのです。ただし、どのような意識状態なのかは、人に教えることはできません。自覚は、味わった(体験した)当人しか解らないのです。だから、途中で諦めてしまう人が多いわけです、でも諦めず瞑想を続けていけば、必ず自覚できる時がきます。それは、原因と結果の法則が実現させてくれるからです。

いつも言うことですが、「私は神であった！」と知識的に知っただけでは駄目なのです。心の底で思えなくては、自分が変わらないのです。

私たちは、永遠の昔から神だったのです。これから神になるのではないのです。すでに神なのです。ただ記憶を失い、神だと思えなくなっているだけです。記憶を蘇らせるためには、瞑想するしかありません。瞑想し一定量の原子核が増えれば、自動的に「私は神であった！」と心の底で思えるようになるのです。その心の底で思えた意識状態を、「自覚の境界線を越えた」というのです。

瞑想は観念的なものではありません。現実的なものであり、実際のものであり、真実的なものです。瞑

想をお遊びでやっている人は、瞑想する資格はありません。どうか、真剣にやってください。「人生で一番大切なことは瞑想である!」、という自覚を持って瞑想に挑んでください。

○虚々実々の世界

「虚」とは見える物(物質)を意味し、「実」とは見えないモノ(意識)を意味します。「虚」の世界は、客観的見方をした時に現れる非真実で、「実」の世界は、主観的見方をした時に現れる真実です。客観的見方をすると外側に沢山の物が存在することになりますので、客観的見方をしている人は、外側の物が自分に害を与える錯覚に陥るでしょう。今地球人類は、その錯覚に陥り戦争までしているわけです。でも虚は実際に無い物ですから、本来「虚」が「虚」に害を与えることなどできないのです。つまり、「虚の他人」が「虚の自分(肉体)」に害を与えることなどできないのです。錯覚した実(思い)が虚を動かし、虚を害しているだけです。

本来この宇宙には、一つの「実」しかありません。つまり、一つの真実しかありません。それは、宇宙に意識は一つしかないからです。一つの意識しか無いから、すべてが自分になるのです。他人がいないので、敵対することも害し合うこともありません。

「虚」は光に映し出された影です。「実」は映し出している光です。影は光なしに生まれえないし、影なしに光の存在はありません。だから光と影は、同等の価値があるのです。でも、実際に有るのは光の方です。つまり、実(光)は永遠に存在する真実です。虚(影)は映されている時だけある非真実(幻)です。でも虚の体験無しに実が解らないので、私たちは虚の世界に出てきて実を解ろうとしているのです。それほど虚と実は、切っても切れない関係にあるのです。だから、物質を軽んじてもならないし、意識を軽んじてもならないのです。

※ あなたの残りの人生で、真理を求めること以外、何かやるべきことがありますか？ ないはずですが、それは、何がホンモノで何がニセモノか解ったからです。解っていない人は、真理から離れて行って良いのです。でも解った人なら、どうか真理を求め続けてください。もし解っていて真理から目を背けるなら、あなたは心穏やかに生きられないはずですよ。そんな心穏やかでない人生を、あなたは送りたいのですか？

神は一番必要なモノを身近に置いてくれています。私のウェブサイトもその一つです。さあ、私のウェブサイトで必要なものを受け取ってください。それはお金もかからない、何処へ行く必要もないのですから……。

○神の正体!?

神とは、いかなる存在でしょうか？ 神って一体何なのでしょう？ 神って何処にいますのでしょうか？ 神って？ 神って？ 神って？・・・さあ、神の正体に迫ってみましょう。

今まで神を見た者はいません。神は見えないのです。触れないのです。聞くことができないのです。味わうことができないのです。嗅ぐこともできないのです。神は、私たちの五感に感じられない存在だからです。ですから、神の側に行くことは永遠にできません。永遠に掴みようなない存在、永遠に知りようなない存在が、神なのです。

あえて言うなら、神とは意識です。意志です。意思です。理念です。知恵です。命です。光です。力(エネルギー)です。愛です。バランス(中庸)です。絶対善なる存在です。永遠不滅なる存在です。完全無欠なる存在です。無限無窮なる存在です。ゆえに、無限の発展性と、無限の可能性と、無限の創造性を秘めています。その神は、すべての創造物を創り、動かし、働かせ、生かしているのです。すべての創造物の背後におられるのが神なのです。その神のことを私たちは、生命とか、霊とか、呼んでいるわけですが、どんな言葉を使っても表しようのないのが神なのです。ではその表しようのない神を、どうすれば知ることができるのでしょうか？ それは「1」を知ることです。

神は、この宇宙に一樣しかおられません。一樣しかおられないがゆえに、すべては神なのです。「私は神である！ あなたは神である！ すべてのモノは神である！」と言えるのは、神が「私に」「あなたに」「すべてのモノに」なったからです。それは、神は「1」だからです。「一樣」だからです。ということは、「自分」を知れば神を知ることができるということです。覚者が「神を知るにはその子を知れば良い！」というのは、「自分」は「その子」だからです。つまり、神の分身だからです。

あなたは「自分！ 自分！」とよく言いますが、「自分」とは、「神」が「自」らを分けたのです。自分は神なのです。だから、自分を知れば神を知ることができるのです。神を知るこんな簡単な方法があったのです。でも人間は、誰も「自分」を神だと思っていません。それどころか、神を畏れ多い存在にして遠く離れています。神は、手よりも足よりも近くにおられるのです。「おい！」と言ったら、「はい！」とすぐに応えてくれるのが神なのです。

神の言葉が違うからと言って、神の取り合いをしてはなりません。言葉が神を表しているのではないのです。神の中身が神を表しているのです。ゼウスも、アラーも、キリストも、ブツタも、同じ神です。だから、宗教戦争などしてはならないのです。

※ 神が一（二様）なら、どんなモノも神であるはず。あなたの魂も神です。あなたの肉体も神です。神は完全ですから、あなたの魂も完全です。あなたの肉体も完全です。ですから、あなたの魂が迷うこともないし、病気になることもありません。

あなたが憎んでいる人も、嫌いな人も、厭なモノも、みな神です。だから決して嫌ってはなりません。嫌えば神を嫌うことになるからです。どうか、自分を愛してください。人を愛してください。すべてのモノを愛してください。できるなら、自分を神だと心の底で思えるようになってください。心の底で思えるようになって、もうあなたの所に病気や事故災難がやってくることはないでしょう。

○負けてはならない！

「サタン！ サタン！」とサタンを恐れる人がおりますが、実際にサタンがいるわけではありません。サタンとは、弱いあなたの心のことです。

具体的には、

「どうなってもいい！」という投げやりな心です。

「私なんか死んだ方がいい！」というステバチな心です。

「嫌だ！ 厭だ！」と逃げ回る心です。

「面倒くさい！」と煩わしがる心です。

これすべて、あなたの弱い心が作ったサタンです。そんな心になると体調不良になるので、ますます弱気になってしまいます。それに漬り込んでくるのが、周りの悪的波動

(サタン)です。サタンに漬りこまれると、本当の自分を見失ってしまいます。

肉欲に負けてはなりません。感情に負けてはなりません。外側の人の誘いに負けてはなりません。外側の現象(幻)に負けてはなりません。肉体なんて実際には無いのですよ！ この形の世界なんて実際には無いのですよ！ なのに無いものに惑わされ自分を見失うなど愚かです。

神はどうして私たちに、理性と知性を与えたと思いますか？ 欲望と感情を、知性と理性で制御するためではありませんか。それが使えないようでは、私たちは動物に成り下がってしまうのですよ！ 今の人類を見てください。殆どの人が欲望と感情に翻弄された生き方をしています。ということは今の人類は、動物とあまり変わらないということです。真理を学んでいる皆さんだけでも、万物の霊長として、欲望と感情に翻弄されない生き方をしてください。

※ 本当の私たちは、有るものです。なぜなら、私たちは、神の意識によって創られた心だからです。心は永遠に存在するのです。私たちは、肉体では無いのです。物質ではないのです。本当に有る心です。どうか心を強くしましょう。心を強くすれば、どんな誘惑にも勝てます。

心を強くすれば、

逃げなくなりませす。

苦難に負けなくなりませす。

忍耐力が増します。我慢強くなりませす。

少々の痛みや苦しみに負けなくなりませす。

積極的になりませす。

体を動かすことが楽しくなりませす。

明るくなりませす。

どんなことも良く受け取れるようになりませす。

夢と希望が持てるようになりませす。

辛抱強く瞑想できるようになりませす。

当然、サタンに負けなくなります。

心を強くする方法は、三つです。

一つは、社会体験です。

二つは、瞑想です。

三つは、思索です。

この三つをやれば間違いないく心は強くなります。なぜなら、原子核が増え、光(エネルギー)が強くなるからです。光(エネルギー)が強くなれば心も強くなるのです。闇や、弱みや、悩みや、病は、光の無い状態です。光が強くなれば、そんなモノは退散するしか無いのです。どうか原子核を増やし、弱気な心を蹴散らしてください。

○動くことの大切さ！

赤ちゃんが、楽しく這い回っています。子どもたちが、公園の砂場の遊具で遊んでいます。少年少女がスポーツを楽しんでいます。人間は若い時よく体を動かします。

自然界の生き物も同じように動いています。セミさんたちが、うるさく鳴いています。カエルさんたちが、

うるさく鳴いています。鳥さんたちが、うるさく囁いています。アリさんたちが、せわしく動いています。雀さんたちも、鳩さんたちも、何もかもがせわしく動いています。それも、短命な生き物ほど時間を惜しまず動いています。彼らは人間のように乗り物は使っていません。自分の体を使って動いています。彼らは、どうしてそのように健気に動くのでしょうか？ それは、命のある間にできるだけ原子核を増やしたいからです。私たち人間も見習いたいものです。

この表現宇宙で、動いていないものはありません。星雲も、恒星も、惑星も、衛星も、小惑星も、彗星も、流れ星も、みな動いています。地球の中においても、空気・水・土・原子など、動いています。物質を絶対零度に凍結しても、動きを止めることはありません。それは、原子核を増やしたいからです。「神は、動くことによって原子核が増えるよう仕組まれたのです。それを自然界は、私たちに教えてくれているのです。どうか動くことを嫌わなくてください。体の動かせない人は、想念を動かしてください。つまり、瞑想と思索をしてください。動けば動くほど原子核が増えるのですから……。

○すべては幻!?

この宇宙に存在するモノは、あなたの意識が認めなければ存在しません。今あなたが認識している、地球

も、自然も、人も、あなたが意識しなくなった途端に消えてしまうのです。なぜ意識しなくなった途端に消えてしまうかと言えば、あなたの意識が、そのモノを創っていたからです。あなたが意識している時はあるけれど、意識しなくなった途端に無くなってしまふということは、そのモノは本当に有ったからでしょうか？ 無かったからでしょうか？ 有ったとしたら、意識していた時だけ有ったのでしょうか？ 意識していない時も有ったのでしょうか？ 意識していない時も有ったとしたら、それを誰が証明してくれるのでしょうか？ 証明できないのではありませんか？ ということは、あなたの意識の中の現象にしか過ぎないということです。

外側に何かがあり、その何かは勝手に自分の意識の中に入ってきたように見えますが、外側の何かが自分の意識の中に勝手に入ってくることは絶対ありません。もしあるなら、結果(幻)が原因者(真実)の中に勝手に入ってきた事になり、この宇宙は逆さまになってしまいます。認識する前に何かが無い理由は、原因に先んじて結果が有るわけがないからです。認識した何かは、意識した時に生まれた結果なのです。結果が結果を生むことも、結果が原因を生むこともないのです。原因が先にあり、後に結果が生まれたのです。確かに私たちの目には、結果が先にあったように見えるかも知れません。でもその結果は、原因者の認識によって創られた結果なのです。あなたは、「私はそんなモノを作った覚えはない！」というかも知れませんが、あ

あなたが認識しなかったらそのモノは無いのですから、間違いないあなたが創ったのです。ではそのモノは、本当に有ったのでしょうか？ 無かったのでしょうか？

○幸せの要素？

私たちは、どうして幸せな気分になるのでしょうか？ 幸せの気分になる要素は、一体何なのでしょう？

- 目を喜ばした時？
- 耳を喜ばした時？
- 舌を喜ばした時？
- 鼻を喜ばした時？
- 肌を喜ばした時？
- 気持ちの良さ？
- 爽快感？
- 満足感？

- 充実感？
- 達成感？
- 楽しさ？
- 喜ばしさ？
- 嬉しさ？
- 自由感？
- 無限感？
- 永遠感？
- あこがれ？
- 希望？
- 夢？
- 滞りのなさ(循環)？
- 囚われのなさ？
- 拘りのなさ？

- 平安感？
- 平和感？
- 安堵感？
- 無限の可能性と発展性と創造性？
- 掴め得ないモノを永遠に追い求める喜び？

まだあるかもしれませんが、このような要素が幸福感を生み出しているのではないのでしょうか？ それは、これらの要素が心に光を呼び込むからです。私たちの心は、光に満たされれば、幸福を感じるようにできています。その意味では、幸せの要素はそのまま光の要素でもあるわけです。その光は、神ご自身ですから神そのものが、幸せの要素でもあるわけです。だから私たちは、神を想っている時、幸福感に満たされるのです。

光ほど大切なものではありません。光が多ければ幸せが・少なければ不幸が・これは宇宙の決まりごとなのです。人生万事光の量で決まるのです。光は、明るい人のところに寄ってきます。闇は暗い人のところに寄ってきます。どうか明るい人になってください。それは想念次第なのです。

※ 五官で感じる物は、みな現象であり幻です。なぜなら、必ず消えて無くなるからです。意識で感じるものは、永遠に無くなりません。それは真実だからです。ですから目で見る光は、消えて無くなる幻の光です。意識で観る光は、永遠に無くならない真実の光です。

太陽の光は、現象の光です。幽界の太陽の光も、現象の光です。オーラの光も、現象の光です。月の光も、星の光も、オーロラの光も、雷光も、虹の光も、電球の光も、現象の光です。また、まぶたの裏側で見えるキラキラした光も、ピカツとした光も、リング状の光も、現象の光です。だから光が見えたからと言って、喜ばないでください。私たちの目で見える光は、粗い波動の光だから目で見えるのです。

確かにどんな光も、真実(神)から来ていることは間違いありません。でもその光は、表現宇宙に降りてくると粗い光に変わってしまうのです。真実(神)の光は、そんな粗いものではないのです。何とも言えない穏やかな光です。心を溶かすような心地よい光です。朝日が部屋に差し込んできたような爽やかな光です。それは内的光です。自分自身が光るのです。ですから、真実の光に触れたら気持ちの良い状態になるのです。真実の光は、幸福の要素をすべて持っているため、真実の光に触れたら幸福感に満たされるのです。真実の光は、神の意識ですから神そのものであり幸福そのものなのです。

その真実の光は、心(意識)の目でしか観えません。観せてくれるのは、理解力です。理解力が増し自覚が

高まれば、自分の心(意識)の中に真実の光が観えてくるのです。その真実の光は、永遠に無くなりません。本モノは、決して無くならないのです。ニセモノは、無くなるのです。このように光には、現象の光と真実の光の二種類の光があるのです。どうか、正しい光の見極めをしてください。

※ 瞑想をしていて光やビジョンが見えたという人がおりますが、これは決して悪いことではないのです。たとえ現象の光やビジョンであっても、ホンモノの光を観るコツを掴むことにつながります。ただし、囚われてはなりません。多くの人が現象から抜け出せないのは、見える物に囚われてしまうからです。何でも体験することは良いことですが、目的を見失うようなことだけはしないでください。

○分業制を守っている宇宙

この宇宙は、きっちりとした分業制が敷かれています。覚者が単独行動しているのは、分業制の表れの一つです。覚者一人ひとり、自分の使命に徹しているのです。意識の世界においても分業制は守られています。つまり、真我意識は肉体(宇宙)を健康・健全へ引っ張る役割に徹し、自我意識は原子核(魂)を大きくする役割に徹しているのです。この分業制が守られている限り、私たちは一生健康でいられます。しかし残念なことに地球人類は、分業制を守っていないのです。殆どの人が、心配・恐怖・イライラ・怒り・憎し

み・恨み・とりこし苦勞など、様々な悪想念を肉体に介入させているのです。これでは、生命力は健全な働きをしてくれません。肉体のことは生命に任せたら良いのです。

あなたの身体の中で働いている生命力は、中途半端な力ではないのです。宇宙をも創造するくらいの偉大な力を秘めているのです。その生命力に委ねれば、肉体は活き活きと働くのです。もう健康食品もいりません。健康診断を受けに行く必要もありません。さあ、役割分担を守りましょう。

※ あなたの想念は、何でも創るのです。良いことも悪いことも・・・ならばその想念を、良いことに使ったらどうですか？ 悪いことに使っている人は、自分で自分の首を絞めているようなものです。どうか、想念を良いことに使ってください。

○思い通りに生きたら良い！

自分の思いに疑問を持ちながら生きている人がおりますが、あなたの思い通りに生きたら良いのです。なぜなら、人間は、今の自分の原子核の量に相応した生き方しかできないからです。つまり、今の原子核の量に相応した思いしか持てないし、話せないし、行動できないからです。あなたは、そうして今日まで自分の

人生を作ってきたのです。確かに、苦しいことや悲しいことがあったかも知れませんが、でもその苦しみや悲しみが、あなたを成長させてくれたのですから、あなたの生き方は正しかったのです。ですから、これからあなたへの思い通りに生きてください。ただし、今の自分に満足してはなりません。自分の思い通りに生きながらも、次の二つのことだけはやってください。一つは、今やるべきことを、真心を持ってやること、もう一つは、瞑想をすることです。この二つをやっていけば原子核が増えますので、自分の思い通りの生き方が高度になります。

神の創られた世界はうまく出来ているもので、自我の思いでどのような道を選び、どのような生き方をしても、みな良かったのです。皆さんは、そうして今日まで成長してきたわけですから、今苦しいからと言って失敗の人生だと思わないでください。この宇宙に失敗など無いのです。どんな生き様も成功です。なぜなら、必然しか無いからです。

※ そう思ったのも必然、そう話したのも必然、その行為も必然です。その生き方しかできないからです。しかし、それで成長して来られたのですからそれは良かったのです。宇宙が完全なのは、必然のすべてが進化成長に結びついているからです。

○起きた事から学ぶ！

人間社会では、何か事が起きると起こした人を探し出して罰します。それは二度と起こさずには困るからです。これは社会の秩序を保つためには必要なことです。でも人を罰することなど、天に任せておいたら良いのです。なぜなら、事を起こした人は原因と結果の法則によって裁かれるからです。大切なのは、人を罰することではなく起きた事から学ぶことです。

誰かが悪いことをしなければ、事は起こりません。事が起きなければ、何も体験はできません。それでは、個人も社会も成長できないのです。一般人は事の起こりに気を取られ、学ぶことを忘れていきます。大切なのは、起きた事から学び成長することです。だから私は、事の起こりなど、どうでも良いというのです。

繰り返し返します。大切なのは体験し学ぶことです。学べば必ず成長します。ということは、事を起こしてくれた人は、有り難い人だということです。ですから一般人は仕方ないにしても、皆さんは事を起こした人を責めないことです。事を起こしてくれたお陰で成長できたのですから、有り難いと思うことです。

※もし事を起こした人を責めるなら、宇宙を創造した神を責めなくてはなりません。神は厳しい表現世界を創ったのですから・・・。

○今をどう生きる!?

学びの友の中に、過去の人生を悔やんでいる人がいるようですが、あなたは今日まで出来ることを精一杯やって生きて来たのです。それは、その時そう思った事を実行したままでです。それは必然で良かったのです。確かに、苦しいことがあったかも知れませんが、でも、そのお陰で真理に出会えたのですから、今日までの人生は大成功だったのです。

過去の人生を振り返り自分を責めても、何の益にもなりません。大切なのは、今をどう生きるかです。どうか今を真理に生きてください。今 真理に生きたら過去の黒石は、すべて白石に変わるのですから・・・。過去を振り返ることは大切ですが、いつまでも囚われてはなりません。過去は糧にして、今に生きましよう！ 今に生きるとは、神を想うことです。

※ “私は真理を実践しているのに苦しみが無くならない！”という人がおられますが、それは、いまだに悪想念を使っているからです。苦しみは業の消えている姿ですから、悪想念の上塗りさえしなければ苦しみは無くなってゆくのです。でも苦しいことが来ると、どうしてもまた苦しい想念を使ってしまう。それがいつまでも苦しみの無くならない理由です。

悪想念を持たないためには、外側の現象に負けない強い心を育てる必要があります。難しいかも知れませんが、どうか強い心を育ててください。

強い心を育てる方法は、

嫌なことに挑戦することです。(できるだけ体を動かすようにする)
瞑想をすることです。

○自己開発の仕組み！

私たちは、神の分身ですからもともと自己開発能力が備わっているのです。それは、想念を持っているからです。でも、幼い時期にはそのことを知りませんので、想念を自己開発に使うとしません。だから地球人の殆どが、小さな能力に甘んじて生きているのです。皆さんは、そうであってはなりません。ぜひ、想念を使って自己開発してください。自己開発の仕組みは、次のようになっています。

時間の中で生きている私たちは、時々刻々と原子核を増やしています。原子核がある一定量に達すると、正しい指導者に出会うようになっていきますから、そこで原子核を増やす方法を学びます。学んで原子核が増えれば、宇宙の仕組みが理解できるようになります。

まず、①宇宙の法則が解ります。

次に、②想念の使い方が解ります。

そして、③瞑想の方法が解ります。

①②③を実践すれば、潜在していた能力が目覚めます。その能力を生活の中で試すと、"なるほど自分分は、このようなことが出来るのだ！"ということを知ります。自分の能力を拡大してゆけば、いずれ私たちは、様々な物を創造できるようになるでしょう。たとえば生き物を創造できるようになるでしょう。星を創造できるようになるでしょう。銀河を創造できるようになるでしょう。このように原子核を増やし、自分の能力を試しながら成長してゆくのが、自己開発の仕組みなのです。

地球人類は、自己開発できる偉大な想念を持ちながら使っていないのです。学びの友の皆さんは、自分の想念の偉大さを知ったわけですから、ぜひ自己開発に使って能力を拡大してください。

※自分の能力の可能性を追求しているのは、私たちのような瞑想している者だけです。瞑想は自己開発の最良の道具なのです。

○自分を無くすことは永遠にできない！

あなたは、自分を無くすことができますか？ 絶対できないはずですよ。なぜなら、自分が無ければ何も始まらないし、何もあり得ないからです。つまり、過去も無いし、今も無いし、未来も無いのです。親も子も兄弟も友達も無いのです。鉱物も植物も動物も何も無いのです。勿論、地球も宇宙ありません。自分という認識者がいなければ、認識される相手も、認識される宇宙も、あり得ないのです。それは自分が認識し、「相手を」「宇宙を」創っているからです。「私は相手を創った覚えなどない！ 宇宙を創った覚えなどない！」と言っても、自分が認識して相手を創り、自分が認識して宇宙を創っているわけですから、絶対否定できないのです。こう言えるのは、宇宙にたった一つのモノしか無いからです。そのたった一つのモノが自分でですから、創った覚えがなくても間違いなく自分が創ったのです。他に誰かがいるなら、誰かに頼んで創ってもらうことも可能でしょうが、自分しかないのですから自分が創るしかないのです。

あなたは、今 自分がいる事実を否定できますか？ 絶対否定できませんね。ということは、自分はたった一つのモノであるという証拠なのです。ゆえに、自分を無くすことは絶対できないのです。

※自分とは、神が「自」らを「分」けたと書きます。この自分は、絶対無くなりません。もし無くなるな

ら、神が無くなるからです。神は永遠不滅の存在ですから、神は絶対無くならないのです。ということは、自分も絶対無くならないということです。

○瞑想とは集中すること？

日本には、何々道という極めるべき道が沢山ありますが、この何々道という道は、想念を一つのこと(道)に集中するという意味で、瞑想のことを言っているのです。私たちが日々やっている社会体験も、想念を集中しなくてはできません。買い物をするときには、買い物に想念を集中してやっています。仕事をするときには、仕事に想念を集中してやっています。遊びに行くときには、遊びに想念を集中してやっています。その意味では、社会体験も、社会道という一つの道になるのです。

不動心を極めるために行われている、花道も、茶道も、剣道も、柔道も、想念を集中してやらねばできませんので、結局、瞑想の技術を磨いていることになるのです。

このように、社会体験も、道を極める何々道も、すべて瞑想の技術を磨いていることになるのです。

(家族体験も道の一つですから、家庭道になるでしょう。)

※瞑想とは・・・

一点から出てきた意識核を一点に帰す(集める)作業です。

一点から出てきた光を一点に帰す(集める)作業です。

一点から出てきた命を一点に帰す(集める)作業です。

それは、

宗教がするものではありません。

キリストがするものではありません。

釈迦がするものではありません。

外側の誰かが、何かが、するものではありません。

自分の想念がするのです。

それは自力です。自分しかないからです。ですからこの宇宙に、他力で何かを得ることは絶対ないのです。

○あなたは永遠の昔から存在していた！

今あなたは、自分の存在を感じていますね。どうして感じられるのですか？ それは、今あなたが存在し

ているからではありませんか？ 今あなたが存在していなければ、今あなたは自分を感じていないはずですよ。このことから言っても、今あなたが存在している事実は、否定しようがないのです。ということは、あなたは永遠の昔にも存在していたし、永遠の未来にも存在するという事です。なぜなら、今あなたが存在するのは過去にあなたがいたからであり、また未来にあなたがいるのも今あなたがいるからです。今あなたが存在していること自体が、永遠の過去にも存在していたし、永遠の未来にも存在する証しになっているのです。それは今のあなたの存在が、原因点となっているからです。

今あなたが存在しているのは結果です。今結果が有るということは、過去に原因が有ったからです。その過去の原因は、その前の原因の結果です。その結果は、その前の前の原因の結果です。このように、この原因と結果の輪廻は永遠に続くのです。では最初の原因は、いつどこから生まれたのでしょうか？ この宇宙は無限であり永遠ですから、最初がありません。ですから、原因があるわけがありません。ということは、あなたは原因無き原因者であるということです。

未来も同じです。今あなたが存在している結果は、すでに未来のあなたの存在の原因を作り、未来のあなたの存在の結果を生み出しています。その未来のあなたの存在の結果は、更にその未来の未来のあなたの存在の原因を作っています。このように、あなたが今存在していることが、未来永劫あなたを存在させること

になるのです。

もしあなたがいなければ、宇宙の存在も神の存在も認めてやれませんから、宇宙も神も存在できません。認める者が存在しなかったら、認められる者が存在しないのは当然だからです。審判員のいない試合は、成立しないのです。あなたは、審判員のような存在なのです。だから神が存在していた時には、すでにあなたは存在していたし、あなたが存在していた時には、すでに神も存在していたのです。ということは、あなたと神とは同格だということです。同格どころか、あなたは神そのものなのです。

※「誰の宇宙でも無い、自分の宇宙である！」というのは、自分の宇宙以外ないからです。だから誰の成長を願う必要もなければ、誰の幸せを願う必要もない！ただ自分の成長のみ考え生きたら良いのです。自分が成長すれば、自分の宇宙に登場するすべての者が成長するからです。それは、自分しかないからです。自分の宇宙に登場する役者さんは、自分が用意した自分なのです。

○「因果の法則」の存在

物理の法則の中に「作用と反作用の法則」があります。これは、「作用すれば必ず反作用が起こる」とい

う法則です。つまり、「原因を作れば必ず結果が生まれる」という「因果の法則(宇宙の法則)」と同じ法則です。ただし「作用と反作用の法則」は、物質世界にだけ働く法則ですが、「因果の法則」は物質世界にも意識世界にも働く法則なのです。物質世界で働く「作用と反作用の法則」は人の目に見えても、意識世界で働く「因果の法則」は人の目に見えませんが、実際に「因果の法則」が働いているかどうかは人には分かりません。だから科学者は、「因果の法則」の存在を認めようとしません。でも「因果の法則」は、目に見えなくても間違いないで働いているのです。その良い証拠が、この世に沢山の苦しみがあることです。「作用と反作用の法則」で言えば、今の苦しい状態は反作用を受けている状態で、それはその前に苦しくなる作用があった証です。「因果の法則」で言えば、今の苦しい状態は結果(反作用)を受けている状態で、それはその前に苦しくなる原因(作用)があった証です。

このように今苦しい状態があることが、「因果の法則」が働いている証なのです。もし「因果の法則」が働いていなかったら、今苦しい状態があるわけがありません。原因なしに結果だけがあるわけがないからです。どうしても「因果の法則」の信じられない人は、次のことを良く考えてみてください。

なぜ生まれたばかりの赤ちゃんが、苦しい目に遭うのか？
なぜ悪いことをしていない子供が、事件や事故に遭うのか？

なぜ罪もない子供たちが自然災害で死ぬのか？

なぜ健全な身体を持って生まれてくる人と、不健全な身体を持って生まれてくる人がいるのか？
なぜ豊かな国に生まれてくる人と、貧しい国に生まれてくる人がいるのか？

利口な人なら分かるはずですよ。

この「因果の法則」は、「必然性の法則やエネルギー均衡の法則」を支えている根本法則なのです。

○学びの再確認

何を学ぶのか？ なぜ学ばねばならないのか？ 復習を兼ね学びの再確認をしたいと思います。

一、学びの目的

まず、人生の目的を知ることです。私たちは、真理を学ぶために生まれてきたのです。

では、真理の何を学ぶのか？ ・ ・ ・ それは「自分が神である」ことを学ぶのです。

何のために学ぶのか？ ・ ・ ・ それは「自分は神であった！」と自覚するためです。

二、学びの手順

学びの目的は、神の自覚を得るためですが、それには神の色々な側面を知らねばなりません。その知識は、私の本と勉強会の動画から得てください。ここまでは、学びの初歩の段階です。

知識を得たら、実践に入ってください。実践することは二つあります。一つは社会体験ですが、これはすでにやっておりますから、あえて言うことはありません。もう一つは瞑想ですが、真理が言葉や文字で教えられないように、瞑想も言葉や文字で教えることができません。ですから、自分で自分なりの瞑想を開拓してください。瞑想そのものは、何も難しいことはありません。ただ、マントラを想えば良いだけです。そのマントラですが、できるだけ神の深みを持ったマントラを選んでください。マントラについては、本にも書いていますし動画でも語っておりますので、そこから知識を得てください。

学びの手順を確認しましょう。

社会体験すること。

神の側面を知ること。

マントラを選ぶこと。

マントラを想い続けること。つまり、瞑想することです。

三、瞑想の注意点

瞑想は作法や形ではありません。あくまでも意識状態です。形に囚われないでください。

瞑想を使ってやるのが瞑想です。瞑想は何でも実現させる力を持っていますから、瞑想を集中させ原子核を集めれば目的が叶うのです。

いつも集中できれば良いのですが、そうはいかないのが瞑念です。でも、想うことは歩いていても、座っていても、寝ていても、何をやっていてもできます。座ってやることだけが、瞑想でないことを知ってください。

瞑念は、同時に二つのことを想えないようにできています。これが瞑念の素晴らしいところです。なぜなら、瞑想している時は、悪いことは想えないからです。悪いことを想わなければ、悪い業を作りません。瞑想が素晴らしいのは、原子核を増やし、なお業を作らないという二つの益が得られることです。

以上、学びの再確認をしました。学びで必要なのは、続けることです。続ければ、必ず結果は得られます。これは因果の法則が保証してくれるので間違いありません。

※私が嬉しいのは、何でも思える、何でも出来る、何でも生み出せる、想念を持っていることです。もう一つ嬉しいのは、「やればやった分なる」という原因と結果の法則が働いてくれることです。この「想念」と「原因と結果の法則」がある限り、あなたの望みは必ず叶えられます。ただし、やり続けなければ叶えられません。これだけは言っておきます。

○見える物と見えないモノの学び

皆さんは一般人と違い、見えないモノが真実で、見える物は幻であることを知っています。さらに皆さんは、見える物は見えないモノから生まれ見えないモノに戻り、再び見える物に生まれる輪廻転生のことを知っています。しかし、科学者も一般人もそのことを認めません。だから科学者も一般人も、人間は死んだらお終だと思っているわけです。

見える物がいずれ見えなくなることは、科学者も一般人も知っています。ならば、見えないモノから見える物が生まれることを、認めなくてはならないはずですが、もし見える物から見える物が生まれるなら、見える物は永遠でなくてはならないからです。でも見える物は、必ず見えなくなるのです。ということは、見えないモノから見える物が生まれることに疑問の挟む余地はないはずですが、このように言うのは、この宇宙に

は見える物と見えないモノの二つのモノしかないからです。ならば見える物が生まれるには、見えないモノが見える物になるか、見える物が見える物になるしかないはずですが、でも前述したように、見える物から見える物が生まれることはあり得ないわけですから、見えないモノから見える物が生まれるしかないのです。ということ、見えないモノも見える物から生まれるしかないはずですが、「見えないモノも見える物から生まれるしかない」というのは、おかしいと思うかもしれませんが、見えない世界から見れば、見える物が見えなくなる変化は、見える物から見えないモノが生まれたように見えるのです。それは、見える物も見えないモノも、同じ一つのモノだからです。一つのモノが、見える物になったり見えないモノになったりしているだけです。その一つのモノを私は、意識と言ったり、エネルギーと言ったり、神と言ったりしているだけです。

※ 想った通りのものが帰ってくる。こんな単純で確かな法則はありません。「良いことを想ったら、良いことが帰ってくる。悪いことを想ったら、悪いことが帰ってくる。この世のことを想ったら、この世のことが帰ってくる。神を想ったら、神の原子核が帰ってくる。」単純にそれだけのことなのです。

○永遠に掴めない私(自分)の意識

私、私、私、私・・・と、自分の意識を追いかけ行ってみてください。どこまで追いかけても、自分の意識は掴めないはず。それは、自分の意識の源が分からないから。自分の意識の源が分からないということは、始まりも終わりも無いということになります。始まりも終わりも無いから、生まれた体験も死んだ体験も無いのです。

そうです。私たちは、今まで死んだこともなければ生まれたこともないのです。永遠に生き通しだったのです。だから死後のイメージも、生前のイメージも、持てないのです。

ある学びの友が、このようなことを言っていました。もし自分の意識の源が発見できたら、こんな怖ろしいことはないですね！”と・・・もし自分の意識の源が発見できたら、死ぬ自分を発見したことになりませんから、こんな怖ろしいことはありません。だから神は、どんなに「私、私、私、私・・・」と追いかけて行っても掴めない意識を私たちに与えたのです。

あなたは永遠に死にません。だから、安心して生きてきたら良いのです。

※原子核を増やす方法は、一に社会体験、二に瞑想だと言ってきました。一も二も、想念を動かしやって

いるわけですが、例えば体を動かさなくても、想念を動かせば原子核は増えるのです。私が「体を動かせば原子核が増えるから大いに体を動かしてください！」と言ってきたのは、その説明の方が分かりやすいからです。もし体を動かすことでしか原子核が増えないなら、体の不自由な人は原子核を増やせないことになりま
す。神はそのような不平等な仕組みを作るわけがないのです。

体を動かさなくても想念さえ動かしたら、原子核は間違いなく増えるのです。体を動かすことに囚われ過ぎて
いる人がいるようですので、ご注意申し上げます。

でも、やはり体はできるだけ動かしてください。重い体を動かすには、やろうという強い気持ちが必要で、
その強い気持ち（決意・決心）が、原子核を増やすのです。運動は家の中でも、家の周りでも、どこでも
できます。どこへ行く必要も、お金をかける必要も、ありません。神は、「簡単に手短に」原子核が増えるよ
うにしてくれているのです。

○すべて瞑想で解決できる！

今あなたの環境で起きているどんな問題も、すべて瞑想で解決できます。なぜなら、瞑想し原子核が増え
れば、理解力が増し、判断力が増し、先見の明ができ、知恵が増すからです。知恵が増せば、どんな難解な

問題も解決の道が開かれるのです。それだけではありません。病気・事件・事故・災難などの苦しみからも逃れられるし、過去の業も拭うことができるのです。

私たちは苦勞して自分の欠点を直そうとしますが、直す必要は無いのです。瞑想し原子核を増やせば良いのです。原子核が増えれば神の性格に近付いてゆくわけですから、欠点などはいつの間にか無くなってしまふのです。どうか瞑想してください。どんな問題も解決します。瞑想で解決できない問題など無いことを知ってください。神が完全なのは、瞑想によってすべて解決できるようにしてくれているからです。そのことを信じ、瞑想を続けてください。

※ 瞑想は、神が人類に与えてくれた最大の贈り物です。瞑想できることに感謝しましょう！

○幸せとは神のこと！

幸せとは神のことなのです。だから幸せな人は神です。不幸せな人は神ではありません。でも、その本性は神です。人間が苦しんでいる状態は、神から遠い状態なのです。人間社会に不幸せがあるということは、全く神と違う方向へ行っているということです。

神はこの宇宙に、幸せ以外何もお創りになっていないのです。なぜなら、神意識そのものが幸せの素材だからです。大宇宙は、その素材で満たされているのです。だから、この宇宙に幸せしかないことになり、神しかないことになるのです。なのに人間社会には、なぜか苦しいことが沢山あります。それは、自分が神の素材で創られた神だと思っていないからです。

皆さんは何が欲しいのですか？ 幸せ以外ないのではありませんか？ 今全人類が、幸せが欲しくて生きています。今 人類がやっていること全てが、幸せを得るための方弁なのです。お金も物も、幸せを得るための方弁です。地位も名誉も権力も、幸せを得るための方弁です。良い家庭を持つのも、幸せを得るための方弁です。山に登るのも、海に潜るのも、スポーツをするのも、絵を描くのも、音楽をやるのも、すべて幸せを得るための方弁です。でもそのことを知らない人間は、一生懸命汗水流して方弁のために生きているのです。方弁に走れば走るほど幸せから遠のくというのに・・・です。

※この世の物は、すべて非実在です。でも幸せは、実在なのです。たとえば、夢の中で味わっている幸せも、物を通して味わっている幸せも、どんな形で味わっている幸せも、実在なのです。それは、幸せそのものが実在だからです。つまり、味わっている意識そのものが、幸せの大元の神意識だからです。

すべての生き物が、幸せを求めて生きています。それは幸せだけが確かなモノだからです。だから、私の説いている真理も確かなモノなのです。

○必然が良いこと！

この宇宙に偶然が有ると思いますか？ もし偶然が有るなら、今宇宙は存在していないでしょう。ということは、今あなたも存在していないということです。今あなたが存在していること自体が、偶然の無い証なのです。それは、あなたそのものが必然の産物だからです。

どうか安心してください。この宇宙に必然しかなくことが分かったら、もう心が揺れることはありません。また起きていること全てが、有り難く受け取れるでしょう。あなたの前で起きている良いことも悪いことも必然であり、それはすべて進化成長に結びついている有り難いことだからです。

私が一番嬉しいのは、この宇宙がすべて必然によって運ばれている点です。必然によって運ばれているということは、なるべきになつていっているという意味ですから、起きていることはすべて良いことなのです。必然とは秩序があるという意味です。法則があるという意味です。整然としているという意味です。ですから、そこに悪いことの起こりようがないのです。ですから必然の世界は、善そのもの、正義そのもの、整

然そのもの、良いことだらけです。

反対に偶然とは、無秩序であるという意味です。法則が無いという意味です。無茶苦茶であるという意味です。そんな無茶苦茶な宇宙の中で、どうして安心して生きられるでしょうか？ 私たちが曲がりなりにも安心して生きられるのは、偶然の無いことを本能的に知っているからです。

必然しか無いと知っている人は、心穏やかになります。偶然が有ると思っている人は、不安だらけです。人生を苦しくしているのは、何事も偶然に起きると思い、不安・心配・恐怖の中で生きています。心穏やかに生きられるようになるためには、起きていくことすべてが必然であり、それはすべて良いことであると、どれほど信じられるかです。

必然が良いことである理由は、必然の背後に完全な法則が働いているからです。完全な法則の下では、悪いことは起こりようがないのです。法則の下で悪いことが起きるなら、宇宙はそく消滅してしまうからです。神は、魂を進化成長させるために表現宇宙を創造されたわけですから、あなたの周りで起きているどんなことも良いことなのは当たり前なのです。ですから、どんなに悪いように見えていることも良いことだと思ひ、決してネガティブにならないことです。

どうか必然を信じてください。あなたの人生を暗いモノにするか明るいモノにするかは、いかに必然を信

じられるかで決まるのですから・・・。

※ 必然が良いことなのは、私たちの先輩であるお釈迦様やイエス様や知花先生が、自分の思い通りに生きて自覚の境界線を超えられたこと、そして今も自分の思い通りに生きて進化の途を歩まれていることが証明しています。そんな確かな証拠があるのですから、あなたも自分の思い通りに生きていたら間違いなく自覚の境界線を超えられるのです。

○誰の責任!?

人から何か嫌なことを言われた途端に、“カーツ!”となる人がおりますが、誰が、“カーツ!”とさせただのでしょうか? 言った人でしょうか? 聞いた自分でしょうか? 聞いた自分が、“カーツ!”とさせただのです。“カーツ!”としたら自分の心が汚され、身体まで毒されるわけですから、こんな大損なことはありません。でも殆どの人が、大損なことをしているのです。

自分の宇宙(心)の管理者は自分自身です。嫌なものを自分の宇宙(心)に入れるか入れないかは、管理者である自分の自由意志で出来るのです。自分が入れなければ、自分の宇宙(心)に嫌なことは入ってこられない

のです。だから、すべて自己責任です。

日々の生活を良くするも悪くするも、人生を良くするも悪くするも、想念が握っているのです。それは、どんな想念を持つかで決まるのです。では、どんな想いを持っては良いのでしょうか？

それは・・・

楽しい思いです。

明るい思いです。

感謝の思いです。

ありがとうの思いです。

一番良い思いは、神を想うことです。神を想っている時は、日々の生活を良くし、人生を良くしています。物質(この世のこと)のことを想っている時は、日々の生活を悪くし、人生を悪くしています。無常の物を、無い物を、幻の物を、想(瞑想)うからそうなるのです。

目をつぶってやることだけが、瞑想ではありません。普段思っていることすべてが、瞑想なのです。私たちは今日まで、何気なく思っていたことで人生を作ってきたのです。それは、瞑想して人生を作ってきたという意味です。そのことを知らない人間は、思いたい放題のことをしては、事故 災難 病氣などを招い

て苦しい人生を送っているのです。

思いを軽んじることほど、大罪なことはありません。なぜなら、悪い思いが悪い思いを呼び込み、争い事を生み出してしまふからです。争いごとのすべてが、思いが原因で起きていることを知ってください。こんな重要なことを、まだ人類は気付いていないのです。

どうか、良い想念を持つよう心掛けてください。それは自分だけでなく、人類のためにも、地球のためにも、なるのですから・・・。

※皆さんのような熟した魂は、繊細な心を持っていますのでどうしても先読みしがちです。先読みは余計なことを考えるわけですから、これは良いことはありません。

先読みしないことです。つまり、こうなるのではないか？ ああなるのではないか？ と、まだなっていないことを先読みしないことです。また、人がこう思っているのではないか、ああ思っているのではないかと、余計な妄念を抱かないことです。

今あなたがやるべきことは、肉体を維持するために必要なことを真心を込めてやることです。そして余った時間を、瞑想に使うことです。

○自分の聖書を創ろう！

「人類の夜明3・真実はひとつ」の書は、真理の書としては最高傑作です。ただし、単に言葉や文字として受け取るなら、それは知識ですから心までは届きません。でも波動として受け取るなら、心の深いところまで届きます。

神は、夢の中でさえ真理を学べるようにしてくれているわけですから、「人類の夜明3」の書を単なる知識の書で終わらせるはずがありません。そうです。「人類の夜明3」の書の中には、天の想いが籠っているのです。ですから声に出して読めば響きの中から、文字に書けば形の中から、神の想いの波動を汲み取ることがができます。

私が皆さんにぜひお願いしたいのは、「人類の夜明3」の書を手書きして欲しいという願いです。難しいことはありません。ただ、「人類の夜明3」の書の中から、あなたの好きな言葉を選んで手書きすれば良いだけです。大切なのは、手書きすることです。多く手書きすればするほど天との通路が太くなりますので、天の想いが降りやすくなります。できたら、毎日書いてください。その手書きした真理をまとめれば、自分の座右のバイブルになります。

私のウェブサイトは真理の宝庫ですから、どこからでも真理の言葉を探し出すことができますが、特にお

勧めたいのは、「人類の夜明3・四五二ページ(神の独り言)」です。本をお持ちでない方は、当ウェブサイトの「神の独り言」をご覧ください。

学びの友の皆さんは、選ばれた天使です。天の光を地に降ろす使命があるのです。それは、瞑想と、真理の言葉を手書きすることで果たすことができるのです。これは凄いことなのです。

手書きの言葉の一例・・・

● 私は神！

神を・・・

遠くに探しに行つてはなりません

神は・・・

私の手より足よりも近くにおられるからです

また神を・・・

外に探しに行つてもなりません

神は・・・

私の中におられるからです

また神を・

神秘化してもなりません

神は・

何処にでもいるありふれたお方だからです

神は・・私です

私は・・神です

● 私は光!

私は光!・・私は光!・・私は光!・・

私は、光から生まれた光の子です。

私は・・眩しいまでに光り輝いています。

光!・・

光!・・

光！・・・光！・・・光！・・・光！・・・光！・・・
私は・・・幸せいっぱいです。

● 笑いの心！

ありがとう！ ありがたい！ の感謝の心
うれしい！ 楽しい！ の喜びの心

成せばなるぞ！ の希望の心
やってみようぞ！ の闘志の心

すごいなあ！ 素晴らしいなあ！ の感動の心
前進！ まい進！ のひるまぬ心

わはは！ あはは！ の笑いの心

● 神様ありがとう！

どんな辛いことも、全て善いことです！

どんな苦しいことも、全てありがたいことです！

それが・

進化成長に運んでくれる神の愛です

もう、ありがたくて！ ありがたくて！ 仕方がないので

神の愛が、あまりにも深く、高く、大き過ぎて・

” ありがとう！ “ の言葉しか出てこないのです

神様ありがとう！

本当の自分よありがとう！

○瞑想の特典

瞑想ほど大切なことはありません。瞑想は、何でも成就させる力を持っているからです。その事を踏まえ、瞑想の特典を考えてみることにしましょう。

◎自分の本性が自覚できるようになる。

求道の目的は、「自分は神であった！ 生命であった！ 光であった！ 意識であった！」と心の底で思えるようになることです。その境地は、瞑想し原子核が増えれば自動的になるのです。

◎業が解消される。業を作らない。

なぜ業を消し業を作らないかと言いますと、瞑想している時には悪いことが考えられないからです。不思議なことに瞑想し原子核が増えれば、段々と悪いこと(余計なこと)が考えられなくなるのです。悪いことを考えなければ業が作られないわけですから、原因と結果の法則によって穏やかな人生になるのです。

◎病気にもならず事故災難にも遭わない。

病気になるのも事故災難に遭うのも、光が少ないからです。瞑想し原子核が増えれば光が強くなるので、病気にもならないし事故災難にも遭わなくなるのです。

◎自分だけでなく、肉親や、親しい人たちや、死んだ人たちの進化に貢献できる。

瞑想し光を放てば、肉親や、親しい人や、幽界に帰った人たちの進化にも貢献できます。ある段階まで成長した幽界人は、死んで向こうへ帰っても真理を求め続けているのです。そのような魂は、真理を学んでいる人たちの動向を常に見ているのです。もし皆さんが、真剣に瞑想している姿を見せつけければ、彼らはき

と見習って瞑想するでしょう。例え迷っている幽界人であっても、瞑想して光っている姿を見せつけられ、何かを考えさせることができるでしょう。このように瞑想は、自分だけでなく周りの人たちにも、幽界人たちにも、影響を与えることができる大変意義あることなのです。

◎ 人類を、地球を、宇宙を、浄化することができます。

瞑想している時は光を放っています。その光は、人類をも、自然をも、地球をも、宇宙をも、浄化してくれるのです。

※ 瞑想すれば人生が好転するのは、この世のことを思わなくなったからです。「想念は実現の母」と言われるように、思ったことは何でも実現するのが想念の力です。その力を今まで皆さんは、この世の苦しいことに使ってきたのです。だから、苦しいことがやってきたのです。人生を良くしたかったら、想念が良いことに使うことです。良いことの一歩が、神を想うことなのです。どうかやってみてください。やってダメでも、もともとではありませんか？ やらないで嘘だと言わないでください。

※ 瞑想すれば、罪滅ぼしになります。瞑想するまでに進化したのは、過去生で犯した罪が学ばせてくれた

からです。罪を悔やんで自分を責める時間があるなら、瞑想してください。その時あなたは、罪滅ぼしをしているのですから……。

○愛し合うとは？

愛し合うとは、何を愛し合うのでしょうか？ 人を？ 何かを？ いいえ、愛し合うとは、自分を愛し合うことなのです。それも、外側の自分と内側の自分が愛し合うことなのです。自分の中には、二人の自分がいるのです。一人は真我の自分です。もう一人は自我の自分です。真我の自分が自我の自分を愛し、自我の自分が真我の自分を愛するのが、愛し合いなのです。私たちは、二人の自分を愛し合いながら成長してゆくの

外側の世界は幻の世界です。内側の世界は真実の世界です。ですから他愛は無いのです。あるのは自愛のみです。自愛しかできないのは、他人がいらないからです。世間では、「他愛ない！」という言葉をつまらない！”とか”しようもない！”という意味で使っていますが、他人がいらないのですから他愛ないのは当たり前です。自分しかいない世界に、他愛があるわけがありません。だから、自愛で良いのです。

では、真我の自分が自我の自分を愛し、自我の自分が真我の自分を愛する愛し合いは、どのような愛し方

なのででしょうか？ それは、いつも想い合うことです。いつも意識し合うことです。つまり、真我はいつも自我を想い(意識し)自我はいつも真我を想う(意識する)ことが、愛し合うことなのです。この愛し合いは瞑想を意味し、自覚の境界線を超えても永遠に続けられるべきものなのです。

○必然の素晴らしさ！

神は完全です。その完全な神が、意味なく何かを起こすはずがありません。起きたことは、みな意味のある必然なのです。その必然は、すべて良いことなのです。それは、そのことしか起きようがなくて起きていくからです。完全な神が、そのことしか起きようがなくて起こしているのですから、それが必然で良いことなのは当然ではありませんか？ 神が不完全なら、偶然に悪いことが起きても仕方ありません。でも神は完全ですから、良い必然しか起きようがないのです。何かが起きたのは必要あって起きた必然で、そのことが起きることによって進化成長できるからです。ある学びの友が、こんなことを言っていました。「偶然で起きた悪いことは嫌なことですが、必然で起きた悪いことは良いことですわねー」と・・・。必然しかないので、起きたことが良いことなのは当然です。

起きたことは結果です。結果が生まれて、はじめて起きたことの意味が分かるのです。結果が生まれな

つたら、起きたことが良かったか悪かったか分かるはずがありません。それでは学べないのです。

どんな悪しきことも良いことだと言えるのは、どんな悪しきことも進化成長させてくれるからです。この宇宙には、良い水しか無いのです。川から水を汲んでも、井戸から水をくんでも、海から水を汲んでも、みな良い水なのです。その人には不利益な水に見えても、その不利益な水は利益の水につながっているのですから、不利益な水など無いのです。それは、一つの神の水しか無いからです。これが、何が起きても必然で良いことだという意味です。

神がどうして悪と考えることを、人類に許しているのでしょうか？ それは、自我の思いが必然で、その思いで起きた悪いことがすべて良いことだからです。銃を作るのも必然、銃で脅すのも必然、銃で傷つくのも必然、銃で殺されるのも必然です。神は、こんな理不尽なことまで許しているのです。それは、幼い魂を成長させるために必要なプロセスだからです。だから私は、核爆弾を作ることも、使用することも、肯定はしないけれど、否定もしないのです。今地球上にある悪と思われる物・人・環境は、正しい道に乗せるために必要な諸悪であり、みな必然が用意した良いことなのです。この宇宙は、善と悪・光と闇が互いに支え合いながら、進化成長するようにできています。悪はないのです。闇は無いのです。すべて善であり、すべて光なのです。

※あなたに起きたどんな出来事も、すべて良き必然だと思ってください。例えば、事故に遭った・蚊に刺された・足をくじいた・人に騙された・試験に落ちた・確かに現象面だけ見たら良いとは思えません。でも「風が吹けば桶屋が儲かる」の譬えのように、すべて自分を成長させる良いことにつながっているのです。確かに、苦しいでしょう！辛いでしょ！煩わしいでしょう！腹立たしいでしょう！でも、その厳しいことを乗り越えれば、大きく原子核を増やすことができます。

苦しいことを回避しようとする自己防衛は、進化成長を妨げる矛盾です。どうか、苦しいことから逃げないでください。果敢に挑戦し乗り越えてください。

○結果が教えてくれる！

自分の欠点も、自分が克服しなければならぬ課題も、自分の存在さえも、結果が教えてくれます。私はいつも言います。

「相手(結果体)がどうしているのですか？ それは、自分(原因者)がいるからではありませんか？ 自分(原因者)がいなければ、相手(結果体)はいないのでしょ！なぜなら、自分がいるから相手関係が生まれるのであって、自分がいなければ相手関係が生まれるわけがないからです。ということは、相手は自分が連れて

きた自分であるということ、つまり自分が創った自分であるということです。そう断言できるのは、相手(結果体)の中に素材である自分(原因者)がいるからです。」と・・・。

このように自分(原因者)が相手(結果体)を創り、相手(結果体)が自分(原因者)を創っているのです。自分(原因者)の存在さえも相手(結果)が教えてくれるというのは、見える相手(結果体)が見えない自分(原因者)を教えてくるからです。ですから、見える結果体が存在しなかったら、私たちは永久に自分(原因者)の存在が分からないのです。これは、自分(原因者)と相手(結果体)が一つだからです。同じだからです。

しかし一般人は、原因者と結果体との関係を認めようとしません。だから彼らは、過ちが見付けられないので余り成長できないのです。でも学びの友の皆さんは認めていますから、過ちを正して成長できるのです。皆さんにとって結果体は、本当にありがたい存在なのです。

「結果が見えて肌で感じられること(痛いこと・苦しいこと・悲しいこと)は素晴らしいことですね!」とある学びの友が言っていました。正にそのとおりです。もし結果が見えなかったら、私たちは過ちを正そうとしませんか、永久に成長できないでしょう。というより、自分の存在さえも分からないのですから宇宙の迷い子です。見えて肌で感じられる肉体(結果体)があるから、私たちは自分(原因者)の存在を知ることができるのです。

では、原因者とは何でしょうか？ それは、私たちの意識です。肉体は結果体なのです。もし結果体(肉体)が見えず肌で感じられなかったら、私たちは自分(意識)の存在を永久に知ることはできません。だから私は、自分(意識)の存在を教えてください。結果(肉体)はありがたい！ 自分の過ちを教えてください。結果(起きたこと)はありがたい！というのです。

科学者も誰もが、先に物(表現宇宙)があつてそれを私たちは見ていると思つています。でもそれでは、原因と結果が逆さまになってしまい宇宙は存在できません。あくまでも先に原因があつて、後に結果が生まれるのです。原因なしに結果が生まれるわけがないのです。私たちの意識が原因ですから、私たちの意識(原因)が物(結果・表現宇宙)を創り、私たちの意識がその物(結果・表現宇宙)を見て感じているのです。だから私たちの意識が、宇宙を創っていることになるのです。でもその意識の存在は、見える結果体がなくは分らないのです。例えば私たちの意識があつても、見える結果体がなくは証明してくれるものが無いわけですから、私たちの意識は無きに等しいのです。結果体が証明してくれるから、私たちの意識の存在が可能なのです。ということ、結果と原因は対等だということです。同格だということです。

原因と結果の関係は、表裏の関係にあるのです。裏(原因)がなければ表(結果)は無いし、表(結果)がなければ裏(原因)も無いのです。両方あつて「ソノモノ」が存在できるのです。だから、結果体は原因者そのもの

であり、原因者は結果体そのものであると言えるのです。でも実際にあるのは、あくまでも原因者の方です。これだけは絶対に譲れません。譲ったら両方が消えてしまうからです。どうか、結果が過ちを教えてください、結果が自分(原因者)の存在を教えてください、「原因と結果の法則」に感謝しましょう。

○永遠に神を知ることができない!?

神は永遠に知ることができません。その永遠に知ることのできない神が、今私の中にいるのです。だから、私も永遠に知ることができないのです。でも、それで良いのです。もし知ることができたら、それは神でなくなるし、私でもなくなるからです。

神は無限なのです。そんな神を、どうして知ることができましょうか？ もし知れたら、それは有限の神になってしまいます。有限ということは、終りがあるという意味ですから、それでは神でなくなってしまう。

神には終わりが無いのです。終わりが無いから始まりもないのです。終わりも始まりも無い存在を、どうして知ることができましょうか？ 始まりがあり終わりがあれば、引つ掛かりがあるので爪でメクルことができますが、引つ掛かりがないので爪でメクルことができないのです。神は、まっ平らなのです。 ”何だ！

神って永遠に知ることができないのか!?”と、ガツカリしないでください。神は知ることができます。永遠に神を知ることができないと知ったことが、神を知ったことになるからです。そのことを今、あなたは知ったのです。ということは、あなたは今神を知ったということです。

永遠に知ることができないのが、神の証なのです。永遠に知ることができないのが、私の証なのです。

○言葉は神なりき！

この宇宙で最も確かなことは

神のみが語れるという事実です

ならば・・・

言葉を語れるあなたは

神ではありませんか？

あなたは先ほど

友たちと語り合いましたね

本当に友たちと語り合ったのでしょうか？

いいえ、

あなたは神と語り合ったのです

神であるあなたが・・

神である友たちと語り合ったのです

なのにあなたは・・・

人が語っていると誤解しています

これは神に対して失礼です

あなたは先ほど・・

自分のことを人間だと言いましたね！

これも神に対する冒瀆です

これでは神様から・・

「あなたは嘘をついていますよ！」

といわれても仕方ありません

どうか

言葉を盗まないでください

どうか

嘘をつかないでください

あなたは間違いなく神なのですから・・

※「身・口・意」は三位一体です。口(言葉)は、三位一体の真ん中に位置します。ですから、口(言葉)は神人に当てはまります。

(人⇨神人⇨神)・・三位一体

神は・・意です。

神人は・・言葉です。

人は・・行為です。

言葉(神人)は、神の意と人間の行為が合わさった状態なのです。

※ 自覚の味を知らない者が、真理を語る資格はありません。また自覚の味を知らない者が、瞑想を教えることもできません。

※ 「真理(宇宙)を知った!」という人は、何も知らない人です。「真理(宇宙)は知れない!」という人は、何かを知った人です。その人は、謙虚になります。それは、謙虚にならざるを得ない真理の深みを知ったからです。

○意識はアナログ

私たちは、意識を持っています。その意識は、前後のつながりを持っているアナログ的な意識です。アナログ的意識だから、自分が何なのか分かるのです。もしデジタル的（ぶつ切りの）意識だったら、前後のつながりがないので、自分の存在も、妻子の存在も、表現宇宙の存在も分かりません。それでは、表現宇宙に何も物語が生まれません。意識がアナログ的であるということが、自分の存在と宇宙の存在を確かなものにし、究極の幸せを生み出してくれているのです。

安心してください。自分の意識は、絶対無くなりません。こんな幸せなことはありませんか？ いや、こんな苦しいことがありますでしょうか？ というべきでしょうか？ なぜなら、意識があるから苦しむからです。でも意識がなかったら、苦しみも体験できないけれど幸せも体験できないのです。

あなたは、幸せが欲しくないのですか？ 「苦しまないで済むなら幸せなどいららない！ 意識などいらない！」というのですか？ でも、どんなにいららないと言ったところで、自分の意識は絶対なくなるらないのです。それは、意識がアナログ的だからです。

永遠の意識を持つことが苦しいと思えば、苦しいのです。永遠の意識を持つことが楽しいと思えば、楽しいのです。それは、意識の使い方次第なのです。どうせ無くせない意識なら、楽しいことに意識を使ったら

どうでしょうか？

学びの最終目標が意識(想念)のコントロールであると言われるのは、使い方次第で幸せな宇宙にも不幸せな宇宙にもできるからです。

※意識は絶対実在です。意識がなかったら何も生まれませんから、意識が絶対実在であることは間違ありません。では、意識って何でしょうか？意識は何処から来るのでしょうか？意識の源は何でしょうか？意識を生み出しているのは何でしょうか？どうして意識が有るのでしょうか？

意識を意識している意識、その意識を意識している意識、そのまた意識を意識している意識、どんなに意識を探っても意識の源は分かりません。一体意識の正体は、何なのでしょう？

意識が意識して意識を生み出している。意識の生みの親は意識なのです。意識が原因者であるという意味です。でも、意識された意識は結果です。その意識が意識した意識も結果です。その結果は、原因者が生み出しているはずですが、その原因者である意識も結果です。ということは、依然として意識の正体は解らないのです。

どんなに探っても解らないのが意識なのです。解らない意識を探るほど愚かなことはありません。でも、

意識とはそういうモノである、ということだけは知っておいてください。

○拘っては(囚われては)ならない！

何事も「拘ってはならない！」と言われるのは、この世は腰掛けの世界だからです。腰掛けの世界に、こう、あるべきだ！ ああ、あるべきだ！”と言った、拘り事などあるわけがないのです。折り紙の「騙し船」のように、こちらを掴んでいたつもりがいつの間にか別な所を掴まされているのが、腰掛けの世界なのです。

良いではありませんか？ どんなに器量が悪くても、どんなに頭が悪くても、どんな学校を出ていても、どんな仕事に就いていても、どんな小さな家に住んでいても、すべて魂を大きくするための方便なのですから・・・。どんなにお金や地位や名誉や権力を持っていても、どんな素晴らしい家族を持っていても、死ねばみな置いて帰らねばならないのですよ。そんなモノのために拘って、悩み苦しむなど愚かです。

賢い人は、持って帰れるモノのために生きます。持って帰れるモノとは、唯一原子核(魂)です。

※ 勝敗に拘って成績を落としているアスリートがありますが、拘れば光を閉ざすので成績が悪くなるので

す。競技を楽しんでください。楽しめば光が入ってくるので、成績が良くなります。求道の旅も同じです。「ねばならない！」と言った拘りを持って真理を求めると苦しくなります。どうか、楽しみながら真理を求めてください。

○本当の私の意識（神人の意識）

真我意識は、真我意識だけでは存在できません。もう一つの意識があつて、はじめて真我意識が存在できるのです。もう一つの意識とは、自我意識のことです。真我意識と自我意識は同じ一つの意識ではありませんが、別けなければ客観的見方ができないため、真我意識を別けたのです。別けて初めて、真我意識が存在できるとなったのです。自我意識が存在しなかつたら、たとえ真我意識が存在していたとしても、存在していないのと同じなのです。なぜなら、認める意識がなければ、認められる意識は存在できないからです。このように自我意識と真我意識は、相身互いの関係にあるのです。どちらが存在しなくても、どちらも存在できないということです。これは、次のような例えで示せるでしょう。

「雑巾」には表と裏がありますが、この段階では雑巾は存在していません。表だけの雑巾もなければ、裏だけの雑巾も無いという意味です。「雑巾」は、表と裏があつてはじめて「雑巾」として存在できるので

す。意識も同じように、表の意識(自我意識)と裏の意識(真我意識)があつて、はじめて本当の私(神人の意識)が存在できるのです。「雑巾」とは、「神人の意識」のことです。すなわち、本当に有る意識のことです。「神は絶対有るモノ・人間は無い物・神人は本当に有るモノです。」

※あなたは今まで、一度も自分の意識から離れたことがないのです。ということは、あなたは今まで自分の意識に監視されてきたということです。だからあなたは、自分を偽ると苦しくなるのです。自分の意識から離れたことがないのは、自分の意識は二つであり一つだからです。

○真心(真剣にやる)を込めてやる!

神の心は、真心です。神は、その真心を使ってこの表現宇宙を創造されました。その神と同じ心を持っているのが私たちですから、真心を使ってやれば成し得ないことは(不可能なこと)は無いのです。私はやっているけれど何も変わらないという人は、真心の込め方が足りないからです。つまり、真剣さが足りないからです。真剣さの中には動機も含まれていますから、不順な動機でやっていないかも顧みてください。これは、家庭生活においても、社会生活においても、真理を求めることにおいても、言えることです。特に真理を求

めることにおいては、真剣さと動機が大切です。あなたは、真剣にしかも純粋な動機で真理を求めていますか？ 片手間で、この世のご利益が欲しくて真理を求めていますか？

神はあなたの中におられるのですから、どれほど真剣にやっているかはご存知なのです。どうか神が納得するような、真剣さと動機を持ってやってください。そうすれば、必ずあなたは変わります。あなたの周りの環境も良くなります。勿論、健康にもなります。そうすれば、真理も求めやすくなります。もうあなたの前に、何の障害物も置かれないでしょう。

※「ただ、やりたいからやる！」というのが極上の動機です。でもそれでは、目的が見えないので力が入らないでしょうから、原子核が有る大きさに達するまでは、「世のため人のためにやる！ 原子核を増やすためにやる！」という動機でやってください。

○神人とは？

悪を知らない赤ちゃんは、確かに善人かも知れませんが、でもそれでは、真の善人とは言えないのです。なぜなら、体験のない善人だからです。真の善人とは、悪の苦味を体験して善の尊さを知った人です。同じよ

うに、この世の苦味を知らない無垢な神では、神人にはなれないのです。この世の苦味を知った人間が神に目覚めた時、神人になれるのです。ですから、どうしても人間として生まれ、この世の苦味(悪)を体験する必要があるのです。

私たちは、間違いなく神です。でも、体験途中の神なのです。体験を深めれば心の底で神(本当の自分)を知るので、神人になれるのです。

※ 神を説明する言葉は、この宇宙にはありません。でも、近い言葉ならあります。それは、意識です。生命です。光です。魂です。本質です。一です。○です。しかし、それでも依然として説明し切れていません。でも、それで良いのです。説明し切れたら、神は有限の存在になってしまうからです。

○自分の意識が変われば(世界・宇宙)は変わる

世界を変えたいと言ってデモをする人がおりますが、そんな人騒がせなことをしなくても、自分の意識を変えれば世界は変わるのです。こう言うことです。

私たちが日々見て感じている世界は、理解力の高さによって見ているモノが違ってくる世界です。すか

ら同じ世界を見ているようで、人それぞれ見ているモノが違っているのです。原子核が大きくなり理解力が高まれば、自分の意識に変化が起きてきます。そうすると、今までの見方が変わり、感じ方が変わり、受け取り方が変わり、納得の仕方が変わってくるのです。例えば、今まで憎んでいた相手や厳しく思えた環境が、なぜか憎めなくなり、なぜか厳しく思えなくなるのです。それどころか反対に、愛おしい相手に見え、穏やかな環境に見えるのです。それが、自分の意識を変えれば、世界が変わるという意味なのです。それで良いではありませんか？ 自分の心が穏やかになることが、大切なのですから・・・。

「人を変えたい！ 環境を変えたい！」と、悩まないでください。原子核を大きくしたら自分が変わるのですから・・・。

※・外側の何かの世界を作っていると思っている人たちは、その何かを発見しようと様々なモノを研究します。科学者たちが、この部類に入ります。

・外側の人が世界を作っていると思っている人たちは、その人を変えようとデモって歩きます。お金や物や権力を信仰する一般人が、この部類に入ります。

・外側の神秘的な何かの世界を作っていると思っている人たちは、自然を拝んだり、覚者を拝んだり、仏像

を拝んだりします。信仰心持つ一般人が、この部類に入ります。

・内側の何(神)かが世界を創っていると思っている人たちは、真理を追求します。求道者がこの部類に入ります。でも殆どの求道者たちは、外側に何(神)があると思いいちがひしていますので、インドに行ったりヒマラヤに行ったりします。

・皆さんのように、自分の想念が世界を創っていると思っている人たちは、自分の意識を変えようと瞑想しますから、外側に出て行くようなことはしません。

※ 宇宙の法則から言って、内側(魂・原子核)が変われば外側(人・環境)が変わるのは当然です。しかし、今の地球は波動が粗いので変わるには時間がかかります。でも根気よく内側を変えてゆけば、必ず外側は変わります。

内側を変える方法は、社会体験と瞑想です。この二つのことをやれば、原子核が大きくなるので自分の意識が変わります。自分の意識が変われば、外側の環境も変わってくるのです。

○イモをあざ笑うものはイモに泣く

この世には、イモ人間だとか！イモ野郎だとか！イモ侍だとか！イモ姉ちゃんだとか！芋をあざ笑う言葉がありますが、「イモをあざ笑う者はイモに泣く」のです。こんな話があります。

ある国にコメの栽培を奨励する殿様と、イモの栽培を奨励する殿様がおりました。コメの栽培を奨励する殿様は、イモの栽培を奨励する殿様を「バカな殿様だ！」とあざ笑っていました。ある年、その地域に干ばつが襲いました。稲は干ばつに弱いので、米作りを奨励していた国では、ほとんどコメが取れませんでした。ですからその国では、多くの餓死者を出しました。一方、イモは干ばつに強いので、イモの栽培を奨励していた国では、一人の餓死者も出ませんでした。

「イモ」は、どんな荒れ地でも採れるありふれたものです。「想念」も、誰でも持っているありふれたものです。でもそのありふれた想念が、人生を良くも悪くもするのです。想念を軽んじて使っている者は、必ず痛い目に遭います。それが、「想念(イモ)をあざ笑う者は想念(イモ)に泣く」という意味です。

私はイモが大好きです。イモさえあれば、他に何もいりません。つまり、想念さえあれば、他に何もいりません。人生は、想念次第なのです。想念さえあれば、人生はいかようにもなるのです。

皆さんは、想念の凄さ、想念の偉大さが、まだ解っていません。この表現世界で最も大切なモノは、家族

でも、仕事でも、地位でも、権力でも、お金でも、宝石でも、ありません。想念です。どうか、想念を重んじてください。

※ 外側のモノに頼らないでください。内側の想念に頼ってください。神仏や、親や、友達や、先生や、薬や、医者や、お金や、権力に頼っても、それは外側頼り(他力)ですから成就しません。想念は内側頼り(自力)ですから間違いなく成就するのです。

○自分の存在

自分が存在している証は、今自分と「思」える意識を持つていることです。今自分と「思」える意識を持つていることが、自分の存在を証明しているのです。ではその自分と思える意識は、何処から来たのでしょうか？それが謎なのです。どんなに探しても解らないのが、自分の意識なのです。でも、解らなくて良いのです。解ったら自分が消えてしまうからです。

求道者の目的は、解かりようのない「意識」の謎を永遠に探っていくことです。解かりようのない「意識」の謎を探っていくことに、どんな意味があるのかと思われるでしょうが、探っていくには「意識」の謎の一部

分が解かり、解った分、新鮮な幸せが得られるからです。

私たちが欲しているのは、永遠に尽きない永遠に色あせない新鮮味のある幸せです。その幸せは、意識の謎(宇宙の謎)が解ったら解った分、得られるようになっていくのです。だから私たちは、解かりようのない意識の謎(宇宙の謎)を、永遠に探って行く必要があるのです。

※ 自分の意識を無くすことは絶対できません。どんなに無くしたいと思っても、無くすことができないのが自分の意識なのです。なぜなら、今、自分と思っているからです。

自分の意識の永遠性は、今、自分の意識が存在していることが証明しているのです。

※「自分の意識が無かったらどんなに幸せか？」と思うかも知れませんが、自分の意識が無かったらその「幸せ」さえ味わうことができないのですから、そんな思いを持つこと自体無意味なのです。

「真剣に・純粹に」真理を求めている者を、神は決して悪いようにはしません。

○心の絵の展示場

マラソンで二時間一分台の新記録を出した選手が、優勝後のインタビューの中でこんなことを言っていました。「マインドが記録を作った！」と・・・真理をどれほど知っていたかは分かりませんが、走ったのは肉体ではなく心だと彼は言いたかったのでしょうか。

今の地球人類は、身体が何かをやっていると思っています。でも、すべて心(想念)がやっているのです。心(想念)がなかったら、指一本動かすことができないのです。心(想念)がご主人様で、身体は下僕なのです。下僕ですから、身体は心(想念)に絶対服従です。心が嬉しければ、身体は嬉しい表現をします。心が苦しければ、身体は苦しい表現をします。この表現世界は、心(想念)の絵の展示場のようなものなのです。心が美しければ美しい絵が展示され、心が醜ければ醜い絵が展示されるのです。今 社会に醜い絵が展示されているのは、人類の心が醜いからです。

地球で真理の火の手が上がるのは、スポーツ界からです。スポーツは「原因と結果の法則」がいち早く現れるので、一般人にも分かりやすいのです。

※もしスポーツ界で心が重視されるようになったら、驚くような記録が続出するでしょう。もう競うこと

自体、無意味になるでしょう。

※この世の何が信じられなくても、自分の想念だけは信じてください。なぜなら、自分の想念だけが実在だからです。

※この世に恐ろしいものが有るとすれば、自分の想念です。この世に素敵なものが有るとすれば、それも自分の想念です。

※たかが想念、されど想念です。

想念を軽んじている者は、想念で泣かされるでしょう。

○雑念を無くす三つの方法

瞑想している皆さんの悩みは、雑念が湧くことだと思います。そこで、雑念を少なくする三つの方法をお勧めしたいと思います。

一、瞑想をする前に体を動かすこと。

若い人はエアロビックスのような少しキツイ運動を・・・老人はそれなりの運動を・・・できたら、三分から五分くらい・・・身体を動かした後は、呼吸を整え瞑想に入ってください。

二、思いの壁を作ること。

瞑想に入る前に「私は神(自分のマントラ)以外何も想わない!」と強く思ってください。強く思えば思うほど、思いの壁ができ雑念が湧きづらくなります。

三、目を開けて瞑想すること。

一番良いのは、マントラを書いた紙を壁に貼り付け、それをジッと見続けながらマントラを想うことです。雑念が少なくなったら、目をつぶって瞑想に入ってください。それも重ねる瞑想を・・・。

人それぞれ意識状態が違いますので全員に有効かどうか分かりませんが、雑念が湧いて困っている人は、ぜひ試してみてください。

※あなたが瞑想している時は、アナタは実在しています。なぜなら、真実を創っているからです。あなたがこの世のことを想っている時は、アナタは実在していません。なぜなら、幻を作っているからです。でも神は、幻の中でも原子核を増やせるようにしてくれていますので、アナタは実在しているのです。

どちらにしても、何かを想い、何かを語り、何かをしているアナタは、凄い存在なのです。

※瞑想は、神様から与えられた仕事だと想ってください。そう思えば、使命感に燃えて瞑想できると思います。

第2部

○抽象的言葉

言葉には、陰の言葉と陽の言葉があります。陰の言葉は、人間社会で使われている具象的な言葉です。対して陽の言葉は、「神！・生命！ 意識！ 無限！ 永遠！」と言った抽象的な言葉です。陽の抽象的な言葉は、枠が無いので意識が拡大しやすいのに対し、具象的な言葉は、枠が有るため意識が固着しやすいのです。具象的言葉の中でも、特に否定的な言葉や頭に濁音の付く言葉は良くありません。

瞑想は、波動の精妙な世界とコンタクトを取る必要があるので、抽象的なマントラが有効なのです。理由は、陰の言葉は波動が粗いのに対して、陽の言葉は波動が精妙だからです。

抽象的言葉がいかに凄いか、また具象的言葉がいかに虚しいか、私はもう一段心の深いところで知りました。どうか、抽象的な言葉を有効に使ってください。「ただ、抽象的な言葉を想うだけで良いのです」想えば波動が上がり、間違いなく原子核が増えます。また、「喜びと、潤いと、活気」をもたらします。

○表現してこそ幸せ

思いは見えませんが、それでは、どんなに素晴らしいことを思っているか、思っていないのと同じです。どんなに素晴らしい絵の構想を持っているか、描いて見せなくては空想にしか過ぎないのと同じです。現してこそその絵の構想です。だから、どうしても表現(結果)が必要なのです。幸せも同じです。どんなに幸せだと思っただけでも、表現されない幸せは無いのです。

たしかに神は、素晴らしい幸せを味わっているかも知れませんが、でもその幸せは、表現されない幸せですから無いのです。神はそのことに気づきました。そこで神は、自分が味わっている幸せを表現してくれる人類を創ったのです。

今人類は、チツポケな幸せを味わっています。確かに小さな幸せかも知れませんが、神はその小さな幸せを神ご自身の喜びにしているのです。つまり、人類が幸せを味わい喜んでる姿は誰でもない、神ご自身の姿なのです。

今人類が味わっている小さな幸せも、進化するに従って段々と大きな幸せになってゆきます。そうなれば、幸せの喜びの表現も豊かになってゆくでしょう。その豊かになってゆく喜びの様を、神は見たのです。人類が幸せになればなるほど、神の幸も増してゆくからです。

※うなぎのような掴みどころのない宇宙で、唯一確かなものは幸せです。幸せだけが、実在だからです。後のモノはすべて幻です。だからどんな生命体も、みな幸せを欲しているのです。

○憑依幽霊

あんな大人しい人が、なぜあのような恐ろしい殺人事件を犯すのだろうか？ そんな疑問のわく凶悪事件が、最近ますます増えていきます。これは、「憑依幽霊」による仕業です。「憑依幽霊」という言葉を使うのは、「霊」は「神」ですから悪さをしませんが、「幽」は迷った魂ですから悪さをするので。でも「幽」では意味が通じないし、「霊」だと誤解されるので「幽霊」という言葉を使ったのです。

明るいポジティブな想いを持っていたら、そのような幽霊に憑依されることはないのです。ネガティブな想いを持っているから、同じ想いを持った幽霊に憑依されてしまうのです。ですから憑依幽霊の責任ではなく、悪想いを持った人の責任です。医者も憑依幽霊を認めませんから、頭の狂った人は精神病患者として、臓器疾患は病人として扱われるのです。肉体は神が作られた傑作作品ですから、本当は病気になることはないのです。病気にしているのは、あくまでもその人の悪想いです。だから私は、想念病だと言っているのです。病気の殆どは、憑依病なのです。憑依幽霊は、寂しいのです。苦しいのです。たくさん鬱憤を持っている可

愛するような存在なのです。だから人に憑依し、鬱憤を晴らそうとしているのです。

凶悪な憑依幽霊は頭の方に憑きますので、憑かれた人は精神病になります。目とか耳とか鼻とか口とか顔の部分の病気、喉の部分の病気、胸や心臓の部分の病気、胃や脾臓や肝臓や腎臓の部分の病気、腰や腸や陰部の部分の病気、膝や足の部分の病気と言ったように、上から下に降りてくるに従って憑依度は軽くなります。

身体の上部は波動が高いので憑依されづらいのですが、身体の下部は波動が低いので憑依されやすいのです。その意味では、身体の上部を病んでいる人は、下部を病んでいる人より悪い想念を多く持っていることになります。波動が高まると憑依霊は下の方に降りてきますので、病んでいる部分为上から下へ移ってきます。更に波動が高まり身体の中にいらなくなると、憑依幽霊は足の先から出てゆきます。

憑依されないためには、明るい、ポジティブな想いを持ち続けることです。一番良い想いは神(マントラ)です。ただし、神を想っていてもネガティブな想いが少しでも残ってれば、腰から足にかけて憑依幽霊が居座ることがありますので、その部分が重く感じたり違和感を感じたりします。でも、気にしないでください。瞑想を続けていけばいずれ出てゆきます。

憑依されていると本人が自覚していても、なかなか自分で無くせるものではありません。勿論、他人が無

くせるものでもありません。なぜなら、その人の思いが変わらない限り憑依幽霊は出て行かないからです。それほど憑依幽霊を無くすことは大変なのです。でも家族の皆さんが、できるだけのことをしてあげてください。一番良いのは、憑依されている人のお世話を、真心を込めてしてあげることです。そうすれば真心にほだされ、憑依幽霊は出てゆくかも知れません。

学びの友の皆さんはエネルギーが高いので、瞑想しながら背中や頭に手を当ててあげたら良いでしょう。右の手の平で右回りに丸(円)を描くようにさすってあげたら、なお良いでしょう。私の動画を見せるのも良いでしょう。でも本人が嫌がるのに、強引にやっては逆効果になりますので注意してください。

今地球は、迷った憑依幽霊によって数知れない凶事が起きています。このままでは、地球は憑依幽霊に乗っ取られてしまうかも知れません。さあ地球は、どうするのでしょうか？

地球において水の洗礼は、これまで度々行われてきましたが、火の洗礼はまだ数回しか行われていません。でもこれ以上地球が荒らされたら、地球は火の洗礼を考えるかも知れません。水の洗礼は「肉体」の浄化作業ですが、火の洗礼は「魂」の浄化作業なのです。火の洗礼を受けたくなければ、瞑想することです。それは、私たち学びの友だけができるのです。どうか、瞑想してください。

※ 憑依で苦しんでいる学びの友に一言・・・

何よりもあなたが成長することが一番なのです。そのために、苦しい学びの教材をあなたが用意したのですから・・・。そうです。家族も、あなたの周りの人たちも、社会も、世界も、あなたの進化成長のためにあなたが用意したのですから、どんなことが起きようと悩まないこと、悪いことを想わないこと、です。

今あなたがやるべきことは、瞑想をすることです。

※ 瞑想の有り難さが解った人は、幸せな人です。

○神のオセロゲームの妙技

「人類は原罪を背負って生きています」という宿業説を唱える人がおります。また「人類はもともと悪の性質を持っている」という性悪説を唱える人がおります。なぜそのような説が生まれたかと言いますと、悪を犯さないでいられないようになってきているのが肉体だからです。では、肉体を持った人類が悪いのでしょうか？ 肉体を持たせた者が悪いのでしょうか？ 肉体を持たせた者ですね。では、肉体を持たせたのは誰で

しょうか？ それは神です。これが、神が原因無き原因者と言われる謂われなのです。

肉体を持った人類は罪を犯します。それが、人類が作った最初の原因(業)です。当然、苦しい結果がやってきます。苦しいがゆえに悪い原因を作ります。するとまた苦しい結果がやってきます。苦しいからまた悪い原因を作ります。こうして人類は、業の輪廻の渦に巻き込まれて行ったのです。しかし神は、業から抜け出す方法をちゃんと用意していたのです。それが「原因と結果の法則」です。

苦しい輪廻を繰り返すうちに人類は、法則の存在を知ります。知った者は、法則を守るようになりますから、悪い原因を作らなくなります。作らなくなった途端、今まで作って置いていた黒石(悪い結果)のすべてが、白石(良い結果)に変わります。なぜなら、神が人類に持たせた肉体は、進化成長に必要な白石だったからです。「原因無き原因」は良い原因だったということです。

最初に白石が置かれているのですから、私たちはゆっくりと成長し覚醒めたら良いのです。焦ることはありません。どこかの生で目覚めれば、過去に置いた黒石はすべて白石に変わりますから・・・これが、神のオセロゲームの妙技なのです。

※ 何かが、誰かが、波を起こさなければ何も始まりません。それでは、何のドラマも生まれません。ドラ

マが生まれなければ、何の体験もできないので進化成長できません。だから神は想いの波を起こし（バンドラの箱を開け）物質（人間）を創ったのです。それが、表現宇宙の始まりなのです。

※刻々と変わって行くのが無常の世界ですから、今の状況をそう深刻に考えることはありません。今あなたがやるべきことは、人事を尽くすことです。つまり、社会体験と瞑想をすることです。

○必然

この宇宙で起きているどんなことも、必然で起きているのです。偶然で起きることは、絶対ありません。もし偶然で起きるなら、今宇宙は存在していません。宇宙が今日まで延々と存続して来られたのは、必然によって運ばれてきたからです。このことを念頭に、あなたが思ったこと、あなたが語ったこと、あなたがしたことについて考えてみましょう。

あなたは今日、悪いことを思いました。悪いことを語りました。悪いことをしました。それは偶然で思い、偶然で語り、偶然でしたのでしょうか？ いいえ、必然で思い、必然で語り、必然でしたのです。なぜなら、前述したように、この宇宙に必然以外あり得ないからです。でもあなたは、悪いことを思い、悪いことを語

り、悪いことをしたわけですから、あなたは「因果の法則」よって裁かれるでしょう。それも必然だからです。でもその裁きが、あなたを成長させてくれるのですから、それは良いことだったのです。

誰もが、自分が思ったこと、語ったこと、したことを偶然だと思っています。でもあなたは、必然で思ったのです。必然で語ったのです。必然でしたのです。その必然は、すべて進化成長に結びついている必然です。ですから、思ったこと、語ったこと、したことを、すべて良いことだと思ってください。

この宇宙に、間違いなどありません。悪いことなどありません。どんな間違いも、どんな悪いことも、みな進化成長に結びついている必然です。何と有り難いことでしょうか？

この仕組みを創った神の何と慈悲深いこと・・・ただただ頭が下がるばかりです。

※ どうせ死ぬのに、人はどうして生まれてくるのでしょうか？ それは、死ぬから生まれてくるのです。死ななかつたら生まれることはありません。だから私たちは、一日も早く死なない自分にならなくてはならないのです。つまり、死ぬ人間から死なない神人にならなくてはならないのです。でもそうなるためには、死ぬ人間の体験をしなくてはならないのです。だから私たちは、死ぬと分かっているながら生まれてくるのです。

死ぬのも必然です。生まれるのも必然です。死ぬことによって、生まれることによって、進化成長できるからです。

○本質について！

一体、宇宙の何を知ることが大切なのでしょう？ 見える物質でしょうか？ 見えない本質でしょうか？ 見えない本質ですね！ なぜなら、見える物はみな消えて無くなる幻だからです。幻を知ったって、何の意味もありません。私たちは永遠の存在ですから、永遠に無くならない本質を知らねば意味がないのです。そうは言っても、見えなくては何の判断材料もありませんから、神は見えない本質を写し出す鏡を用意し、そこに見える幻を写し出しているのです。その鏡が表現宇宙なのです。

宇宙は、ある博士が論じているような、一面的な宇宙(物質宇宙)ではないのです。見える宇宙の背後に、見えない本質の宇宙があるのです。ですから、見える表現宇宙を知れば、見えない本質の宇宙のことが解るのです。ということは、見える人間を知れば見えない本質(神)が解るといふことです。

あなたは、本当の自分を知っておりますか？ 肉体の自分しか知らないのではありませんか？ それでは、本当の自分を知ったことにはならないのです。どうか、本当の自分を知ってください。それは見えない本質

を知れば解るのですから・・・。では、見えない本質とは何でしょうか？ それは、神のことです。神は全ての本質なのです。神なる本質が表現宇宙を創造し、神なる本質が創造物そのものになっているのです。つまり神なる本質が人間を創造し、神なる本質が人間になっているということです。だから人間は神そのものなのです。その神なる本質は、宇宙に一つしかありません。

本質Ⅰ—神Ⅱ宇宙Ⅱ本当の自分・・・なのです。

このことは、今の地球人類の原子核の量では理解してもらえないかも知れませんが、皆さんなら理解してもらええると思います。

※今の自分の理解力で、宇宙を決めつけてはなりません。また推測してもなりません。今のあなたの理解力は、今のあなたの原子核の量のもので最高点のモノではないからです。いいえ最高点どころか、まだしばさへも掴んでいないのです。

宇宙には、知るべきことや解らないことが、無限に存在するのです。どうか、謙虚になってください。

※下から上は見えません。上から下は見えます。そのことが解った人は、今の自分の位置が分かりますの

で謙虚になります。解らない人は、自分が最高点にいると思うので増長するのです。

○占いに頼ってはならない！

この社会には、沢山の占いがあります。たとえば、手相占い、顔相占い、タロット占い、方位占い、星占い、風水占いなど、上げれば切がありません。どうして、こんなに占いが流行るのでしょうか？ それは、人生一寸先が闇だからです。私たちは、一秒後何が起るのか、今日何が起るのか、明日何が起るのか、一年後何が起るのか分からないので不安なのです。だから不安を解消したくて、占術に頼るのです。

確かに現象の世界は、風水の力や星の運行力によって影響を受けております。また手相や顔相にその人の性格や気質が表れますので、それを読み取ることによってアドバイスはできます。でもそんな占いに頼らなくても、想念を正しく使っていたら不安がることはないのです。なぜなら、「原因と結果の法則」が守ってくれるからです。

風水の力や星の運行力を信じる人は、自分の想念で引きよせ影響を受けているだけです。でも信じない人は、そんな影響は受けません。

外側の現象界は結果の世界です。内側の想念は原因の世界です。結果は、原因の後に生まれるのです。で

すから、原因である想念さえしっかり管理していたら、悪い結果が起きるわけがないのです。

明日のことを煩わなくてください。未来のことを心配しないでください。今正しい想念を持つことです。良い想念の一番は、神を想うこと(マントラを想うこと)です。瞑想することです。

※風水の力も、星の運行の力も、現象なのです。でも私たちの意識は、真実です。真実が、どうして現象の影響を受けましょうか？ 受けるのは、現象に意識を合わせるからです。

○生かされるままに生きる！

私たちの心臓は、自分の意思にお構いなく自動的に動きます。でも呼吸は、自分の意思で自由に吸ったり吐いたりできます。なぜ神は、心臓と同じように呼吸も自動的にできるようにしなかったのでしょうか？

自然界の生き物たちの心臓も自動的に動きます。でも呼吸は、自由意思を持っていないので自動的にさせられているのです。これが人類と他の生き物たちの違う点です。なぜ神は、そのような違いを創ったのでしょうか？

自然界の生き物たちは、自由意思が無いので生かされるままに生きるしかありません。だから自然界には、

病気も事故災難も無いのです。(人間界の波動を受けている生き物たちだけに、病気や事故災難がある)でも人類は自由意思があるため、欲望や感情のままに生きて、病気や事故災難を引き寄せています。生かされるままに生きれば幸せな人生が送れるというのに、自分の都合の良い生き方をして不幸せな人生を送っているのです。

自然界の生き物たちには、生かされるままに生きるという一つの選択肢しかありません。でも人類は、自由意思があるため二つの選択肢があるのです。一つは生かされるままに生きるという選択肢です。もう一つは好き勝手に生きるという選択肢です。神様は人間に二つの選択肢を与え、どちらを選べば幸せになれるか学びなさいと言われていてるのです。今人類は、自由意思で好き勝手な生き方をして苦しんでいます。そのうち生かされるままに生きる尊さに気づくでしょう。今人類は、その学びをしている真つ最中というわけです。

人間の心臓は神が動かしてくれていますので、神に任せていたらちゃんとやってくれます。でも呼吸は自由意思でできませんので、好きな時に吸い好きな時に吐けます。しかし自由意思でできるからと言って、息を止めたのでは死んでしまいますし、吸い過ぎても死んでしまいます。今人類が好き勝手に生きている状態は、息を止めている状態か吸い過ぎているかの状態なのです。これでは、いずれ死んでしまいます。どんな

に自由意思を持っていても、生かされるままに生きなければ必ず死を招くのです。

人類には、進化する大きな目的があります。他の生き物たちは、人類の進化を後押しする仲間です。その仲間から、人類は学ばねばなりません。だから神は、人類と他の生き物たちの違いを創ったのです。人類は、一日も早くその事に気づかねばなりません。

どうして神が、自動的に呼吸できるようにしなかったか？ 解ったと思います。もし自動的に息ができれば、好き勝手に生きている愚かさを感じかねないでしょう。人類はまだそのことに気づいていませんが、いずれ気づく時がきます。その時、生かされるままに生きるようになるのです。

新時代の令和を、それに気づく第一歩にしたいものです。

※この宇宙には、生かされるままに生きる生き方(心臓の生き方)と、自由意思で勝手に生きる生き方(呼吸の生き方)の、二通りの生き方があります。自然界の生き物たちは、自由意思が与えられていませんので前者の生き方をしています。しかし人類は、自由意思が与えられていますので後者の生き方をしています。前者の生き方をすれば幸せになりますが、後者の生き方をすれば不幸せになります。その証に、人間界に不幸はあっても自然界に不幸はありません。人類は今、自由意思を使って後者の生き方をし、不幸せになってい

るのです。でもこれは進化のために必要な体験で、決して悪いことではありません。後者の生き方をしているうちに、これでは幸せになれない事に気づきます。覚者はそのことに気づいた人です。

神は人類に、心臓と呼吸の仕組みを通して、どのように生きれば幸せになれるか知りなさい！と言っておられるのです。

○覚悟してやってください！

「覚悟してやってください！」の本当の意味は、「悟ることを目的にやってください！」という意味です。

それも・人生をかけて・真剣に・です。

あなたはどれほど長い転生をかけ、本物の真理を探し続けてきたと思えますか？ それはそれは、気の遠くなる転生をかけ探し続けてきたのですよ！そして今生、ついに本物の真理を探し当てたのです。このチャンスは逃してはなりません。

さあ！ 真の求道者なら覚悟してやってください。「私は真理に人生をかける」と・・・ぜひ、人生の目的を貫徹して帰ってください。

あなたは、この世の何かをするために生まれてきたのではないのですよ！ あなたは、自分の原子核を大

大きくするために生まれてきたのです。目的と手段を取り違えないでください。

※私は「何事も中庸を見極めやってください！」と言います。それは、良いことも出すぎると悪いことになるし、引っ込み思案も良くないからです。この世のことは、何を成しても幻です。そんな幻のことで言い争って、自分の宇宙を汚しては大損です。

どうか中庸を見極めた上で事に当たってください。「どこまでが中庸か?」、その眼を養うのも学びの一つなのですから……。

※身は汚くても、心だけは美しくありたいものです。

なぜなら、身は幻でも心は真実だからです。

※何でも否定的したがる人、或いは何でも悪く受け取る人、或いは何でも反対する人は、心のネジ曲がった人だと言われます。この心のネジ曲がりは、長い転生を重ねれば誰でも持つ欠点ですから、恥じることはありません。ただ、「ああそうか! 自分にはそのような欠点があるのか!」ということだけ認識してお

いてください。後は二つのことをやれば、欠点は自然と無くなってゆくのですから……。

○迷信に惑わされてはならない！

世の人々は、神仏や先祖が私たちを守ってくれると思っています。もし神仏や先祖が守ってくれるなら、どうして大聖堂が火事になるのですか？ どうして仏壇のローソクの火で火事になるのですか？ どうして墓参りの行き帰りで交通事故に遭うのですか？

占いが、あなたを守ってくれるのではないのです。星が、あなたを守ってくれるのではないのです。方角が、あなたを守ってくれるのではないのです。お守りが、あなたを守ってくれるのではないのです。守ってくれるのは想念です。原因と結果の法則です。良い想念を持てば、幸せになるのです。悪い想念を持てば、不幸せになるのです。

人生を良くするのも悪くするのも、あなたの想念の持ち方次第です。どうか、迷信に惑わされないでください。

※私たちのボディーは、神の代弁代行を果たすために与えられました。ですからボディーを自我のために

使っては、盗みの罪を犯すことになるのです。

代弁代行の目的の一つは、原子核を大きくすることです。もう一つは、この地球上に理想の世を創ることです。自我のためにボディーを使うのは、最低限で良いのです。

どうか神の代弁代行役を果たすために、ボディーを使ってください。そうすれば、エネルギーがドンドン入ってきます。少々厳しく働いても疲れません。勿論、病気などなりません。自我の欲望のために使うから、疲れたり病気になったりするのは、

※ 真剣に神を求めてください。真剣に神を意識してください。真剣に神を想ってください。その者は、間違いなく神様からご褒美が頂けます。

(想念は実現の母ですから、あなたの想念がご褒美を与えるという意味です。想念は神様からの贈り物ですから、神様がご褒美を与えたことになるのです。)

○落ち込むことは無い！

「私にはこんな欠点がある！ 私はこんな悪い性格を持っている！」と落ち込むことはありません。あな

たがどんなに良いことをしようと、どんなに悪いことをしようと、それは体験ですから、あなたは間違いない成長しているのです。魂を大きくする体験に善悪はないのです。良いことをしてどんなに良い成績を残そうと、悪いことをしてどんなに悪い成績を残そうと、成績は残りませんが体験で大きくなった魂は永遠に残るのです。

何万転生の間に付けた心の垢や癖というものは、そう簡単に取れるものではありません。いいのです。取ろうとしなくても・・・二つのことをやっていたら、いずれ必ず取れるのですから・・・。

繰り返し言います。自分の欠点に落ち込むことはありません。あなたが想った事、語った事、行った事は、すべて良い体験です。体験は宝なのです。さあ落ち込む暇があるなら、二つのことをやって魂を大きくしましょう。

※人生の目的は、この世の成績を残すことではありません。体験によって魂を大きくすることです。

○相対を知って絶対を知る仕組み

本当に有る一(絶対)そのものを示す言葉などありません。でもそれでは黙っているしかないのです、私は相対的言葉を使って本当に有る一(絶対)を説明しようとしているのです。「本当に有る一(絶対)だけが本当に

有るのですよ！」と言ったところで、それでは説明したことにはならないからです。

本当に有る一(絶対)を示すには、多(相対物)を相対させて示すしか方法がないのです。本物を示すには、偽物を相対させて示すしか方法がないのです。一(絶対)そのものを示す言葉がないから、反対の言葉を使って一(絶対)を示そうとしているわけです。私の苦衷を察してください。

私は良く言います。言葉の裏には、反対の意味があるのですよと・・・つまり、「良いよ！」の反対には「悪いよ！」が・・・「嫌い！」の反対には「好き！」が・・・「光」の反対には「闇」が・・・。

これも、本当に有るものを示す一つの方法なのです。反対のものを相対させれば、反対の意味が分かるからです。

とは言っても、相対させて一(絶対)の存在は示すことはできません、一(絶対)そのものを示すことはできません。つまり一(絶対)の存在を示すことはできません、一(絶対)そのものの正体は依然として不明なのです。

一(絶対)は表現されないのです、一(絶対)の正体を言葉や文字で示すことはできないのです。当人が理解して納得するしかないのです。だから一(絶対)は、理解した者だけにあるのです。ということは、一(絶対)は、理解力が生み出したモノとも言えるでしょう。でもその理解力は、一(絶対)が生み出したのですからやはり一(絶対)はもともと有ったのです。

本当の自分の意識（一・絶対意識）を知ることができないけれど、今自分と考える相対意識（自我意識）がある限り、本当の自分（一・絶対意識）は間違いなく存在しているのです。でもその自我の自分がある限り、本当の自分には戻れない！ 帰れない！ ということも確かなのです。

※ 真我の自分の意識を知るには、自我の自分の意識で知るしかないけれど、いかに知ろうとしても永久に知ることはできません。神を知ることが永久にできない！ 宇宙を知ることが永久にできない！ つまり、本当の自分を知ることが永久にできない！ ということです。

※ 「幸せー」と思えるのは、その背後に「不幸ー」と思える思いがあるからです。「嫌だー」と思えるのは、その背後に「良いー」と思える思いがあるからです。人を「憎」めるのは、その背後に人を「愛」する思いがあるからです。

「私はこんな悪い思いしか持てない！」と自分を責めないでください。相対的思いがなければ、絶対的思いは生まれませんから……。

※これまで人類が得た見識など、無限宇宙の見識から比べたらチリみたいなものです。ですから、今の自分の見識で物事を量ってはなりません。

何でも知っていると思っている人は、何も知らない人です。何も知らないと思っている人は、宇宙の深遠さを知った人です。どうか謙虚になってください。

※相対的言葉を使って真我を示そうとしている自我の自分が、真我の自分の存在を可能にしているのです。つまり、客観者の自分が主観者の自分を示そうとしている行為自体が、主観者を生み出しているのです。客観者の自分がいなければ、主観者は生まれえないという意味です。

○神の別名は「不明」!?! . . .

「私の意識」「私の意識」「私の意識」 . . . この「私の意識」って、一体何なの? 誰なの? 何者なの? 何処から生まれたの? 何処から来たの? 何処に帰るの? この疑問は、尽きることはありません。疑問を膨らませれば膨らませるほど、私の心を悩ませます。どんなに知りたいたいと思っても、決して「私の意識」を知ることができません。でも、それで良いのです。知った途端に「私の意識」が消え

てしまうからです。なぜ消える？ 知った途端、私は有限の存在になってしまうからです。有限とは、限りがあるという意味です。終りがあるという意味です。つまり、死があるという意味です。「私」は死にたくありません。だから「私の意識」は、不明のままが良いのです。

ちなみに神の別名は、「不明」です。それは、神を知ることが永遠にできないからです。ゆえに「不明」なモノは、すべて神の名で表わされるのです。命も「不明」です。光も「不明」です。エネルギーも「不明」です。宇宙も「不明」です。だから、命も、光も、エネルギーも、宇宙も、神と呼ぶのです。ということは、「不明」な私の意識も神と呼ぶしかないでしょう。

そうです。私は「不明」な神です。「不明」ですから私の意識を永遠に知ることができません。でも私は、間違いなく存在しています。今「私」と思えることで・・・。

知れるモノは有限なのです。知れないモノは無限なのです。死にたくなかったら、有限になりたくなかったら、永久に「私の意識」を知らなくて良いのです。

※あるモノの一方面から光を当てれば、後ろに一方面の影が生まれます。角度を変えて光を当てれば、変えた角度の影が生まれます。

360 度角度を変えて光を当てれば、

360 度角度の違った影が生まれます。これ

は・・一方面から光を当てれば一方面の神の側面が解り、³⁶⁰度角度を変えて光を当てれば、³⁶⁰度の神の側面が浮き彫りになるという意味です。でも神は無限の角度を持つ存在ですから、無限の角度の神の側面が浮き彫りになるのです。だから私は、角度を色々と変えて神の側面を説明しているのです。

○物の片付け!?

私たちが物を買うのは、日々の生活を豊かにしたいからでしょうが、使わず寝かせていたのでは意味がありません。物にはみな意識があるのです。その物は、私たちに使ってもらいたいのです。私たちは物を通して学び、また物は私たちを通して学んでいるのです。買って使わなければ体験できないので、何も学べないのです。もし不要な物があるなら、使ってもらえる人へ上げてください。どうしても不要な物は、有効利用できないか考えてみてください。例えば着物なら、雑巾に加工して使えます。食べ物でも、猫や犬が食べられるよう料理すれば使えます。他の不要な物も、代用品として利用できないか考えてみてください。代用品として利用すれば、新しい物を買う必要がなくなりますので、ますます整理がつかます。それよりも何よりも、使ってあげた物が喜んでくれます。また、そのようなことをすれば物と向き合うことになりますので、物も自分も成長できるのです。物と向き合っている時は、自分の心と向き合っている時なのです。それは反

省にも気づきにもつながるのです。

未熟な魂は物を通して成長するので沢山物は必要ですが、皆さんのように魂が成熟してくると、余り物を必要としなくなるのです。まだ沢山物を持っているなら、少しずつ整理していただく。勿論、家族のある人は家族のことを考え整理してください。どの程度整理するかも中庸の学びの一つです。

○すべて心に関係している！

人にならない技を身につけると、あるいは人にならない物を持つと、試したくなり、使ってみたくなるものです。幼い魂に危険物を持たせてならないのは、使ってしまうからです。

銃の引き金を引かせているのは何(誰)ですか？

核爆弾のボタンを押させているのは何(誰)ですか？ 手ですか？ 心ですか？

戦争を起こしているのは何(誰)でしょう？

テロを起こしているのは何(誰)でしょう？

貧困や飢餓を起こしているのは何(誰)でしょう？

事件や事故を起こしているのは何(誰)でしょう？

自殺をさせているのは何(誰)でしょう？ 肉体ですか？ 心ですか？

そうです……。すべて心です。心が肉体を動かしているのです。人間はこのことを深く考えようとしません。だから心を粗末にするのです。

心が無くては何もできないのですよ！

心が無くては何も始まらないのですよ！

この事実をしつかりと認識すべきです。

真に国民の幸せを考えるなら、心のメカニズムを解明し、正しい心の使い方をも国民に周知させるべきです。これは国策として、真つ先に取り組まねばならない重要課題です。源流を清めれば黙っていても下流が清まるように、原因である心を清めれば社会は黙っていても平和になるのです。

何事も「心」が関係していることを、科学者にも、教育者にも、政治家にも、知って欲しいと思います。

※ 戦争の悲惨さや災害の恐ろしさを伝える語り部がおりますが、これは反対に戦争の因・災害の因・になるのです。なぜなら、想念は何でも実現させるからです。ネガティブなことは想わないこと、話さないこと、行わないことです。過去は終わったのです。想うなら、建設的なこと、前向きなこと、ポジティブな

こと、を想うことです。

○楽しみながら成長できる宇宙の仕組み！

苦しめば苦しむほど魂が成長するのは、間違いありません。なぜなら、苦しみの中には魂を成長させる、色々な要素が含まれているからです。でも本来この宇宙は、楽しみながら成長できるようになっているのです。でも楽しみながら成長するためには、真理を深く知らなくてはなりません。なぜなら、真理を知らない者は想念を悪用し、苦しみを作ってしまうからです。真理を深く知った者は、想念を悪用しませんから苦しみはやってきません。苦しみがやってこなかったら、楽しみながら成長できるのです。

真理を知らない幼い魂は、楽しみながら成長するしかありませんが、皆さんのように真理を深く知った魂は、楽しみながら成長できるのです。これは「原因と結果の法則」から言って、当然のことなのです。

さあ！楽しみながら成長してください。ただし、二つのこと(社会体験と瞑想)はやってください。やれば、間違いなく原子核が増えます。増えたら増えた分、考え方も、生き方も、高度になります。そうなれば、ますます楽しみながら成長できるようになります。

※師は常に自分の中におられます。自分が自分に教えるのです。難しいことはありません。ただ、二つのことをやり続ければ良いだけです。それは、何処へ行く必要もありません。どうか、自分の足で歩いてください。人を頼ってはいけません。

※外側のモノは内側の自分が創っていると腹の底で思えた時、自他一体になれ唯我独存(尊)の境地になれるのです。唯我独存(尊)の境地になった時、神人になったということです。

○無色透明の一つの本質

この宇宙には、「無色透明の一つの本質」があるだけです。すなわち、「無色透明の一つの意識」「無色透明の一つの光(力・エネルギー)」「無色透明の一つの命」「無色透明の一つの魂」「無色透明の一樣の神」が存在するだけです。

私たちは「苦楽」があると思っていますが、「表から見たら苦」になり「裏から見たら楽」になる本質があるだけです。つまり、「渦を上から見たら左回りの渦になり、下から見たら右回りの渦になる」或いは、「包丁を料理に使用えば善になり、人殺しに使用えば悪になる」本質があるだけです。

この宇宙には、「一つの無色透明の本質」しか無いのです。その一つの無色透明の本質には、「良し悪し」のレットルは貼られていないのです。「どう見るか？」「どう受け取るか？」レットルが変わるかだけです。それは「見る人が、受け取る人が、」決めるのです。だから私は、「何事も良く見なさい！何事も良く受け取りなさい！」というのです。

このようにこの宇宙には、何色にも染まっていない無色透明の本質が一つあるだけなのです。その本質を良い色にするか悪い色にするかは、私たちが「どう見るか？」「どう受け取るか？」で決まるのです。

※神は、無色透明の本質です。神の世界には、善悪も、良し悪しも、美醜も、男女も、高低も、左右も、大小も、軽重も、無いのです。有るのは何色にも染まっていない本質(力)が、一つ有るだけです。「何色にも染まっていない本質が一つ有る」という意味は、神は中道である。中庸である。中性である。真ん中であるという意味です。神には、差別がないのです。偏りがないのです。平等なのです。

※何色にも染まっていない一つの本質は、「力」なのです。「働き」なのです。その力と働きは、想念に素直に従ってくれるのです。良い想念を使えば良い力として働き、悪い想念を使えば悪い力として働いてく

れるのです。働いただけ考えると自由意思が無いように見えますが、善悪を見極めて「因果の法則」を行使する力を持っている働きですから、やはり自由意思があるのです。

※宇宙は、受け取り方次第で変わるのです。それは、私たちの想念が宇宙を創っているからです。

○トリックに惑わされないで生きるコツ！

この表現世界は、魂を成長させるために神が用意したトリックの世界です。トリックの世界ですから、何一つホンモノはありません。ですから本当は、心を痛めることなど何もないのです。でも悲しいことに人間は、トリックに引っかかり悩み苦しみ恐怖しながら生きています。

ではどうしたら、トリックの世界から抜け出すことができるのでしょうか？ それは、次のことを常に自分に思い聞かせることです。

この世は、刻々と変化する無常の世だから、今日都合の悪いことも明日は良いことに変わってしまうかも知れないのだ。だから悩むことも、心配することも、恐怖することもないと・・・。

見えているモノ、聞こえているモノ、肌で感じているモノは、みな幻だから心を痛めることはない・・・。

相手は、一時存在している蜃気楼のような存在だから、言うことや態度に心を動揺させてはならないと…。お金も、財産も、地位や名誉や権力も、刻々と消えて無くなる幻なのだから欲をつのらせてはならないと…。肉体は、古い、病み、死んでしまう儚い存在なのだから、肉体に執着してはならないと…。

自分は永遠に死なない、「意識なのだ!」「命なのだ!」「魂なのだ!」と常に自分に思い聞かせ、死ぬ自分と死なない自分の識別をしっかりとしてください。しっかりと識別できたら、トリックから抜け出すことができるでしょう。

※真理を求める心が萎えたら・・・或いは迷い心が生じたら・・・

・私は一体何のために生まれてきたのか? 人生の目的は一体何なのか? と自分に言い聞かせてください・・・。

きつと、冷水を浴びせられたように迷い心が吹き飛んでしまうでしょう。

○私は名前! 名前は私!

本当の私は、姿形が無いのでそのままの状態では、私は分かりません。でも形を取り、その形に名前を付

けた途端、私に分かるのです。なぜなら、形に付けた名前が私になるからです。私に無限という名前を付けたとしましょう。名付けた途端、私は無限になってしまいますのです。生命という名前を付けたとしましょう。名付けた途端、私は生命になってしまいますのです。神という名前を付けたとしましょう。名付けた途端、私は神になってしまいますのです。あなたが今、人間と知っているのは、形に人間の名が付いていたからです。もし形に虫という名が付いていたなら、あなたは虫と知っていることでしょう。虫が人間のように考えても、話しても、行為しても、何の不思議もないからです。

名前は単に、具体性を示す言葉にしか過ぎません。私たちは今、人間とっていますが、人間という名だけでは具体性がないので、人間という名に更に太郎とか花子とか名を付け、具体性を高めて自分を誇示しているのです。さらに花子の名の元は何なのか探れば、細胞の名であり、分子の名であり、原子の名であり、クオークの名であり、意識の名であり、最終的に神の名に辿り着くのです。

このように名前を付け、具体性を高めることで、そのモノの奥に隠れている本性、つまり神に迫ることができるとは思います。

※私たちは、絵（鉱物・植物・動物・人間）が最初にあり、後から名が付いたと思っておりますが、本当は逆で、

思いが先にあり後で絵に名が付いたのです。その名前は、言葉なのです。「言葉が生まれ名が生まれた、名が生まれたから言葉が生まれた」どちらでも同じなのです。言葉そのものが名前だからです。

※地球人類は沢山の言葉を持っていますが、それは多く具体性を持たせなくては、モノの中身が理解できないからです。具体性とは、言葉や(名前)や文字や絵のことです。

進化した星での伝達手段はテレパシーですが、テレパシーには「思い・言葉(名前)文字や絵」のすべてが入っているのです。でも地球ではテレパシーが使えないので、どうしても言葉や文字などの伝達手段が必要なのです。思いの波動を感じれば済むのに、それができないから言葉や文字で伝達するしかないわけです。

※名前(言葉)や文字や絵は、どんな役割を持っているのでしょうか？それは、伝達手段としての役割です。でもそれよりも、最と大切な役割があります。それは、神を知らしめる役割です。名前は具体性を示しているのです。

「人類という名」も「日本人という名」も「分子という名も」「原子という名も」「クオークという名も」「意識という名も」、神を具体的に示した名前です。神という名は抽象的なので、細かく名前をつけ具体性

を高めているのです。

○不明な力？

この宇宙には、「不明なモノ」が沢山あります。

例えば、

宇宙も「不明」です。

意識も「不明」です。

命も「不明」です。

魂も「不明」です。

心も「不明」です。

掲げれば切がありませんが、本当はたった一つ不明なモノがあるだけなのです。そのたった一つの不明なモノを、「神」と呼んでいるのです。神という名は、不明なモノの総称なのです。不明なモノは、すべて神の側面なのです。私が神の側面を多く語るのには、神の側面を多く知れば神の具体性が増し、神の正体が薄っすらと解ってくるからです。私は更に具体性が増すように、神の側面にもう一つ「力」を加えてみました。

不明なモノを生み出している力・

神を生み出している力・

意識を生み出している力・

想いを生み出している力・

考えを生み出している力・

創造力を生み出している力・

素材を生み出している力・

バランス(均衡)を生み出している力・

真善美を輝かせている力・

法則を生み出している力・

さあどうでしょう？ 不明な神が少し解ってきたのではありませんか？ すべての事象に、力という言葉を使ってみましょう。神が身近になると思います。

ではその力を生み出している力は、どこから生まれてきたのでしょうか？ 力の正体は何でしょうか？ 解りませんか？ 力も不明なのです。私たちは、その不明な力から生まれ、生かされ、動かされ、働かされ、

存在させられているのです。ですから私たちも、不明なのです。でも、不明で良いのです。「自分は不明な存在である！」と解れば、自覚に近づくことができるからです。

※なぜ自分を知ることが出来ないかと言いますと、自分を創ることが出来ないからです。自分を創れる者だけが、自分を知ることが出来るのです。でも、未だかつて自分を創ったモノはいません。万能の神でさえ自分は創れないのです。だから、私たちが自分を創れないのは当然です。ということは、神も私たちも、永遠に自分を知ることが出来ないということです。

※本当に有るモノが、本当に有るモノを創ることはできないのです。本当に有るモノが作れるのは、本当に無いモノだけです。ということは、自分が自分を創れないということです。

※自分を知ることが、永遠にできません。でも、間違いなく自分は存在しています。それは、自分と思えるからです。

※自分を知らないで生きている私って、何ておかしな私でしょうか!? 私って誰? . . . 何処までも姿を見せない私って何者? . . . 何て薄気味の悪い私なのでしょうか!

※何かが存在しているからには、その何かを産み出した親が必ずいなければなりません。親のいない子は無いからです。では、神を産んだ親は誰でしょうか? それは、原因なき原因です。神は原因なき原因から産まれたから、神を知ることとはできないのです。

○矛盾

矛盾とは、矛を持ち盾を構えている状態を言います。矛を持ちながら盾を構えるのは矛盾なのです。つまり、相手を攻撃する構えをしながら、自分を守る構えをするのは矛盾なのです。なぜなら、攻撃されることを前提に防御しているからです。これは攻撃されるのを望んでいるようなものなのです。望めば(需要を作れば)与えられる(供給される)のが、原因と結果の法則ですから望んだ通りになるのです。

駅のホームに掲げられている広告で一番多いのは、病院の看板です。これは、病人が沢山きてくれることを望んで宣伝しているようなものですから矛盾なのです。

国は医学の進歩のために沢山のお金をかけていますが、これも病人が多くなることを前提にやっているわけですから矛盾なのです。本当は病気などないのですから、病気のことなど考えない方が良いのです。病気のことを考えれば、需要を作ってしまうわけですから供給されるのです。考えることは思うことですから、思えば与えられるのです。(想念は実現の母)だから病気になりたくなくなったら、病気のこととは考えないことです。

この宇宙は、需要者側(認める者)が主導者で、供給者側(認められる者)は従属者なのです。何でもそうですが、認めるから認められる物が生まれるのです。あくまでも需要者側が主体者です。

※ 人類は、幾つもの矛盾を抱えています。でもそのことに気づいている人は、一人もいないのです。

例えば・

- ・ 病気を認めながら病気を無くそうと思うのは矛盾です。
- ・ 悪人を認めながら悪人を無くそうと思うのは矛盾です。
- ・ 戦争を認めながら戦争を無くそうと思うのは矛盾です。

今人類は、無い病気を・無い悪人を・無い戦争を認め、無くそうとしていますが、無いものを認めれば

認めるほど有るものにしてしまうのです。これは盾なのです。なぜなら、需要(思っている)を作っているからです。でも人類は、そのことに気付いていないのです。

真理も同じです。

・人間を認めながら人間を無くそうと思うのは矛盾です。

・自我を認め自我を無くそうと思うのは矛盾です。

※あなたが望まなかったら(需要を作らなかつたら)何も生まれません。今あなたに苦しみがあるとしたら、それはあなたが望んだからです。あなたが望みながら苦しみたくないと思うのは、矛盾なのです。

※あなたの意識の前で、悪いことが起きたり悪い物を見せられたりするの、あなたが望んでそうしたらです。なのに「悪いことが起きた！悪いものがある！」、と腹を立てるのは矛盾なのです。

○宇宙は言葉によって成れり！

本源の神の宇宙には、何も有りません。しかし、何でもある宇宙でもあるのです。

私たちが存在しているこの表現宇宙は、「意・口・身」によって創られました。つまり神は、表現世界を創ろうという「意(思い・意思)」を持ち、「口(言葉)」を使って「身(波動・響き)」を生み出し、表現宇宙を創ったわけです。「意」は創ろうという思い(意思)であり、「口」は言葉であり、「身」は「波動・響き」です。この「意・口・身」は、自我から生まれたものです。ということは、創造主である神に自我が有ることになります。神は自我がないと言われますが、そんなことはありません。神は自我そのものなのです。なぜなら、自我が無くては思い(意思)が持てないからです。思いが持てなくて、表現宇宙は創れません。だから、神は自我を持っているのです。ただし、自我が生まれるのは、表現宇宙を創造した時だけです。その前は、無波動の状態なのです。無波動の状態という意味は、何もない状態という意味です。しかし、いつでも発動できる、何でも思える、状態でもあるのです。これが、本源の宇宙は何も無い宇宙だけれど、何でも有る宇宙であるという意味なのです。

私たちも自我を持っています。その自我で思っています。自我で言葉を話しています。自我で行為をしています。一体私たちと神は、どこが違うのでしょうか？

○裏を理解力で観る!?

表の見える物を見ている時は、その裏の見えないモノ「無色」も見ているのです。音楽を聴いている時は、その裏の「無音」も聴いているのです。食べ物や味わっている時は、その裏の「無味」も味わっているのです。臭いを嗅いでいる時は、その裏の「無臭」も嗅いでいるのです。感触を感じている時は、その裏の「無感触」も感じているのです。大元がなかったら、色も、音も、味も、臭いも、感触も、生まれないのです。私たちは、感覚にかからないモノを、理解力で受け取るしかありません。感覚にかからないモノを理解力で受け取ることによって、「ああそうか！ 感覚にかからないモノの背後には、神が存在しているのだ！」ということを知るので、感覚にかからないモノは神の側面であり、その側面は理解力でしか受け取れないのです。つまり感覚にかからない原因なき原因者(神)は、理解力でしか感得(知る・納得する・受けとる)することができないのです。

※ 本当に有るモノ(絶対的なモノ)には、反対はありません。本当に無いもの(相対的なモノ)に反対なモノが有るのです。それは、一つの中に相手はいないからです。でも、相手がいないと自分の存在がないので、相手(相対世界)を作り、自分自身を創り続けているのです。

※何でもそうですが、こうだと決めつけてはなりません。なぜなら、こういう人だと決めつけられ、自分の想念でそのような人を作ってしまうからです。宇宙(人・社会・世界)をこうだと決めつけられ、そういう宇宙(人・社会・世界)を自分の想念で作ってしまうのです。それは、自分で自分に催眠術をかけているようなものです。

○限定枠を外す

今日は、「魂は一生の内に三段階成長できる」、という言葉の意味を説明したいと思います。よく参拝一礼とか、万歳三唱とか、三三九度とか、三つ子の魂百までもとか、三の数字の絡む言葉を使いますが、この三という数字は、無限を意味する数字なのです。それは、一を三で割っても割り切れないからです。ということは、「魂は一生の内に三段階成長できる」という意味は、「魂は一生の内に無限に成長できる」という意味になるのです。もし皆さんが、「一生の内に三段階までしか成長できない」という意味で受け取っているなら、そんな考え捨ててください。そんな限定的な思いを持っているのは、本当に三段階までしか成長できなくなります。私たちは、想念の使い方次第でいくらでも成長できるのです。

もう一つ注意したいのは、「自分はこんな狭い心を持っているから、こんな悪い性格を持っているから、

こんな悪いことをしたから、自覚の境界線を超える資格が無いのでは？”と思わないことです。天使とて地獄に落ちると言われるくらい、この表現世界は厳しいのです。熟した魂であっても目覚める前は、一般人と同じように悪い思いを持つし、悪い言葉を吐くし、悪いことをするのであります。私も目覚める前は、人間のクズだったのであります。そんな私でも自覚の境界線を超えられたのですから、皆さんが超えられないはずはないのです。悪いことをするのはと魂の大きさと関係ないのです。一度大きくなった魂は、たとえ人殺しをしたって小さくなることはないのです。自覚の境界線を超えられるかどうかは、あくまでも魂の大きさです。理解力の高さです。理解力の高さが自覚の境界線を超えさせるのです。

自分を成長させるのは、自分の努力でいくらでもできるのでありますから、限定的思いを持たないことです。

○想念の偉大さ！

私が地球人類に声を大にして言いたのは、想念の偉大さを知って欲しいということです。私たちの一つの想念が、人生環境を、社会環境を、世界環境を、自然環境を、良くも悪くもしているのです。それは、私たちの想念が、神と寸分も違わない力を持っているからです。

あなたは、想念を使って車を手に入れたのではありませんか？ 想念を使って嫁さんを手に入れたのでは

ありませんか？ 想念を使ってお金を手に入れたわけではありませんか？ いや、病気も、事故災難も、家庭の不和も、人との諍いも、みな自分の想念で作ったのです。私はそんなモノ作った覚えがないと言われるかもしれませんが、あなたの憎しみ・恨み・怒り・心配・恐怖・イライラの想いが遠因となって、そのような不幸を作ったのです。

神の世界には、何も存在しないのです。何も存在しないのは、神が想念を動かしていないからです。想念を動かさなければ何も生まれないのです。それでは自分の存在がないので、神は想念を動かして表現世界を創り、そこに自分の分身である人間を送られたのです。そのとき持たされたのが、神と寸分も違わない想念だったわけです。ただし、一つだけ神の想念と違う点は、「一時も何も思わないでいられない！」という違いです。でもその想念が、私たちを成長させてくれるわけですから、その想念を持たされたことは有り難いことなのです。

あなたはいつも何を思っていますか？ 良いことですか？ 悪いことですか？

あなたは良い想念が持たなくて、悩んでいるのではありませんか？ 人生の目的は、この想念を正しく使えるようになることなのです。

もし何も思わなかったら、何一つ苦しみは生まれません。しかし、喜びも幸せも生まれません。

う。勿論、私たちの存在ありません。それどころか、一瞬にして表現世界は消えてしまうでしょう。幸いなことに何も思わないでいられないから、私たちも、表現世界も、安泰なのです。それほど私たちの想念は、偉大な力を持っているということです。

私が想念の偉大さを知って欲しいというのは、想念の使い方次第で人生をどうにでも変えることができるからです。人生万端想念次第です。何もかも想念次第です。どんな問題も、想念で解決できるのです。どうか、想念の偉大さを知ってください。

○見えないモノの実体を知る

皆さんは、見えないモノを軽んじていますが、見えないモノの実体を知るとはとても大切なことなのです。なぜなら、見えないモノの実体を知れば、幸せに近づくことができるからです。それでは、見えないモノの実体を探ってみましょう。

なぜ、見えないのでしょうか？ それは、波動が精妙で私たちの視覚で捕らえられないからです。反対に見える物は、波動が荒いので視覚で捕らえられるのです。私たちが住んでいるこの表現宇宙は、波動の組み合わせによって出来ている摩擦の世界なのです。波動が摩擦を生み出し、その摩擦が見える物を生み出すの

です。見えるということは摩擦があるという意味であり、見えないということは摩擦がないという意味なのです。ということは、見える物の沢山ある世界は、摩擦の多い世界だということです。摩擦のある世界は抵抗があるので、いつか必ず消えて無くなります。つまり摩擦のある世界は、有限の世界なのです。しかし摩擦のない世界は、永遠に無くなりませんから無限の世界なのです。では、摩擦のある世界と摩擦のない世界のどちらが、幸せ多い世界でしょうか？ それは、当然、摩擦のない世界です。なぜなら、摩擦のある世界では、次のような厄介事が起きるからです。

- 抵抗が生まれます。
- 引っかかりが生まれます。
- 熱が生まれます。
- 衝突が起きます。
- 躓きが起きます。
- 行き違いが起きます
- 争いが起きます。

さらに、

- 情報が多くなります。
- 交流が多くなります。
- 体験が多くなります。

このように摩擦(凹凸・波動)のある世界では、様々な波風が生まれますので、苦しみが多くなるのです。摩擦がなければ、引っかかりも、衝突も、争いも起きませんので、摩擦のない世界は苦しみがないのです。要するに、悩み苦しみが生まれる世界は不完全で、悩み苦しみが生まれない世界は完全であるということですから。見える物・一時の物・有限の物は、不完全なのです。見えないモノ・永遠のモノ・無限のモノは、完全なのです。だから私たちは、見えないモノを大切にしなければならぬのです。

では神は、なぜこのような摩擦の多い世界をわざわざ創られたのでしょうか？ もうお解りのことと思いますが、摩擦の多い世界では、様々な体験ができるからです。魂は体験を通して大きく育つのです。ですから摩擦の多い世界は、魂の成長のためにはどうしても必要な世界なのです。でも、皆さんのような熟した魂には、もうこのような苦しい世界は必要ありません。さあ、今皆さんが持っている見える物と見えないモノの見識を深め、一日も早く摩擦の多い世界から卒業しましょう。

※何が幸せをくれるのでしょうか？ 物やお金でしょうか？ 地位や名誉でしょうか？ いいえ、意識です。

意識が幸せをくれるのです。なぜなら、意識が幸せを感じるからです。その意識は実在です。ということとは、その意識が感じている幸せも実在ということ。幸せだけは、どんな幸せであっても実在なのです。例えば、夢の中で味わっている幸せも、この世で味わっている幸せも、幽界で味わっている幸せも、自覚の境界線を超え節目節目で味わう幸せも、みな実在なのです。実在という意味では、どんな幼い魂が感じている幸せも、どんな高度な魂が感じている幸せも、みな平等であるということです。勿論、幼い魂が味わっている幸せも、高度な魂が味わっている幸せも、比べるできませんから、平等なのです。このように、実在においても、幸せにおいても、神の公平性は保たれているのです。

○神そのものとなって瞑想せよ！

真理を深めてゆくと、外側の物はすべて幻で、実在していないことが解ってきます。そうするとその人は、外側の物から離れようと意識するようになります。でも、意識すれば意識するほど外側の物が気になり、かえって外側の物から離れられません。

外側の物を意識している状態は、実際に無い幻を作っている状態なのです。つまり、肉体を意識している状態は、実際に無い幻の肉体を作っている状態なのです。なぜなら、意識は何でも作ってしまうからです。

とはいっても、五感がある限り、肉体を意識しないわけにはゆきません。ではどうすれば、肉体から意識を離すことができるのか？・・・それは、意識を内側の一点に集中させることです。

私たちが五感で感じている物は、すべて外側の幻です。その外側の幻で、一番近くにあるのが自分の肉体です。私たちは、その肉体をいつも意識で感じているのです。意識で感じているわけですから、意識を肉体から離せば肉体は消えてしまうはずですが、では意識を肉体から離すには、どうすればいいのでしょうか？一番簡単な方法は、背中の奥の奥の一点に意識を置くことです。背中の奥の奥の一点に意識を置くと、次第に外側の物が消え、肉体感覚さえもなくなります。どうしてそのようなことが起きるかといいますと、実在しない物は意識しなければ消えて無くなる仕組みになっています。外側の物は、一時描かれた絵のようなものですから、意識しなければ消えてしまうのです。でも実在しているモノは、意識しなくても消えないのです。意識そのものが、実在そのものだからです。

私たちは、外側の物が実在していると誤解しているのです。それは、五感があるためです。五感が、実在しているような誤解を生んでいるのです。実在しているのは、自分の意識だけです。その実在している意識に意識を集中するのが、瞑想なのです。意識が意識を意識するのです。意識が意識を瞑想するのです。意識そのものが、神だからです。だから、神が神を意識するのです。神が神を瞑想するのです。このことを知花

先生は、次のようにおっしゃっておられました。「神を礼拝するには己が神そのものと成って礼拝せよ！」と……。つまり、「自分が神そのものに成って神を瞑想しなさい！」というわけです。

※瞑想は想念力に頼っています。想念は、何でも実現させる力を持っているからです。その想念の力を、瞑想に利用しているだけです。だから、想えば良いのです。ただ、それだけです。

○意識は幸せがあれば良い！

人が何を言おうが、自分が楽しければいいのです。こう言うと、“エゴイストだ！”と思うかも知れませんが、真理を深く知った人なら、私の言っていることが解って頂けると思います。

私たちは、意識そのものなのです。その意識は、宇宙に一つしかありません。一つしか無いということは、私たちは宇宙そのものであるということです。ではその意識は、何を欲しているのでしょうか？ 物でしょうか？ お金でしょうか？ 地位や名誉や権力でしょうか？ いいえ、自分の心が、

平安になること！・・・

楽しくなること！・・・

愉快になること！・・・

嬉しくなること！・・・

爽快になること！・・・

すなわち、幸せになることを欲しているのです。

世の人々は、躍起になってこの世のものを追いかけていますが、それは幸せを得る一つの方法であって、そんなものが無くても幸せになれるのです。なぜなら、幸せは、肉体が感じるのではなく、意識が感じるからです。

意識は実在しています。幸せも実在しています。ですから、実在している意識は、実在している幸せを欲するのです。その幸せは、誰かが与えてくれるのでも、何かを与えてくれるのでもありません。自分が自分に与えるのです。では、どのように自分に与えるのでしょうか？ それは、自分が意識そのものであると心の底で知った時、自動的に与えられるのです。どうか、自分が意識であることを心の底で知ってください。知ればその幸福感は、全宇宙に波及して行きます。それは前述したように、宇宙そのものが私たちだからです。

よく考えてみてください！ あなたは何が欲しいのですか？ 幸せだけが、欲しいものではありませんか？

その幸せは、外から得られますか？ 何か物から得られますか？ 誰かから得られますか？ 何も、誰も、与えてくれないのです。あなたが、“自分をどう思うか”で与えられるのです。

繰り返します。あなたは、意識そのものなのです。その意識は、楽しいことが好きなのです。嬉しいことが好きなのです。つまり、幸せが好きなのです。

※ 肉体は、あなたではありません。意識があなたです。肉体は、意識の乗り物です。

意識は、いつか必ず肉体から降りるのです。その意識が持つて帰れるのは、幸せだけです。

○ 実在するモノとは？

見える物は非実在です。見えないモノは実在です。見える物は、表面だけの(中身のない)ものですから非実在なのです。しかし見えないモノは、奥の深い(中身のある)ものですから実在なのです。

見える状態は、観えない状態なのです。

見えない状態は、観える状態なのです。

また見える物は、何の発展性も何の可能性もない死に絵です。見えないモノは、無限の発展性と無限の可

能性のある生き絵です。その意味では、人間は見える物ですから死絵なのです。神は観えないモノですから生き絵なのです。だから人間は非実在で、神は実在だというわけです。ただし、人間の中に宿っている意識は実在します。人間の形は殻ですから非実在ですが、その中に宿っている意識は中身ですから実在するので

す。

私が「人間は神である！」と断言するのは、人間の中に宿っている意識は神だからです。形は結果です。意識は原因です。原因と結果は切り離すことが出来ませんから、神は人間であり人間は神であるということになるわけです。「人間は神である！」こんな確かなことを、どうして人間は信じようとしないのでしょ

か？

※ 幸せや善は実在しますが、不幸や悪は実在しません。なぜなら、実在しない人間が作った不幸や悪だからです。でも、幸せや善は実在するのです。それは、実在する神が創った幸せや善だからです。

○宇宙は単純に出来ている！

宇宙は、単純に出来ています。子供でも解るように易しく創られているのが宇宙なのです。その証拠に神は、一番必要な物ほど私たちの身近に置いてくれています。例えば、空気・水・土・労働力の順で、身近に

置いてくれています。また肉体は、それよりも近くに置いてくれています。更に近いのは魂です。そして、その魂が発信する想念です。この想念が人生を作っているわけですから、最も身近な存在と言えるでしょう。その想念が、幸せをくれるのです。しかし世の人々は、外に出てお金を稼ぎ、外から幸せを買おうとしています。それは、幸せが何処にあるのかわからないからです。神が、一番必要な物を身近に置いてくれているように、幸せも一番身近なところに置いてくれているのです。それも、お金もいらず、何処へ行く必要もなく、「ただ、神を想うだけで良い!」という簡単な方法で・・・。

難しく考えないでください。今あなたがやらねばならない事は・・・。

○ 肉体を維持するために必要な事を真心を込めてやる事です。

○ 神を想う瞑想をする事です。

この二つをやっているれば、あなたは幸せになれます。これは、今日まで自分の想念によって人生を作ってきた実績が証明しているのですから間違いないのです。

※肯定的な想念を持つようにしよう!

肯定的な言葉を使うようにしよう!

行動的な人になろう！

明るいところの好きな人になろう！

どんなことも良く受け取るようにしよう！

○自分を責めてはならない！

悪い思いを持つ自分を責める人がおりますが、自分を責めてはなりません。なぜなら、たとえ悪い思いを持ったとしても、それは今の原子核の量によって思ったことですから、それは必然であり、良いことだからです。事実その人は、悪い思いを持つことによって痛い目にあい、成長して来たではありませんか？ ということとは、その思いは良い思いだったということです。私が “あなたの選択した人生の道は、みな良い道なのですよ！” というのも、今のあなたの原子核の量で選んだ必然の道だからです。たとえ、その道が苦しい道であったにしても、苦しみが成長を促すのですから、それは悪い道では無かったということです。悪い必然など無いのです。必然は、みな良いことなのです。必然は、成長を促す法則だからです。

“私は容姿も醜く、こんな性格で、こんな欠点を持っている何もできない人間です！”と自分を責める人がいますが、たとえ、どんなに醜く、能力的に劣っていても、その肉体環境は、魂を成長させるために与え

られた必然の環境ですから、自分を卑下してならないし、惨めになってもならないし、責めてもならないのです。私たちは、失敗の中から学び、苦しみの中から強くなり、悪い環境の中から、美しい花を咲かせるのです。そう思えば、どんな人にも、どんなモノにも、どんな環境にも、また自分にも、感謝できるでしょう。

※なぜ、必然は良いことか？ それは、必然は完全から生まれてくるからです。もし必然が悪いことなら、神は不完全な宇宙を創ったことになり、神は不完全になってしまいます。そんな神がいるわけがないのですから、必然はどこまでも完全で良いことなのです。

○なぜ私は(自分は)、存在しなければならぬのか？

「なぜ私(自分)は、存在しなければならぬのですか？ 何も、私が存在しなくても良かったはずです。誰が、私を存在させてくれと頼んだのですか？ 私はそんなこと頼んだ覚えもないし、お願いした覚えもないのに、どうして私が存在しなければならぬのですか？ 存在しなければならぬ義務でもあるのですか？ この宇宙に私がいなくても、何の問題もないはずですよ。なのに今私は、存在させられています。いや、

気が付いたら存在していたのです。そのために、苦しい人生を送らなければならない、こんな理不尽な押し付け、ないではありませんか？」と、あなたは文句を言うかも知れません。そうですね。自分で存在してなければ、何の苦しみも悲しみも体験しないで済んだのですからね。でも、良く考えてみてください。もしあなたがいなかったら、この宇宙がありますか？ あなたがいるから、宇宙があるのですよ！ それはあなたが宇宙の創造主だからです。あなたがいなければ、何も始まらないし、何も生まれないのです。これは、今始まったわけではないのです。永遠の昔からそうだったのです。宇宙は永遠に存在していたわけですから、あなたも永遠に存在していたのです。ということは、あなたそのものが、宇宙そのものであるという意味です。このことは、あなたのような熟した魂なら解るはずですよ。

私も真理を嘔じり始めの頃、あなたと同じ疑問を持ちました。自分を存在させてくれるなど、お節介だど・・・自分の意識がなかったら、何も苦しまないで済んだのにと・・・です。ですから私は、「自分の意識を無くしてください！」と神様に頼んだ時期があったのです。でも、「お前がいなかったら宇宙は存在できないではないか、宇宙はお前で、お前が宇宙なのだから！・・・」との神様からの返答でした。それで私は、意識の無くなることを諦めたのです。

意識は絶対無くすることができないのです。これだけは、神様の勝手な押し付けだと言ったって、どうしよ

うもないことなのです。あなたは、自分の意識の無くなった後の事を考えられますか？ 絶対、考えられないはず。これはあなたの意識が、意識の当体であり、意識の源であり、意識の大元だからです。すなわち、原因無き原因者だからです。あなたの意識が、あなたの意識を生み出したのです。この宇宙に、あなたしかないからです。絶対無くならない意識なら、どうすれば良いのですか？ 幸せの中に入るしか無いではありませんか……。そうです。苦しみたくなかったら、幸せの中に自分の意識を留めるしかないのです。その留める方法が、神の自覚に入ることなのです。

注意・・・この「私は」肉体の私ではなく、意識の私のことを言っているのです。誤解のないように・・・。

○神を想い続けていれば、どんな問題も解決する

「吾神なり！」を想い続けていれば、どんな問題も解決するのです。「ありがとう！」を想い続けていれば、幸せになれるのと同じです。なぜなら、「吾神なり！ ありがとう！」を想いながら、同時に悪い想いを持ってないからです。「吾神なり！」の言葉に問題解決する力があるのではなく、「吾神なり！」の言葉自体が良い波動を持った言葉であり、「吾神なり！」を想っている時は、同時に悪い想いが持てないからです。

問題を解決する、こんな簡単な方法があったのです。皆さんは、難しく考え過ぎなのです。何か難しいことをしなければ、問題が解決しないと思っっているのです。

人生は、想念次第でどうにでもなるのです。良く考えてみてください。今まで何が人生を作ってきたと思いますか？ 肉親ですか？ 隣人ですか？ 学校ですか？ 会社ですか？ お金ですか？ 地位や名誉ですか？ 社会ですか？ 国ですか？ ……。すべて自分の想念が、作ってきたものではありませんか？ 旅行に行きたいと想い、旅行に行つたはずです。自動車が見たいと想い、自動車を手に入れたはずです。嫁さんが欲しいと想い、嫁さんを手に入れたはずです。すべて自分の想念の成果です。モノだけではありません。病気も、事故も、自然災害も、みな自分の想念が作ったのです。あなたは、「私はそんな不幸など作つた覚えがない！」というかも知れませんが、あなたの憎しみの想いや、恨みの想いや、怒りの想いや、心配・恐怖・イライラなどの想いが遠因となつて作られたのです。想念は、何でも作るのです。それは、神と同じ想念を持っているからです。自分の想念で不幸を作つたのであれば、幸せも自分の想念で作れるはずですよ。それは良い想念を持てば、すべて問題解決するという意味なのです。

良い思いの一番は、神を想うことです。神を想っていれば、あなたの人生は間違ひなく良い方向へ変わつて行きます。それは、神を想っている時は、悪想念を持たないからです。「ありがとう！」の思いは、確か

に波動の良い思いですが、でも「ありがとう！」を思っている時は、悪い思いが持てないというだけで、何かを作るわけではないのです。しかし「神を想い続けていれば」、

原子核を増やすことができます。

地球を浄化することができます。

自分の欠点を無くすことができます。

どうか、想念を有効に使ってください。あなたの人生は、想念次第なのでから・・・。

※思ったことは必ず実現する。思わないことは絶対実現しない。この意味の深さを噛み締めてください。

○真理の目から見た人助け

世の中には、ボランティアをやったり、寄付をしたりして人助けしている人たちが大勢おりますが、心から「人助けしたい！」と違ってやっている人が、どれほどいるでしょうか？ つまり、純粋な動機で人助けしている人が、どれほどいるでしょうか？ そこに、何らかの成算が入っていないでしょうか？ 例えば、人に良く見られたいとか、犯した罪の償いのためとか、生きがいのためとか、（心の空白を埋めたいた

め)自分の名を知らしめたいとか、自己満足のためとか、……。殆どの人は、自己満足のためにやっているのではないのでしょうか？ 私はこれを批判するつもりはありませんが、「安易な人助けは罪になる！」ということだけは、心に留めていて欲しいと思います。では、なぜ安易な人助けは罪になるのか、真理の目から考えてみましょう。

人助けする場合、本当にその人のためになっているか？ よく考えてせねばなりません。近年では、災害が起きると各地から被災地に沢山の救援物資が送られてきます。時にはあまり多すぎて、処分に困るほどです。勿論、被災地の人たちは喜んでおりますが、本当に被災人の為になっているのでしょうか？ このように言うのは、あまりやり過ぎると、自力で立ち直る意欲を奪いかねないからです。たしかに、切羽詰まっている場合は、助けてやらねばならないでしょう。でも、どの程度まで助けてあげるか？ 見極めが大切なのです。

なぜ、苦しいことが起きるのでしょうか？ 自分が苦しい原因を作っているからではありませんか？ 事件や事故や自然災害の苦しみも、病気の苦しみも、貧困による苦しみも、みな自分が原因を作っていたから起きたのです。なのに、安易に苦しみを取っては、そのことに気付かないではありませんか？ それでは、成長が望めません。だから、安易な人助けは罪だということです。では、マザーテレサのやっていた人助けは悪

かったことか？　ということになるわけですが、どんなに動機が良くても、人の成長を考えず人助けしていったなら、それは良いとは言えないでしょう。ただし、こういうことは言えます。

たとえば不純な動機で人助けしたとしても、それは助けられた人の今の原子核の量において助けたいと思っただけの必然ですから、それは良いことなのです。助けられた人から見たら、どんなに安易な助けられ方であっても、助けられるべきにして助けられた必然だからです。助けられるべきにして助けられた必然には、ちゃんとした意味があり、また安易な助けられ方の中にも、ちゃんとした意味があるのです。それは、どんな助けられ方の中にも、ある部分を成長させる材料が含まれているからです。

世の中にはなぜ、助けられる人と助けられない人がいると思いますか？　それは、その背後に原因と結果の法則が働いているからです。助けられた人は、助けてくれる人に出会ったのも必然、助けられる環境にいたことも必然、助けられる時代に生まれてきたことも必然です。一方助けられなかった人も、助けてくれる人に出会えなかったのも必然、助けられない環境にいたことも必然、助けられない時代に生まれてきたことも必然です。マザーテレサは、今の自分の原子核の量(魂の熟成度)によって人助けしたいと思って人助けしたわけですから、それは必然的行為として良いことであり、それによって助けられた人も、助けられるべきにして助けられた必然ですから、それは良かったのです。必然は、みな良いことなのです。

必然によって運ばれている宇宙に、悪い人助けなど無いのです。とは言え、原因と結果の法則を無視した人助けは、できるだけ避けるべきでしょう。動機が大切なのは、法則を犯さないためです。人助けするなら、相手の成長を考え、やり過ぎない配慮のもとにやりたいものです。

※安易な人助けは、罪になるという話は、安易に病苦を取っては成長の妨げになるという話に通じています。簡単に病気を治したのでは、その人から成長材料を奪ってしまうからです。またこれは、人にお節介を焼く事とも通じている話なのです。世の人々は、良かれと思ってお節介を焼くのですが、お節介を焼くことで人から成長材料を奪っている場合が往々にしてあるのです。

お節介焼きの心理状態は、自分がお節介を焼いて欲しいからです。これは、人に教えたがる人の心理状態と似ています。自分の中に教えて欲しい思いがあるから、人に教えようとするのです。これは人を頼る癖をつけてしまい、良いこととは言えません。何ごとにも、努力して、厳しいことをして、成長してゆかねばなりません。その意味では、厳しいことをさせてやることが愛です。努力させてやることが愛です。いらぬ手助けは、人を墮落させます。たとえどんなに動機が良くても、やり過ぎは成長の妨になるわけですから、中庸を見極め助けてやるのが大切です。その中庸の見極めも、魂の熟成度によって違うわけですから、助け方

もみな違ってくるということです。

○相対の仕組み

奇数と偶数があります。この二つの数字は交互に置かれています。これは補完し合うためです。この宇宙は、相反するモノが補完し合いながら成長してゆくようにできているのです。

- 相対宇宙と絶対宇宙
- 人間と神
- 見える物と見えないモノ
- 陰と陽
- 影と光
- 女と男
- 体と心
- 自我と真我
- 偽と真

○ 悪と善

○ 醜と美

熟語として普通は、左側に「善・悪」の「善」とか「美・醜」の「美」とか「幸・不幸」の「幸」と言った良い意味の字を置くのに、なぜここでは左側に悪い意味の字を置いたかと言いますと、左側は実際に無いモノで右側は実際に有るモノだからです。左側の世界(陰の世界・物質の世界)は、実際に無い世界なのです。右側の世界(陽の世界・意識の世界)は、実際に有る世界なのです。物質の世界は、一時存在しているニセモノで、意識の世界は永遠に存在しているホンモノなのです。だからと言って、物質の世界を軽んじるわけにはゆきません。なぜなら、物質の世界が無くては、意識の世界の存在意味が無いからです。その意味では、物質の世界と意識の世界は、同等の価値があると言っていいでしょう。

物質の世界と意識の世界は、互いに補完し合いながら存在価値を高め合っているのです。しかし、物質は何の力もありません。ですからホンモノを存在させるために、ホンモノがニセモノを装って活躍しているのです。つまり、神を存在させるために、神が人間を装って活躍しているのです。

二つは一つであり一つは二つでなくては一つになれないという、何とも不思議な関係にあるのが、物質宇宙(相対宇宙)と意識宇宙(絶対宇宙)の関係なのです。つまり、人間と神が補完し合いながら存在を保ってい

る不思議な関係にあるのが、物質宇宙と意識宇宙なのです。

○実践が大切！

学びの友の中に、真理を学んでいれば自覚の境界線が超えられると勘違いしている人がおりますが、真理が自覚の境界線を超えさせてくれるものではありません。真理を実践することによって、自覚の境界線が超えられるのです。真理は、あくまでも道理を示しているだけです。実践の伴わない真理は、単なる絵に書いたボタモチです。それは、毎週日曜日キリスト教会に行って賛美歌を歌っているようなものです。私の本を讀んで私の話を聴いて満足しているのは、賛美歌を歌って満足しているようなものなのです。

真理の実践とは、原子核を増やす三つの方法のことを言っているのです。つまり、社会体験をすること、瞑想をすること、思索をすることです。

- 社会体験している時は、心身を動かしているので実践になっています。
- 瞑想をしている時は、想念を動かしているので実践になっています。
- 思索している時も、想念を動かしているので実践になっています。

この三つの方法は、実際にエネルギーを動かしているわけですから、間違いない前に進むのです。

歩くから景色が変わるのです。座っていては、景色は変わらないのです。景色が変わらないということは、成長しないということです。あくまでも自力です。自力で成してこそ、扉が開かれるのです。私は努力の大切さを言っているのです。何かを成し遂げるには、努力が必要なのです。

くだいようですが、繰り返言います。真理が自覚の境界線を超えさせてくれるわけではありません。真理を実践することによって、自覚の境界線が超えられるのです。くれぐれも誤解なきように・・・。

※ 瞑想できる有り難さ！瞑想できる幸せさ！

瞑想できるところまで進化してきた自分を、どうか褒めてやってください！

私たちは、本当に幸せなのですから・・・。

○ 1を知れば 10を知る!?

1を知れば 10を知ると言われますが、そんな半端なものではありません。1を知れば無限数を知ることができるのです。なぜなら、無限数は1の分化したものだからです。この宇宙には、1から分かれた無限数の原子番号が有るのです。つまり、元数1から分かれた無限の分数が有るのです。無限の分数は、元数1か

ら分かれたものですから、分数の一つを知っただけでも元数1を知ることができるのです。

今この地球では、百十数個の元素が発見されていますが、宇宙には無限に近い数の元素があるのです。その一つ一つの元素は、元数1から出てきた同じ仲間ですから、一つの元素を知れば元数1の正体が解るので、鉱物・植物・動物・人間は、その元素の組み合わせによって作られた物ですから、鉱物を知っても、植物を知っても、動物を知っても、人間を知っても、元数1の正体を知ることが出来るのです。

今 科学者は、見えないモノに様々な名前をつけておりますが、どんな名前をつけても出処は1ですから、その本性はみな同じ元数1、つまり神なのです。どうか名前に惑わされなくてください。どんな物も、元数1から出てきた同じ神の子なのですから・・・。

この宇宙に神でないものは無いのです。どうか、全ての兄弟姉妹を愛してください。あなたと同じ神の子なのですから・・・。すなわち、自分なのですから・・・。

※ 1が二つも三つもあつては無限でなくなりません。一つしか無いから無限なのです。無限が二つも三つもあつては無限でなくなりません。一つしか無いから無限なのです。だから1は無限であり、無限は1なのです。つまり、どんな数も1であり、無限なのです。これが、私が1であり無限であると言える根拠です。

○真理の奥深さ!!

ある人は言います。「真理を知れば知るほど自覚の境界線が遠のく」と・・・。そうなのです。この宇宙は、探っても探っても届かないほど奥が深いのです。それは、宇宙は無限だからです。無限をどうして知ることができましようか？

あなたは、「これ以上無い幸せな意識体験をした!」と思うかも知れません。でもそれは、ほんの一端の体験です。なぜなら、宇宙は無限だからです。私が、「永遠に悟ることができない!」というのは、宇宙は、神は、本当の自分は、無限だからです。どこまで探っても探っても掴めないのが、宇宙なのです。神なのです。本当の自分なのです。ですから私は「悟ったと言わないでください!」というのです。どんな覚者も永遠に悟れない真理なのですから・・・。

宇宙の奥深さを知った者は、

- 謙虚になります。頭の低い者になります。
 - 自分の成長を唯一の目的とします。
 - 内側に多く意識を向けるようになります。(瞑想を多くするようになる)
- それは、主観宇宙の確信を得たからです。つまり、自己完結型宇宙の確信を得たからです。でも宇宙の奥

深さを知らない者は、

○ 自負します。高慢になります。

○ 人の成長や世界の平和を望みます。

○ 外側に多く意識を向けるようになります。(あまり瞑想をしない)

それは、まだ主観宇宙の意味を知らないからです。つまり、自己完結型宇宙の意味を知らないからです。だからと言って、その人を批判してはなりません。なぜなら、その人の原子核の量によって思った事ですから、それは必然だからです。

一挙に成長する者などいないのです。少しずつ少しずつ成長するのです。私もそうだったのです。あなたもそうだったのです。その人もそうなのです。ですから、温かい目で見守ってやりましょう。

注意・学び始めの頃は、誰もが「明日にでも自覚の境界線が超えられる！」と思うものです。でも学びが深まれば、簡単でないことが分かってきます。それは、学べば学ぶほど真理の奥深さが観えてくるからです。だからと言って、諦めないでください。なぜなら、風呂桶にどれくらいお湯が溜まっているかは、誰も分からないからです。明日 百本目の刀が得られるかも知れないのですよ！ ですから、希望を持って真理

を学び続けましょう。

○人はどうして拘るのか？

人間は、時間に拘ったり、年齢に拘ったり、性別に拘ったり、職業に拘ったり、慣習や風習に拘るなど、沢山の拘りを持ちます。拘れば拘るほど自分を窮屈にするのに、人はどうして拘りを持つのでしょうか？

「人間の一番不可思議なところは、拘りを持つことである」とある覚者は言っていますが、これは自我人間の特徴の一つで、他の生き物にはない部分です。では、一体この拘りはどこから来るのでしょうか？

人に負けたくない、競争欲から来るのでしょうか？

自分を良く見せたい、自分を誇示したい、自己顕示欲から来るのでしょうか？

自分の身を守りたい、自己保存欲から来るのでしょうか？

自分の身を守る自己保存欲の拘りは仕方がないとしても、慣習や風習など他の拘りは、うまく立ち回れば、あるいは人の目を気にしなければ、拘らなくても良い拘りです。では人間は、なぜ拘りを持つのでしょうか？

それは、心が満たされていないためです。心が満たされていないと、空白を埋める何かを探そうとします。でも、その空白を埋めてくれるモノが何か解らないのです。だから、じれったいのです。歯がゆいの

です。もどかしいのです。その鬱憤を、拘りで晴らそうとするのです。

真理を学び自分の本性を知った者は、拘りを持つことが少なくなります。それは、心の空白が埋まったからです。ですから覚者は、一切拘りを持たないのです。

※拘りは囚われであり、自己保存欲の一つです。そんな拘りに囚われては、自分を不自由にします。どうか拘りを捨ててください。この世の拘り事など、実際には無いのですから・・・。

○瞑想の仕組み

瞑想の仕組みの根底にあるのは、私たちが持っている想念です。この想念は、神の意識から生まれたモノですから、神と同じ創造力が付与されているのです。「想念は実現の母」と言われるのも、想念したことは何でも実現するからです。その想念の力を利用して成し遂げようというのが、瞑想なのです。

私たちは、常に何かを思っています。私たちは、何も思えないでられないようにできているのです。ということ、常に瞑想しているということ、瞑想とは、想うことなのです。何か想っている時は、瞑想していることになるのです。ということ、この世界で瞑想していない人は一人もいないということです。

皆さんは、毎秒 毎秒 瞑想しているのです。ただ私たちは、そのことに気付いていないだけです。

今の今だけが実在です。その今の今を感じられるのは、私たちの意識です。意識が想念を生み出し、その想念が物事を成就させているのですから、私たちはその想念を使って今日まで人生を作ってきたのです。事実 私たちは、学校に入りたいと想って(瞑想して)入ったではありませんか。お金を儲けたいと想って(瞑想して)お金を儲けたではありませんか。自動車が欲しいと想って(瞑想して)自動車を手に入れたではありませんか。伴侶が欲しいと想って(瞑想して)結婚したではありませんか。このように私たちは、瞑想によって何でも得てきたのです。ならば神を想って(瞑想して)、神の自覚を得ることもできるのではないのでしょうか？

想った事は何でも実現するのが想念の力ですから、その力を利用しないではもったいないです。さあ、瞑想し神の自覚を得ましょう。

※ この地球で、真の瞑想をしている人は殆どいません。それは、瞑想の意味を知らないからです。瞑想は、無・空になることではありません。また、気持ち良くなることでもありません。神の想いを深め、神の自覚を得ることです。この「自覚」の意味が理解できないため、真の瞑想ができないのです。

理解できなくても良いですから、想念の力を信じて神を想い続けてください。きつと「ああそうか！」と

解る時がきます。

※ 私たちは、何と幸せなのでしょう！ なぜなら、瞑想できるからです。鉱物や植物や動物は瞑想できません。でも私たちは、瞑想できます。これは凄いことなのです。どうか、瞑想できるところまで進化してきた自分を褒めてやってください。

○運命を創っているのは自分の想念である

運命とは「命」を「運ぶ」と書きます。命を運んでいるのは、誰でもありません。自分の想念です。良い想念を使えば運命は良くなります。悪い想念を使えば運命は悪くなります。なぜそのようなことが起きるかというと、良い想念は光を呼び、悪い想念は闇を呼びます。事実 人類は、悪い想念を使って病气や事件や事故や自然災害など呼び寄せているではありませんか。これは、光は良いモノを実現させ、闇は悪いモノを実現させている分かりやすい実証例なのです。あなたが、今の苦しい運命を好転させたいと思うなら、どうか良い想念を使うよう心掛けてください。

私は最近よく想念のお話しをしますが、それは想念ほど頼もしく、また恐ろしいモノはないからです。人

生は想念次第なのです。いや魂の進化は、想念次第なのです。それほど想念は偉大なのです。どうか、良い想念を使うよう心掛けてください。そうすれば、もうあなたの運命は保証されたも同然です。

※命は永遠です。永遠ですから運命は、永遠の命の歴史を通して考えなくてはなりません。今生の運命は、前世の運命を背負っているのです。前世の運命は、前々世の運命を背負っているのです。前々生の運命は、その前の世の運命を背負っているのです。だから、アナログ的な運命の見方が必要になるのです。

今生運命が良いからと言って喜んでいてはなりません。今の自分の一刻一刻の想念が、運命を決めているという自覚を持って、想念を使ってください。

○出を大切にしよう！

「出入り」という言葉はあっても、「入出」という言葉はありません。

「出発」という言葉はあっても、「発出」という言葉はありません。

「呼吸」という言葉はあっても、「吸呼」という言葉はありません。

何事もそうですが、先に出があり後で入りがあるのです。電車でもエレベーターでも、先に人が出て後で

人が乗るのです。そのことを知っている熟した魂は、「出」を重視します。知らない未熟な魂は、入を重視します。だから未熟な魂は、物を多く集めようとするのです。物を多く集めれば、当然ゴミを多く出すでしょう。ゴミの多い社会が幼い社会だと言われるのは、幼い魂は物を沢山集めるからです。それは、心が満たされていないからです。心に空白を抱えている幼い魂は、どうしても物を多く集めようとするのです。

宇宙の整然とした働きをご覧下さい。エネルギー均衡の法則によって見事にバランスが取れています。人間社会はどうでしょうか？ エネルギー収支のバランスが完全に崩れています。その良い証しが、病気・事件・事故・自然災害などの多発です。物質文明が進めば、エネルギーが低くなるため災厄が多くなるのです。

これは、思いの使い方も同じです。私たちは、どんな思いを出し、どんな行為を出しているでしょうか？ 出した思い、出した言葉、出した行為には、必ず回答(結果)が返ってくるのです。「良い思い、良い言葉、良い行為」には、良い結果が・・・。「悪い思い、悪い言葉、悪い行為」には、悪い結果が・・・。これは一ミリの狂いもありません。今人間が苦しんでいるのは、悪い思い、悪い言葉、悪い行為を出しているからです。苦しい人生にしたくなかったら、「出すもの」を良くしてください。つまり、良い思い、良い言葉、良い行為を出してください。その人は、幸せな人生を歩むことが出来るでしょう。

○必然は法則!?

必然とは、当然という意味です。なるべきにしてなるという意味です。この宇宙は、必然によって運ばれているのです。なぜ必然によって運ばれているかと言いますと、原因あつての結果だからです。結果があつたということは、結果を生み出した原因があつたということです。原因のない結果はあり得ないのです。原因と結果は一つなのです。切り離せないのです。必然しかない理由は、原因と結果は切り離せないからです。

もう一つ知って欲しいのは、必然とは、秩序ある状態を言います。偶然とは無秩序の状態を言います。秩序が保たれるのは、法則があるからです。必然は法則なのです。

「何もしないのに返ってくる、何もしないのに起きる、何もしないのに現れるのが偶然であり、無秩序の状態であり、法則のない状態です。何かしたことが返ってくる、何かしたことが起きる、何かしたことが現れるのが必然であり、秩序のある状態であり、法則のある状態です。」

あなたが、石に躓いて怪我したのも必然です。頭に鳩の糞が落ちてきたのも必然です。スリにすられたのも必然です。あの人との出会も、この人との出会も、そのモノとの出会も、あのモノとの出会も必然です。この苦しみも、あの悲しみも、この喜びも、あの感動も、必然です。何もかも必然の産物なのです。ですから、法則も必然の産物なのです。これまで宇宙が永続してこられたのは、必然の法則の下に秩序正しく運営

されてきたからです。もし必然の法則がなかったら、この宇宙はとっくに消滅していたことでしょう。すべて「法則が・必然が」宇宙を支えてきたのです。

あなたが、

この表現宇宙に生まれたのも必然です。

地球に生まれたのも必然です。

日本国に生まれたのも必然です。

今の家族の下に生まれてきたのも必然です。

今の肉体環境に生まれてきたのも必然です。

その環境の中で、苦しみや悲しみの人生を歩んできたのも必然です。

また、その苦しみや悲しみから真理を学ぶようになったのも必然です。

すべて、神の思し召しによって運ばれている必然です。

なぜ必然が神の思し召しかと言いますと、どんな苦しいことも、どんな悲しいことも、どんな厭なことも、みな進化成長へ引っ張ってくれている必然だからです。神は、私たちを成長させたいのです。ですから、安心して今やるべきことを真心を込めてやることです。そうすれば間違いなくあなたは、最終目標である神の

自覚に到達できるでしょう。これが、必然の宇宙における進化の歩みなのです。

○真心を込めてやる！

どんな困難な問題も、真心を込めてやれば必ず解決できます。神は、そのように宇宙を創っているのです。真心とは、神の心のことです。その同じ心を誰もが持っているのですから、真心を込めてやれば相手に伝わらないはずはないのです。家庭内の問題も、隣人との問題も、仕事での問題も、どんな困難な問題も、真心を込めて当たれば、解決できないことはありません。

これは、真理の学びにおいても同じです。今やるべきことを、真心を持ってやること、瞑想も真心を込めてやること、思索も真心を持ってやることです。そうすれば、真理の扉は必ず開かれます。真心は岩をも砕くのです。すなわち真心は、天の岩戸も開くのです。そのためには、強い意志がいります。強い決意が入ります。努力と忍耐が入ります。何でもそうですが、何かをやり遂げるには努力が必要なのです。楽しんで得たものは、ホンモノではありません。苦難の中から得たものが、ホンモノなのです。

人生の目的は、魂(原子核)を大きくすることです。困難なことは、魂(原子核)を大きくするための教材ですから、やり遂げれば間違いなく原子核は増えます。原因あれば結果あります。どうか、強い気持ちを持つ

て困難なことに挑戦してください。あなたは、間違いなく変わります。あなたが変わった分、周りの環境も変わります。

※ 治療が難しいと言われている精神病患者(憑依霊)でも、真心を持ってお世話すれば、快方に向かうと私は信じています。みな同じ神の心を持っているのですから、真心を持って接すれば通じないはずはないのです。

○人の涙と神の涙

人の涙は、情から生まれた汚れた涙です。神の涙は、愛から生まれた清い涙です。同じ涙ですが、込められているモノが全く違うのです。では、その違いは一体何でしょうか？

人の涙には、何らかの成算が入っています。たとえば、自分を哀れんで流す自己憐憫の涙、人の目を気にして流す自己顕示の涙、感情を掻き立てて流す作り涙、人の気を引くお芝居の涙など、不純な涙が多いのです。この宇宙には、悲しみの涙とか、苦しみの涙とか、怒りの涙とか、悔しさの涙とか言った汚れた涙など無いのです。あるのは、独りで出てくる魂の喜びの涙だけです。その涙の中には、何一つ不純な思いが入っていないのです。だから、清いのです。美しいのです。その涙に触れた途端、どんな汚れも流れ落ちる清

純な涙です。

私たちは、そんな涙を流したいものです。

○私には嬉しいことが八つある

私には嬉しいことが八つあります。

一つは、私は消えて無くなる肉体では無く、永遠不滅の生命意識であるという嬉しさ・・・

二つは、この宇宙には、本当に有(真のみが有る)るものだけが有るといふ嬉しさ・・・

三つは、この宇宙は、善と正義によって守られているといふ嬉しさ・・・

四つは、この宇宙は、美によって飾られているといふ嬉しさ・・・

五つは、この宇宙は、永遠であり、無限であり、完全であるといふ嬉しさ・・・

六つは、この宇宙は、必然の法則(因果の法則)によって進化成長へ運ばれているといふ嬉しさ・・・

七つは、自分の人生は、自分の想念によってどうにでもできるといふ嬉しさ・・・

そして八つは、これが私の最も嬉しいことですが、私の行く先には、永遠に尽きない、永遠に色あせない、幸せが待っているといふ嬉しさです。

私たちは、きっちりとした秩序の中に生かされています。ですから法則を守って生きていけば、誰でも幸せになれるのです。こんな素晴らしい宇宙に生かされている私たち、何と幸せなのでしょう！

私たちがやるべきことは、今できることを精一杯やることです。つまり、真心を込めて家事をすること、真心を込めて仕事をする事、真心を込めて神を求めること、すなわち、瞑想することです。

○思い通りに生きたら良い！

世の中には、お金や物や地位や名誉や権力などを追い求めている人と、精神的なモノを追い求めている人の二通りの人種があります。なぜそのような人種が生まれるかと言いますと、物質の世界が本当に有ると信じている人が、物質的なモノを追い求めるのは当たり前ですし、また意識の世界が本当に有ると信じている人が、精神的なモノを追い求めるのも当たり前だからです。つまり、信じられるモノを追い求めるのも当たり前、信じられないモノを追い求めないのも当たり前だからです。確信の持てないモノを、「追い求めなさい！」という方がおかしいのです。

一般人も、真理を求めている人も、誰もが、今の原子核の量の自我の思い通りに生きています。それは、必然の生き方しかできないからです。必然の生き方しかできないのは、今の原子核の量の思いしか持て

ないからです。思えないことをやれるわけがないのです。だから、自我の思い通りに生きていたら良いのです。例えその思いによって痛い目にあつたとしても、その痛い目が魂を成長させてくれるのですから、それは良いことなのです。完全な神が、無駄なことを思わせるわけがないし、やらせるわけもないのです。すべて意味あつて思わせ、意味あつてやらせているのです。どうかそのことを信じ、今の原子核の量の自我の思い通りに生きてください。ただし、次の二つのことだけはやってください。

一つは、今やるべきことを真心を込めてやること・・・。

もう一つは、真心を込めて瞑想することです。

この二つをやっているれば、必ず原子核が増えます。増えた分、自我の思いが真我の思いに近づきますから、良い思いが持てるようになり、良い行いができるようになります。これが、神が考えられた最良の進化の方法なのです。

※「外側の何も変わらなくても、自分の意識が変われば良い！」

この短い言葉の中には、掴んでも掴みきれない無限の意味が込められています。どれほど深い意味が込められているかは、原子核が大きくなり理解力が増せば、増した分の深みを、自分から教わるでしょう。そ

の時あなたは、驚愕するはずですよ。

※ 真理を学び続けている人は、心の深みで確信を得たからです。途中で学びを止めてしまった人は、心の深みで確信を得ていなかったからです。私が、神キチガイと言われるまでに神を求めるのは、そこまで原子核の量が増え確信を深めたからです。私と同じように原子核が増えれば、誰だって神キチガイになるのです。これはあたり前のことであって、何も不思議なことではないのです。いずれ、地球人類の誰もが神キチガイになる時代が来るでしょう。

○業が消えている姿！

「私は若い時、こんな悪いことを思っていた！ だから今までも悪いことが起き、これからも起きるのではないか？」、と心配する人がおりますが、あまり深刻に考えなくてください。なぜなら、今まで起きていた悪いことは、業の消えていつている姿だからです。もし悪いことが起きたら、「ああ、今、業が消えていつている！ 消えていつている！ 良いことだ！」と思ってください。心配して業の上塗りをする方が良くありません。さあ、今の今をポジティブな思いで生きてください。それは、難しいことはありません。

ただ、神を想ったら良いだけです。

想念は実現の母です。あなたはこれまで悪いことを思っていたから、不幸がやって来たのです。その悪い思いを良い思いに変えたら、もう不幸がやってくることはないのです。

良い思いの一番は、神を想うことです。

心配しても何の益にもなりません。心配する時間があるのなら、神を想うことに時間を使ってください。その時間は建設的な時間になります。生きている時間になります。どうか心配しないでください。あなたの宇宙を良くも悪くもするのは、あなたの思い一つなのですから・・・。

※ 人類が苦しんでいるのは、法則を使い切っていないからです。この宇宙には、「原因と結果の法則」という、素晴らしい法則があるのです。その法則を人類は、正しく使っていないのです。良い思いを持てば、良い原因を創っているのですから、良い結果が来るのです。こんな素晴らしい法則の下に生かされているのに、人類はその法則を悪いことに使い、良いことに使っていないのです。

※ 「私は心配性だ！ 私は人を愛せない！ 私はダメな人間だ！」なんて自分を責めないでください。原子

核を増やせば自然と自分の欠点は無くなるのですから・・・

○意識している時は原子核を増やしている

何をしなくても、今の時を、今の自分を、今の世界を、今の宇宙を、感じている時は、原子核を増やしているのです。なぜなら、感じている状態は意識している状態、意識している状態は原子核を増やしている状態だからです。意識すれば必ず原子核が増えるのです。それは、意識すれば原子核が集まるようにできていますからです。何を意識しても原子核が増えるのですから、神を意識している私たちは、日々どれほど沢山の原子核を増やしていることでしょうか。

“私は瞑想がうまくできないから原子核が増えない！”と思わないでください。意識している事自体、原子核を増やしているのですから・・・。

意識を持っているあなたに、無駄な日々はありません。意識を持っているあなたに、無駄な人生はありません。どうか自分の人生に自信を持ってください。

○自我でしか生きられない！

よく「自我丸出し！」とか「自我人間だから仕方がないよ！」などと自我を悪く言う人がおりますが、これは自我の意味の知らない人の言う言葉です。自我は決して悪いモノではありません。いやむしろ、必要不可欠なモノです。なぜなら、自我が無くては自分の存在が無いからです。

自我とは・・・

自分を認めている自分の事です。

相手を認めている自分の事です。

つまり・・・

妻子を認めている自分の事です。

地球を認めている自分の事です。

宇宙を認めている自分の事です。

相手が認められるのは、自我があるからです。自分を認める自我があればこそ自分が存在でき、相手も存在できるので。これは当たり前のことであって、何の不思議もありません。

あなたは今日まで、自我の思いに添って生きてきました。自我の思いに添って生きてきたがゆえに、苦し

かったことが沢山あったでしょう。でも、その苦しみがあったればこそ真理につながったのですから、それは良かったではありませんか？　そうです。今日まで自我で選んで来たあなたの人生は、みな良かったのです。

私たちは、自我の思いに添って生きるしかないし、また自我の思いでしか生きられないのです。なぜなら、猫の前に鯉節を置いたら必ず食べるのです。これは当たり前のことです。私たちの人生も同じです。自我で生きるのは猫が鯉節を食べるようなもので、誰でも食べるのです。これは、神が許している必然なのです。ですから、自我で生きるのは悪いことではないのです。

どうか安心して、今の自分の思いに添った生き方をしてください。ただし、次の二つのことだけはやってください。

一つは、今やるべきことを真心を込めてやること、
もう一つは、真心を込めて瞑想することです。

この二つのことをやっていたら原子核が増えるので、自我の思いが真我の思いに近づいてゆきます。そうすれば学びやすい環境が与えられます。当然、これまでに以上に原子核が増やせるでしょう。

神は私たちに、出来ないことをしなさいとは言っていません。出来ることをしなさいと言っているのです。

それが、自然な生き方だからです。

「人生の道」の曲を見て、今日まで歩んできた自分の人生を振り返ってみてください。きっと、勇気がわくはずですよ。私の歩んできた人生に間違いはなかったと・・・。

○余計な情報を発信してはならない！

なぜ、余計な情報を発信してならないかと言いますと、余計な情報を発信すれば、余計な情報が入ってくるからです。余計な情報が入ってくれば、当然、余計なことを考えるでしょう。余計なこと考えれば、余計な連想をします。それも一旦連想が始まれば、止めどもなく連想するのです。その連想の本身は、大方が悪いことばかりです。想念は実現させますから、当然、悪いことばかりが起ころうでしょう。つまり、原因と結果の法則によって、悪い結果がやってくるわけです。

人間は全員が全員、妄想によって自分を苦しめているのです。でも、そのことに誰も気付いていないのです。“私はなぜこんな苦しい目に合わねばならないのだ！”と人間は嘆きますが、それは自分が妄想しているからです。

私たちは肉体を持っていますので、肉体を維持するために必要なことはやらねばなりません。でも、今必

要なことを考え、今、必要なことを話し、今、必要なことをすれば良いのです。余計なことを考えるから、余計なことをしなければならなくなるのです。どうか、余計な情報を発信しないでください。そうすれば、余計なことを考えないで済みます。余計なことを考えなければ、苦しみはやって来ません。今あなたがやるべきことは、今生きるに必要なことを精いっぱいやること、そして瞑想することです。

念を押します。

○ 今やるべきことを、真心を込めてやること。

○ 真心を込めて瞑想すること。

この二つをやっていると、自覚の境界線に近づくことを私は保証します。

※ 想わなければ、何も生まれないのが宇宙の仕組みです。当然、何の悩みも、何の苦しみも、何の不幸も、生まれません。しかし、楽しみも、喜びも、幸せも、生まれません。これでは、生きていけると言えるでしょうか？

皆さんは、想わなければ不幸せを体験せずに済むけれど、幸せも体験できないということをお思いますか？ 「想念を持っていれば、不幸を作るから想念なんか要らない！」というのですか、それとも「不幸も

体験するけれど、幸せも体験できるから持っていたい！」というのですか？

「生きている」とは、何でしょうか？ 苦楽を体験することが、「生きている」という意味ではありませんか？ つまり、幸不幸を体験することが「生きている」という意味ではありませんか？ 何の体験もできないようでは、「生きている」とは言えないはずです。

○良く受け取る

この宇宙に、悪いことなど一つもありません。なぜなら、どんなに悪いように見えていることも、すべて進化成長に結びついている良いことだからです。意味のないことは、起きないのです。不必要なことは、起きないので。進化成長に結びつかないことは、起きないので。起きていること自体が必然であり、良いことだからです。

この宇宙は、すべて必然によって運ばれているのです。その必然は、進化成長に必要な必然ですから、何が起きてても良いことなのです。ですから、今自分に起きている苦しみを悪と受け取らず、成長のための必然として良く受け取ってください。

“あのことがあったから今の自分が有るのだ！ 本当に良かったな！”と思える自分になってください。

絶望しないでください！

落胆しないでください！

悩まないでください！

心配しないでください！

この宇宙に悪いことなど一つも無いのですから・・・そう思えたら心穏やかになるでしょう。

※ 幸福だけ欲しいとただをこねている人は、下り道だけ欲しいとただをこねている人です。幸福だけ欲しいとただをこねている人は、相手なんか認めないとただをこねている人です。その人は、自分をやめてください。自分をやりたいなら、相手を認めてやることです。なぜなら、相手は自分が創っているからです。

一つでは、一つはないのです。二つあるから、一つがあるのです。自分があるから、相手があるのです。相手がいらぬ(不幸せなどいらぬ)とただをこねている人は、自分がいらぬと言っているようなものです。

下り道だけ歩いていて、足が丈夫になりますか？

温室育ちの花に、強い花がありますか？

バリアフリーで育った子は、いざという時身を守れないのですよ！
楽しみたいという思いが湧いてきたら、サタンにやられていると思ってください。

○靈性の進化

私たちは気の遠くなる進化の旅を続け、やっと自我を持つ人間へと成長してきました。この進化の旅は、靈性の進化の旅だったのです。靈性の進化とは、鈍重な波動から精妙な波動へ自分を昇華させることですが、そのためには、これまで付けてきた鉱物臭さ、植物臭さ、動物臭さ、人間臭さを取り去らねばなりません。取り去るためには、できるだけ物質的なモノから離れる必要があります。

具体的には、

お金や、物や、地位や、名誉などの欲望を捨て去ること。

鉱物や、植物や、動物などの愛玩物にあまり情を傾けないこと。

重厚長大なモノから離れること。

余計な情報を受信発信しないこと。

このように言うのは、波動の低いモノに意識を傾けていては、靈性を高める妨げになるからです。

靈性を高めるのに、難しいことをする必要はありません。次の二つのことをすれば良いだけです。一つは社会体験、もう一つは瞑想です。社会体験とは、肉体を維持するために今やらなければならないことを、真心を込めてやることです。瞑想は言うまでもありません。神を想い続けることです。この二つをやっている間は、間違いなく靈性が高められます。高められた暁には、私たちは幸せの境地に入れるのです。

それは、

靈そのものが神そのものだからです。

靈そのものが生命そのものだからです。

靈そのものが光そのものだからです。

靈そのものが幸せそのものだからです。

靈は神です。生命です。光です。幸せの大本です。靈は幸せの別名なのです。それは、自分と切り離されているモノではないのです。

※靈性の進化の大きな節目の一つは、自我を持つ人間に進化することで、私たちはそこを超えました。次の大きな節目は、神の自覚を持つ神人へ進化することです。そのためには、人間臭さから一日も早く抜け出

さねばなりません。

夕時になると、家々の窓から明かりが、夕餉の臭が、漏れてきます。誰もがホッとする一時です。でも、それを懐かしがってはいけません。この世は一夜泊まるホテルのようなモノです。そこに長居は禁物なのです。どうか、これまで付けてきた鉢物臭さ、植物臭さ、動物臭さ、人間臭さを取ってください。

○業の上塗りをしない！

苦しいことがやってくると、殆どの人がその苦しみに負けて業の上塗りをしてしまいます。これでは、いつまでたっても苦しみから抜け出せません。では業の上塗りをしないためには、どうすれば良いのでしょうか？

皆さんは、まだ自分の想いの凄さを知りません。皆さんの想いは、何でも作るのです。何でも生み出すのです。何でも成就させるのです。想いほど恐ろしく、また素晴らしいモノはないのです。こう言っても皆さんは、まだ他人事のように思っています。即、今のあなたの人生に関わってくることなのですよ！

“何も想わなかったら何も生まれません！”

この言葉が、どれほど深い意味を持っているか知ってください。もし心の底で知ったら、あなたは、“や

ったぞ！”とガッツポーズをすることでしょう。

私が、何を言わんとしているのか解りますか？ 私は今、凄いことを言っているのですよ！ 私は今皆さんに、宇宙一の宝物を与えようとしているのですよ！

繰り返します。

“何も想わなかったら何も生まれない！”のです。

良い事も・・・悪い事も・・・どうかこの意味の深さを知ってください。

※ “想わなかったら何も生まれない！”しかし私たちは、一時も何も想わないではいけないのです。想わないでいられないなら、何を想うべきですか？

○光は全能!!

「光は神なりき！」と言われていますが、なぜ光は神なのでしょうか？ それは・・・神と同じ能力を持っているからです。

光は、意識そのものです。

光は、意志と意思と意図と理念を持っています。

光は、知恵を持っています。

光は、真実そのものです。実際に有るモノです。

光は、無限です。

光は、永遠です。

光は、不変です。

光は、普遍です。

光は、完全です。

光は、絶対善です。絶対正義です。

光は、美意識を持っています。

光は、創造の力を持っています。

光は、維持する力、修復の力、癒しの力を持っています。

光は、エネルギーそのものです。力そのものです。

光は、素材そのものです。本質そのものです。すべての大元です。

光は、愛そのもの、バランスそのもの、大調和そのものです。

光は、人の心を和ませます。

光は、人の心を穏やかにします。

光は、人の心を落ち着けます。

光は、人の心を明るくします。

光は、人の心を豊かにします。

光は、人に希望を抱かせます。

光は、人に夢を抱かせます。

光は、保存力や記憶力を持っています。

光は、想像力を持っています。

光は、能動的な働きをします。

光は、発展的・建設的な働きをします。

光は、肯定的です。どんな悪的なモノも良きモノに変える力を持っています。

光は、自由です。滞りがありません。偏りがありません。循環しています。

光は、何でもこなすのです。何でも良い方向へ運ぶのです。光はオールマイティーなのです。このように光は、神と同じ能力を持っているのです。だから「光は神なりき！」と言われるのです。光は神の別名なのです。

※ 光はオールマイティーですから、光が強くなれば間違いなく人生は好転します。

病気が良くなります。

経済的にも楽になります。

家族は円満になります。

仕事も順調に行きます。

成績も良くなります。

すべてにおいて良い方向へ運ばれてゆきます。

何よりも原子核が増えます。

では、光を強くするにはどうしたら良いでしょうか？

簡単なことです。想念を良く使うことです。つまり、どんなことも良く受け取り、悪想念を抱かないこと

です。悪想念を抱かないようにするためには、時間の許す限り「神を想う」ことです。たったこれだけで、人生は好転するのです。

○は万能!!

○が万能なのは、神と同じすべての要素が備わっているからです。

○は・・・引っかけがありません。滞りがありません。四方八方自由奔放に動けます。何一つ縛られません。転がるのです。流れるのです。飛べるのです。滑るのです。ですから、○は自由です。

○は・・・均衡を保ちます。水が方円の器に添うように、空気圧が均衡を保つように、隙間が生まれてもいつの間にか埋まっているのが○なのです。収まりのつくのが○なのです。

○・・・保存します。腐らしません。いつまでも新鮮です。

○は・・・愛そのものです。大バランスそのものです。大調和そのものです。許しあえるのです。認めあえるのです。融合しあえるのです。支えあえるのです。

○は・・・完全です。どこから見ても完全な○です。完全な○には、一つの欠陥もないのです。一つの無駄もないのです。一つの不都合もないのです。ですから○の世界に、不幸はありません。何が起きてても良い

ことです。だから、○は肯定です。

○は・・・無限です。果がありません。終わりがありません。どこまでも届かないのです。底が無いのです。止まりがないのです。

○は・・・永遠です。生まれもしなければ死にもしないのです。過去もなければ未来もないのです。一点です。今の一点があるだけです。一時です。今の一時があるだけです。それは、永遠に無くならないからです。

○は・・・一面です。無限の一面です。それは、循環しているからです。循環しているから無限のエネルギー(光)を生むのです。

○は・・・均一です。平坦です。凹凸がありません。摩擦がありません。摩擦がないから熱が生まれません。だから争いがないのです。

○は・・・中庸です。中道です。偏りがありません。偏りがないから、苦しみが生まれません。痛みが生まれません。不幸が生まれません。

○は・・・平等です。対等です。上下がありません。貧富がありません。だから平和なのです。

○は・・・真です。実です。誠です。真つ直ぐです。率直です。素直です。どんな○も真(誠・実)の○な

のです。

○は・・・絶対善です。絶対正義です。○思うと気持ちが悪くなるのは、○には歪みがないからです。歪んでいるのは、悪です。不正義です。だから悪を見ると、気持ちが悪くなるのです。

○は・・・美の象徴です。

○ほど美しい形はありません。それは、歪みが無いからです。美は総合されたものです。美はすべてを受け入れた状態なのです。○はすべてを受け入れた状態なのです。すなわち、○はあらゆる歪みを消化し、統合した姿なのです。

○は・・・法則です。掟です。定まったものです。○は、無くしようのないものです。崩しようのないものです。ですから、○に逆らうことはできません。逆らえば苦しみがやってくるだけです。

○は・・・生きています。息しています。鼓動しています。○は永遠に生き通す命なのです。

○は・・・光です。エネルギーです。○には、中心核(中芯核)があります。神にも中心核があります。中心核がある限り、永遠に存在し続けます。中心核が光(エネルギー)を補給するからです。

○は・・・一です。壺です。ひとつです。無限の一です。

この宇宙には、○のみがあるのです。私たちの住んでいる相対宇宙にも○はありますが、その○は多面の

○です。しかし絶対宇宙の○は、一面の○なのです。これが、表現宇宙の○と絶対宇宙の○の大きな相違点です。でも多面の○だからこそ、表現宇宙に無数の表現物が生まれてくるのです。絶対宇宙に表現物がないのは、一面の○しかないからです。しかし、一面の○だからこそ万能なのです。

このように○は万能なのです。万能ゆえに、○は神なのです。

※ 表現物の中で一番調和の取れているのが○という形です。一番波動の良い形が○なのです。だから、○を思うだけで、○を語るだけで、○を見るだけで、幸せな気分になるのです。その証に、○を描いてみてください。気持ちが良くなります。手で空中に○を描いても、思いで描いても結構です。それも、できるだけゆっくり描いてください。心が和むはずです。心が穏やかになるはずです。心が落ち着くはずです。

○動きなさい！

真理に目覚めた途端 積極的な人になるのは、潜在していた神の本能が働き出したからです。真理に目覚めた人は、なぜか知らないけれど動きたくなるのです。これは、動けば原子核が増えることを本能的に知っているからです。

この宇宙は、動けば動くほど進化成長するよう創られているのです。その証拠に、宇宙の運行や自然界の働きや生物の動きを見てください。星雲も、恒星も、惑星も、彗星も、空気も、水も、土も、菌も、虫も、鳥も、魚も、どんな生き物もみな動いています。それも楽しく・・・ウキウキと・・・自我はなくても彼らは、動けば原子核が増えることを本能的に知っているからです。自我のないモノでさえそうなのですから、真理に目覚めた者が動くようになるのは当然でしょう。でも人間の中には、動くのを嫌っている者がおります。これは、動くことの重要さを知らないからです。知らなければ、どうしても楽な生き方を選んでしまうのです。

一万円持っていても、持っていることを知らなければ使えないのです。パソコンを持っていても、使い方を知らなければ使えないのです。「無知こそ最大の罪!」と言われるのは、知らなければ原因を作ろうとしないからです。

でも私たちは、原子核を増やす方法を知ったのです。それも絶対間違いない方法を・・・。なのにあなただけ、どうしてやろうとしないのですか? 信じられないからですか? やって嘘なら、引き返したらいいではありませんか? やりもしないで嘘だと決めつけるのは、賢い人とは言えません。どうか積極的な人になってください。「犬も歩けば棒に当たる!」の諺を信じ、ぜひ動いてください。動いて(体験して)損する

ことなど絶対ないのですから・・・。

※「犬も歩けば棒に当たる」の諺の意味は、犬もフラフラ歩いていると棒に当たって転ぶものです。でも転んだら、必ず何かを拾って起き上がるものです。何かを拾うとは、体験するという意味です。体験は、間違いないく人を成長させるのです。だから諺は、「フラフラでもいいから動きなさい！」と言っているのです。

○誤解してはならない！

最近、数人の皆さんから、「素晴らしい意識体験をしました！」というご報告を頂いております。これは嬉しいことなのですが、誤解すると道を遠回りしかねないので、ご注意申し上げます。

霊能者たちが、次のような意識体験をしたと言っております。周りの人たちが自分に思えてきて抱きつきたくなったとか、自分が宇宙大に拡大し宇宙そのものになったとか、すべてのモノが神に思えきて愛おしくなったとか、神の光に満たされ言いようのない至福感を体験したとか・・・中には、青龍の背に乗って天に昇ったという人もおります。他にも、自然の息遣いが感じられるとか、樹液の流れが感じられるとか、自分の胸の中で宇宙が回転しているのが見えるとか、まるで覚醒剤を飲んでハイになったような意識体験をして

おります。このような意識体験は感情を揺ぶるため、涙が止めどもなく出てくるのです。私も奇想天外な意識体験を数多くしておりますが、これは有る意識ゾーンに入った時に起きる現象で、これを仏教ではアラヤシキ(阿頼耶識)の境地に入ったと言っております。でも、意識にそのようなゾーンが有るわけではありません。すべて内側の(自分の)想念感情が創った現象です。

私たちの想念は、何でも創るのです。その自分で創った現象を悟りと誤解してしまう人が多いので、私は現象を良く思わないのです。世の中には、悟ったと誤解し宗教の指導者になっている人がおりますが、これは人を惑わすことになるので大変危険です。皆さんは熟成した魂ですからそのようなことはしないとと思いますが、増長するとそうならないとも限らないので注意してください。私たちが得るべきモノは、あくまでも自覚です。この自覚は、現象とは関係ないのです。(自覚の意味が心の底で解ったら、そのような現象に惑わされることはなくなる)

宇宙は無限です。神は無限です。その宇宙を、その神を、知ることは永遠にできないのです。素晴らしいモノを掴んだと思っても、その先にそれ以上の素晴らしいモノが見えてくるのが、宇宙の深淵さだからです。ですから素晴らしい意識体験をしたからと言って、「これが悟りだ！これが最高だ！」と誤解しないでください。誤解すれば意識を限定するので、成長が止まってしまいます。水をさすようですが、世の中には、

そのような意識体験をしている人は沢山いるのです。

ある人は、このようなことを言っておりました。 ”私は最高の絵の構想を持って描いていたつもりだったが、描き終わった途端色褪せてしまった！ ”と・・・ 私たちは一刻一刻成長しているのですから、色褪せてしまうのは当然なのです。 でもそれは、自分が成長している証ですから良いことなのです。

私たちは、永遠に到達(悟れない)できない道を永遠に歩んで行くのです。 でも、永遠に到達できないがゆえに、素晴らしいのではありませんか？ ここで終わりという宇宙に、何の魅力がありますか？ 終着点のない宇宙だからこそ、希望が持てて楽しいのです。 手の届く幸せは、幸せではないのです。 永遠に手の届かない幸せだからこそ幸せなのです。 その幸せは、理解力と自覚が与えてくれるのです。 ゆえに大切なのは、現象ではなく理解力と自覚です。

どうか、誤解しないでください。 原子核を増やして理解力と自覚を高める、正しい真理の求め方をしてください。 それは、二つのことをやればいいのです。

※ 先日「食後に瞑想してはいけないのですか？」という質問を受けました。 そのようなことはありません。 ただ、食後に瞑想すると眠くなるので避けた方が良くもありません。 でも、眠くならないならやっても良

いのです。

私たちは、宇宙エネルギーで満たされると心穏やかになるようにできているのです。食べ物の中にも宇宙エネルギーが入っているわけですから、食事をするのと心穏やかになり眠くなるのは当然なのです。

○賢い人!?

この社会では、処世術に長けている人が出世でき、処世術の下手な人は出世できないようですが、不思議なことに賢い人ほど処世術が下手なのです。彼らは、おべんちゃんとも言えない、胡麻をすることもできない、へつらうこともできない、うまく立ち回ることもできない、およそ出世とは縁遠い生き方をします。なぜでしょうか？ それは、この世の何を得ても喜べないからです。何とつまらない人と思うかもしれませんが、でもそのような生き方をしている人の方が賢いのです。なぜなら、心穏やかに生きられるからです。

世の人々を見てください。毎日、物や金や地位や名誉を得るために戦々恐々として生きています。ライブルとの闘い、得意先との競争、ノルマ達成など、寝る時間を惜しんで働いています。このような生活が、賢い人の生き方でしょうか？

私たちに必要なのは、物や金や地位や名誉ではありません。心の穏やかさです。心穏やかに生きるのに、

処世術など必要ないのです。だから賢い者は、出世欲を持たないのです。

賢い人は、

正直に生きております。

一生懸命生きております。

真面目に生きております。

今を大切に生きております。

この世のモノに囚われないで生きております。

つまり、

足ることを知った生き方をしております。

謙虚な生き方をしております。

このような生き方をしている人は、神に近い人です。

○今の時を使えるのは想念だけ！

私が望んでいる今は、今の今です。過去の今でも、未来の今でもありません。今の一時の今なのです。し

かしその今の一時は、すぐに過去の一時になってしまいます。でも、すぐに今の一時はやってきます。ということ、今の一時は、永遠に続く今の一時であるということです。それは、今しか無いという意味です。

「今・今・今・今……」だけが永遠に存在するという意味です。

では、その今の一時を使えるのは、何でしょうか？ それは、想念です。想念だけが、今の一時を使えるのです。なぜなら、想念だけが時をなぞれるからです。想念以外時を使うことは絶対できません。それは、想念意識そのものが時だからです。意識≡時なのです。時≡意識なのです。ですから想念意識だけが、時をなぞれるのです。このことだけは、知っておいてください。

ではその想念意識を使えるのは、誰でしょうか？ それは、人間なら誰でも使えます。金持ちであろうが、貧乏人であろうが、白人であろうが、黒人であろうが、男であろうが、女であろうが、大人であろうが、子供であろうが 頭が良からうが、悪からうが、想念だけは平等に使えます。

ではその想念を使うのに、何か特別な技術があるのでしょうか？ いいえ、何の技術もいりません。ただ想えば良いだけです。ただし、想いの内容を考えてください。なぜなら、想念したことは何でも実現するからです。実際 私たちは今日まで、苦しい人生も楽しい人生も、自分の想念で作ってきたではありませんか？ でも地球人類は、残念なことに未だにそのことに気付いていないのです。だから自分(想念)で苦し

みを作りながら、人のせいに行ったり、偶然のせいに行ったりして、嘆き悲しんでいるのです。これでは、いつまでも経っても成長できません。病気も、事故災難も、家庭内の不幸も、みな自分の想念が作ったのです。

「想念は実現の母！」です。どうか、このことに気付いてください。

○原因無き原因者

「宇宙は有限である！」という人がおりますが、宇宙の奥に何か壁でもあるのでしょうか？ もしあったとしても、その壁の向こうはどうなっているのでしょうか？ また壁があるのでしょいか？ もしあったとしても、その壁の向こうはどうなっているのでしょうか？ また壁があるのでしょいか？ どんなに壁を作っても、この話は永遠に続くのです。だから、宇宙は無限なのです。それでは、宇宙は無限であるという前提のもとに話を進めましょう。

あなたは、Aさんを殴りました。それは、殴らなければならない原因があったからです。では、その原因は何でしょうか？ Aさんに殴られたから？ 嫌なことをされたから？ 嫌なことを言われたから？ 理由はどうあれ、殴る原因があったからあなたはAさんを殴ったはずで。さて、Aさんを殴った原因は、Aさんを殴ったことで消えています。殴られたAさんの原因も、あなたに殴られたことで消えています。です

から、お互い殴り殴られたことで原因と結果の法則は終息しています。ではAさんはどうして、あなたに殴られるようなことをしたのでしょうか？ 何の理由もなくするはずがありません。あなたがAさんに何か嫌なことをしたから（原因を作ったから）、Aさんはあなたに嫌なことをしたはずですよ。でも、その嫌なことをしたAさんは、その前にあなたから嫌なことをされたから嫌なことをしたはずですよ。でもその嫌なことは、その前の前にあなたから嫌なことをされたから嫌なことをしたはずですよ。こうなると、嫌なこと（原因と結果）が永遠にめぐることになり終息点はありません。では、どうして最初に嫌なことが生まれたのでしょうか？ つまり最初の原因は、どうして生まれたのでしょうか？

それは、原因なしに生まれたのです。なぜなら、宇宙は無限だからです。無限宇宙には、最初が無いわけですから原因が無いのです。これが、原因無き原因の謂われなのです。ということは、あなたは原因なしにAさんを殴ったことになりました。この原因なしに殴った例え話が、原因無き原因の存在する理由なのです。もし事の起こりに原因が必要なら、この宇宙に何も生まれなかったでしょう。何も生まれなかったら、どうして私たちは学べるのでしょうか？ 学べない宇宙に、何の意味があるのでしょうか？

私たちは、成長してゆかねばなりません。そのためには、体験して学ぶ必要があるのです。だから、体験できる宇宙を創る原因無き原因者が必要なのです。でもその原因無き原因者は、神であろうが、誰であろう

が、良いのです。つまり、誰が最初に殴ったかなど、どうでも良いのです。ただ私たちは、体験し、学び、成長できれば良いのですから・・・。

○神の恩情！

この世で起きているすべての事象は、法則どおり寸分の狂いもなく展開されて行きます。そこに一切の偶然も、奇跡も、例外も、特別もありません。ただ、法則どおりに粛々と進められて行くだけです。ですから、法則どおり生きていれば私たちに苦しみはないのです。情け容赦なく法則どおり展開してゆく宇宙は、まさに神の峻厳な愛の現れです。冷たいように思えますが、それが一番間違のない進化の方法だからです。もし人間のような情をかけたなら、宇宙は大混乱に陥ってしまうでしょう。とは言っても神は、一つだけ恩情を示されました。それは「二度と罪を犯さない！」と堅く心に誓った時に許される恩情です。神はご存じです。「肉体を持っている限り罪を犯すのは仕方がない！」と・・・。だから神は、悔改めた者に恩情を示されたのです。

私たちは、進化成長するために生まれてきました。この世の厳しいドラマは、進化成長のために自分が用意した課題ですから、乗り越えられない課題など一つもないのです。ただし、漫然と生きていては乗り越え

られません。次の二つのことだけはやってください。一つは社会体験です。もう一つは瞑想です。

※ 社会体験とは、今やらねばならないことを真心を込めてやることです。瞑想とは、神を想うことです。この二つをやっていたら、あなたの生活環境は間違いなく良い方向へ開けてゆきます。今のあなたの環境が変わらないのは、まだその環境で学ぶ必要があるからか？ 真剣にやっていないか？ のどちらかです。

○法則が守ってくれる

銃社会と言われるアメリカで、銃撃事件が起きる度に銃規制問題が取り沙汰されますが、一度だって法制化されたことがあります。人間は、自分の身を守るために武器を手放せないですが、本当は自分で身を守る必要など無いのです。なぜなら、法則（因果の法則）が身を守ってくれるからです。法則を犯せば痛い目にあります。法則を守れば幸せになります。つまり、法則を犯せば法則によって罰せられ、法則を守れば法則によって守られるのです。でも人間はそのことを知りませんから、軍備の増強をして身の安全を図ろうとするのです。確かに銃を持っていれば、身の安全が図れるような気がします。でも、全く反対なのです。なぜなら、相手も身の安全を図ろうとして銃を持つようになるからです。「北風と太陽」という童話があり

ます。

この童話は、北風と太陽のどちらが旅人の上着を脱せることができるか勝負する話ですが、まず北風が旅人に風を吹きかけ強引に上着を脱がせようとしています。でも、吹きかければ吹きかけるほど旅人は身を固くして脱ごうとしません。北風は諦めます。

次に太陽が挑戦します。太陽は旅人に陽の光を優しく注ぎます。暑くなった旅人は、たまらなく上着を脱ぎます。力づくで脱がせようとした北風の方が負け、優しく陽の光を与えた太陽の方が勝ったのです。

この童話が示すように、強引に脱がせようとするれば相手も防御を固め、開襟を見せれば相手も開襟を見せてくれるのです。抑止力として核兵器が必要だと言いますが、均衡を保つには倍の核兵器が必要になるため、危険も、間違いも、倍になるのです。人間は感情の生き物ですから、間違っ使用わらないとも限らないのです。事実、感情の抑えられない人たちが、凶器を使って様々な惨事を起こしているではありませんか？ 凶器がなければ、そんな惨事は起きないのです。

確かに因果の法則は、人の目に見えづらいいだけに信じられないかも知れませんが、でも信じられなくても、間違いない因果法則は身を守ってくれるのです。いざれ地球人類は、銃で身を守らなくても法則が守ってくれることを知るでしょう。人類はそれを知るために、今痛い目にあっているのです。

繰り返します。

身の安全を図りたいなら、法則(因果の法則)を守ることです。そうすれば、法則が身を守ってくれます。それは、誰に頼む必要もないし、お金もかかりません。こんな素晴らしいセキュリティシステムがあるというのに、どうして人類は使おうとしないのでしょうか？

さあ、法則を信じ法則を守ってください。法則を守っていれば、何もなくても身の安全が図られるのですから……。

○普段の思いの大切さ!?

先日 特に用もないのに、わざわざ車を運転して清里まで行ってきました。私はなぜ、そのような行動を取ったのでしょうか？ それは、常々 清里に行きたいと思っていたからです。皆さんも体験あると思いますが、なぜか知らないけれど、やりたくなる、したくなる、行きたくなる、と言った気持ち起きるのは、普段そう言う思いを持っていたからです。一回や二回思っても行動につながりませんが、何度も思っていたら行動につながるのです。私が、普段の思いが大切だというのは、常々 思っていたことが肉体上に、行動上に、環境上に、現れてくるからです。戦争も、テロも、盗みも、人殺しも、自殺も、病気や事故や災難や

災害も、普段の思いの現れです。

人生は、すべて想念次第なのです。想念次第なら、想念で人生をどうにでもできるのですから、こんな安心なことはありません。しかし、殆どの人が人生に不安を抱いています。それは、想念を信じないで運や偶然を信じているからです。この宇宙に、運や偶然など微塵もないのです。あるのは、想念によって作られる必然のみです。

普段思っていたことが行動に現れるということは、普段思っていたことが人生に現れるということです。から、普段の想念を良くよく注意して使わなくてはなりません。どうか良い想念を持つよう心掛けてください。そうすれば、もう保険に入る必要も銃を持つ必要もありません。

注・・・普段、”私は誰よりも意識(理解力)が高い!”と思っている人は、何かの拍子に言葉や態度に出るものです。本当に意識(理解力)の高い人なら、そのような思いは持ちません。

○威厳など必要ない!

世の中には、威厳を見せ話をする指導者や、威厳を頼りに話を聞く人がおりますが、内容で勝負できない

指導者は、威厳を見せて人を引きつけるしかありません。また聞く方も理解力がなければ、威厳や、名声や、現象などを頼りに話を聞くしかありません。これでは、空っぽのものを食べ合っているので何も身に付きません。でも、偉く(威厳)見せなくては話を聞いてくれないし、また聞く方も理解力がなければ威厳を頼りに聞くしかりません。幼い魂は、偉く見せかける人(先生・肩書・名声など)の話は聞くけれど、そうでない人の話は聞かないのです。それは、この社会で「名のある人は偉い！」という概念が独り歩きしているからです。先生の名が大切なのではなく、その人が話す内容が大切なのではありませんか？

本来なら、威厳など見せる必要はないのです。反対に、親しく接するべきです。覚者が、「私とあなた達とは何も変わらないのですよ！」というの、親しく接すれば「私でも悟れる！」と思ってもらえるからです。

皆さんのように理解力の高い魂には、もう、威厳も、名声も、現象も必要ありません。私が皆さんと親しく接するのは、「皆さんと私とは大して変わらない！」ということを知ってもらいたいです。だからと言って、人の家に土足でツカツカと入る非常識なこととはしないでください。真の求道者は、常識人なのでから……。

※ 節目を超えた人の心は無量大です。どんなことも受け入れる大きな心を持っています。ですから常識人です。誰とでも親しく付き合います。決して、自分を偉く見せません。偉く見せるどころか頭の低い人です。どうか気軽に付き合ってください。

第3部

○意識の自分を知る

一般人の殆どは、本当の自分を知らないで生きています。彼らが知っているのは、肉体の自分だけです。それで生きていけると言えるでしょうか？ では本当の自分とは、何でしょうか？

それは、意識です。でも意識は見えませんが、知ろうにも知りようがありません。では、どうすれば意識の自分を知ることができるのでしょうか？ それにはまず、意識の本質(本性)を知らねばなりません。では知りましょう！

意識はすべての本質です。すなわち、モノの素材であり、エネルギーであり、光です。その意識は、自由意思を持っています。意図を持っています。計画性を持っています。創造力を持っています。更に、無限の可能性と発展性を持っています。つまり意識は、無限の能力を持っています。しかしどんな偉大な意識でも、見える(感じられる)状態にしなくては存在しているかどうか分かりません。そこで神は、意識を見える状態にするために、私たちに想念を持たせたのです。

私たちは今、自分の想念を使って様々な物を創造しています。様々な人生を作っています。様々な不幸を作っています。これは、見えない意識が見える状態にした表現方法なのです。でも今の地球人類は、自分の想念で人生を作っているとは思っていません。だから、意識を自分だと思えないのです。自分を意識だと思えるようになるためには、自分の想念で人生を作っていることに気付かねばならないのです。さあ、気付きましょう！

犬小屋を作ったのも想念です。学校に入ったのも想念です。自動車を手に入れたのも想念です。結婚したのも離婚したのも想念です。親子が仲良くするのも喧嘩するのも想念です。隣人と仲良くするのも仲違いするのも想念です。貧乏になるのも金持ちになるのも想念です。地位や名誉や権力を得るのも想念です。病气や事故災難に遭うのも想念です。戦争もテロも想念の結果です。こんなにはつきり見せられているのに人間は、自分の想念で人生を作っていると思っていないのです。想念しないでは、何も生まれないのに……です。

その想念は、意識から生まれたのです。ということは、想念を持っている私たちは、意識そのものであることになりました。その証拠に、あなたの意識が無くなれば、全て消えてしまいます。宇宙さえも消えてしまうのです。でも誰一人として、自分を意識だと思っていないのです。これでは、自分を見失ったまま一生を

終えてしまおうでしょう。

どうか、自分が意識であることを知ってください。自分が想念であることを知ってください。今後どのような人生を作り上げて行くかは、想念の使い方次第なのですから・・・。

※ 小学校で一番に教えねばならないのは、想念についてです。次に教えねばならないのは、死についてです。この二つを教えたら社会は一変するでしょう。

○自分を信じる！

どうか、自分の力を信じてください。自分の中に潜在している力を信じてください。皆さんは自分の力を信じないで、外側の人に、外側のモノに、頼り過ぎているのではありませんか？ 外側のモノに頼り過ぎると、自分の中に潜在している力を見失ってしまうのです。皆さんの中には、偉大な力が潜在しているのですよ！ その力を使えば、何かに頼る必要はないのです。

自分の力を信じるとは、自分が持っている想念の力を信じるという意味です。想念の力は絶大です。これは、自我を持った時に神が与えてくれた宇宙一の贈り物です。想念を使えば、あなたの欲しいモノは何でも

手に入るので。人生を豊かにすることもできません。神に近づくこともできません。勿論、幸せにもなれません。そんな想念を持たされているのに、殆どの人はそのことを知らないで生きています。大金を持っているのも、持っていることを知らなければ使えないように、偉大な力を持っていても知らなければ使えないのです。どうか、自分の持ちモノに気付いてください。気付けば宝の持ち腐れにしないで済みます。

さあ、自分の中に潜在している力に気付いてください。気付いたら信じてください。信じたら使ってください。そうすれば、あなたは宇宙一の豊かな者になれるのですから……。

※この宇宙に割り切れるモノは何一つありません。それは想念が割り切れないからです。割り切れないから、割り切れない(再現性のない)幸せが味わえるのです。でも、割り切れない不幸と隣り合わせになっていることも知らねばなりません。

想念は、実に不思議な存在です。どうか、想念を一生の研究課題にしてください。

○瞑想は科学である！

なぜ瞑想は科学なのでしょう？ それは、原因を作れば必ず結果が得られるという「因果の法則」を利

用しているからです。因果の法則を利用するのは、誰でもない自分です。瞑想が科学であるというのは、自分の想念を因果の法則に関与させるからです。自分の想念を関与させなくては、因果の法則は働かないのです。なぜなら、自分の想念しか原因を作れないからです。自分の想念によって原因を作り、その結果を自分の中に積むのが科学なのです。自分が、自分の想いを使って瞑想するわけですから、自分の中に結果が積まれるのは当然でしょう。だから、瞑想すれば必ず自分が変わるのです。

変わらない瞑想は嘘です。何かが、どこかが、間違っているのです。もしかしたら、形や作法に囚われているのかも知れません。あるいは、想念を正しく使っていないのかも知れません。あるいは、急ぎ過ぎなのかも知れません。あるいは、結果が欲しくて想いを分散させているのかも知れません。でも想いを使って瞑想すれば、必ず結果は得られるのです。例えばあなたが望む結果は得られなくても、それに近い結果は必ず得られます。例えば、集中力が得られます。忍耐力が得られます。未来に向けて布石が打たれます。瞑想は因果の法則を利用した科学ですから、やれば必ず何らかの痕跡(結果)を残すのです。

神は決して無駄なことはさせません。あなたの瞑想は、いつか必ず花開きます。それを信じて瞑想をやり続けてください。

※瞑想する前に、次のような強い意思を持ってください。"私は五分間、神(自分のマントラ)以外何も想わない!"五分間は、あくまでも理想です。一分でも、五秒でも、一秒でも、結構です。

○真の愛とは?

私たちは、よく「愛」という言葉を口にしますが、「愛」という言葉を聞いて嫌がる人はおりません。それは、素晴らしい波動を持った言葉だからです。ですから「愛」という言葉を聞いただけで、嬉しくなるのです。しかし、「愛」の言葉に騙されてはなりません。なぜなら、偽善の愛や思い違いの愛もあるからです。人は良く、「愛しています!」「という言葉を使いますが、愛の真の意味を理解して使っているでしょうか? 殆どの人は、「好きです」とか「恋い慕う」といった意味で使っています。確かにそれも愛の一面ではありますが、真の愛はそんな軽薄なものではないのです。

真の愛とは、「大バランス・大調和・中庸・中道・真ん中」に引き寄せる力のことです。宇宙が望んでいることは、魂を進化成長させることにあるわけですから、その目的に近づけてくれる、「大バランス・大調和・中庸・中道・真ん中」に引き寄せる力が、真の愛の意味になるのです。

神が峻厳な愛を行使するのは、厳しい愛でなければ中庸を維持できないからです。先程、偽善の愛も思い

違いの愛もあると言いましたが、人間が使っている愛は、中庸から離れた優しさや思いやりなどの甘やかしの愛なのです。そんな甘い愛では、魂は進化成長できないのです。世の中には、愛を誤解して使い、人を駄目にしていく人が結構いるのです。誤解して使っているならまだしも、愛という言葉を巧みに使って人を騙している人もいます。確かに愛という言葉は美しいです。心地よい響きを持っています。ですから愛という言葉に酔ってしまい、真の愛が何なのか判断ができなくなるのです。どうか、真の愛が何か理解した上で受け取ってください。また、使ってください。

真の愛は、原因と結果の法則が支えていますので、どんなに媚びてもへつらっても許してくれません。厳しいと思われるかも知れませんが、厳しいからこそ成長できるのですから真の愛を嫌わないでください。

○忘れること・・・想わないうい・・・

真理を生半可でかじっている人の中に、現代医療を否定する人がおりますが、これは大変危険です。確かに、私たちの中には偉大な生命力が宿っていますから、生命力に任せるのは正しいのですが、それは真理を心の底で知った人(自覚の境界線を超えた人)に言えることであって、一般人を含め殆どの人は知識段階ですから、この話は当てはまらないのです。

私たちには五感があるため、病気になるとうしても患部を意識してしまいます。意識すればエネルギーを与えるわけですから、病気はなかなか治らないのです。本当は、病気になっても意識しなかったら、自然治癒力によって病気は治ってしまうのです。しかし痛みや苦しみの症状が出ると、どうしても意識しないでいられません。ですから、痛みや苦しみを取る薬や手術などが必要になるのです。これは今の人類には止む得ぬことです。現代医療を使って良いのです。ただし、正しい使い方をしなくてはなりません。

正しい使い方とは、

薬は痛み苦しみが無くなるまで使用すること。痛み苦しみが取れたら、あとは生命力に任せ、一切病気のことは忘れることです。この忘れることがとても大切なのです。昔から、病気は峠を越えたら心配いらなうと言われてきました。これは峠を越えたら自然治癒力が働きます。この生命力の働きは、中途半端な働きではないのです。ですから、自然治癒力が働きたら余計なことはいらないことです。もし、峠を越えた人に薬を与え続けると細胞は薬に頼るようになるため、生命力が働いてくれなくなるのです。当然、副作用も起こります。特に現代医療で使われている薬は強力ですから、使い過ぎると良い細胞まで悪くしてしまうのです。

本当は、できるだけ薬は使わない方が良いのです。使うにしても峠を越えるまでです。

病気は、私たちに問いかけています。あなたの生き方は何処か間違っていますか？ どんな想念を持って生きていますか？ と・・・。病気で苦しんでいる人は、どうして病気になったか考えてみてください。原因を見つけ生き方を正したら、病気は治ります。それはもう、危険信号を送る必要がなくなったからです。

病気は業の消えている姿ですから、忘れることです。病気で一番大切なことは、病気を忘れることなのです。忘れること、触らないこと、いじらないこと、意識しないこと、これが病気にならない最良の方法であり、病気を治す最良の方法なのです。

何も想わなければ何も生まれないのです。反対に、想えば何でも生まれるのです。これは、病気に限らず人生万端に言える想念の使い方への注意すべき点です。どうか、想念の偉大さを知ってください。そして、正しい想念の使い方をしてください。正しい想念の使い方とは、恨まない、怒らない、憎しみを持たない、心配しない、要するに悪いことを想わないことです。そうすれば、絶対悪いことは起きないのですから・・・。

○この宇宙に軽んじて良いモノなど一つも無い！

この宇宙には、たった一つのモノしかありません。たった一つのモノしか無いということは、すべては一

つモノの現れですから、砂一粒も宇宙だということです。ですから砂一粒でも無くなったら、その時点で宇宙は無くなってしまふのです。二つのモノがあるなら、一つのもが無くなっても、もう一つのもが有るわけですから、一つは残ります。でも、一つのモノしか無いわけですから、一つのもが無くなったら何も無くなるのは当然なのです。その一つのモノを、神と呼んでいるだけです。神という名が嫌いなら、「原子」と呼んでも良いのです。なぜなら、「一つのモノ」が原子になっているからです。

もし、あなたが砂一粒を軽んじるなら、宇宙を、神を、軽んじることになるのです。つまり、自分を軽んじることになるのです。自分は一つのモノの現れだからです。私が、「すべてのモノを愛しなさい！」というのは、すべてのモノは自分だからです。だから、自愛しか無いのです。

あなたが嫌う、あの人も、この人も、あの菌も、この虫も、この汚物も、みな自分です。どうか、自分を嫌わないでください。

※ あなたが、どんなに神ではなく肉体だと言い張っても、あなたの肉体は細胞の集まりであり、その細胞は分子の集まりありで、その分子は原子からできており、その原子は神の意識によって創られたものですから、あなたは間違いなく神なのです。もういい加減に、人間と言い張るのを止めてください。

○自分の能力に気付かず生きている人間

人間は、自分の能力がどのくらいあるか気付かず生きています。それは、肉体を自分だと誤解しているからです。肉体を自分だと思えば、肉体は自然法則内の能力しか出せませんから、小さな能力に甘んじるしかありません。でも生命だと思えたら、自然の法則の外に出してしまうので、大きな力が発揮できるのです。今の地球人類は、自然の法則に縛られ窮屈な生き方をしているのです。

人間の中には、二人の自分がいるのです。一人は自我(肉体)の自分、もう一人は真我(意識・エネルギー・魂・生命)の自分です。自我の自分は幻の自分ですから、いつか必ず無くなってしまいます。でも真我の自分は、無くしたくても無くせないのです。それは、意識だからです。エネルギーだからです。魂だからです。つまり、生命だからです。その生命の自分は、無限の能力を持っているのです。ただし持っていないも、持っている事を知らなければ使えないのです。今の人類は、無限の能力を持っていながら、そのことを知らないため使っていないのです。それは、本当の自分が何か知らないからです。もし、本当の自分を心の底で知ったら、宇宙さえも創れるようになるのです。

どうか、本当の自分を知ってください。無限の能力を持った偉大な存在であることに目覚めてください。

○自分が「1」であることを心の底で知る学び

学びの最終目標は、自分が「1」であることを心の底で知ることです。人生は、唯一それを知るためにあるのです。私たちの周りには、沢山の人・物・社会・国・自然環境・があり、そこで毎日様々な出来事が起きています。でも、それ自体には何の意味もないのです。なぜなら、外側の出来事はすべて現実(幻)だからです。意味があるのは、様々な出来事を通して“自分が「1」であった！”と、心の底で知る意味です。すべてのモノは、神の表現物として置かれてありますから、置かれてある物一つひとつに意味があります。でも、そのモノ自体には何の重要性もないのです。なぜなら、そのモノは「1」であると気付かせる方弁としての存在物だからです。すべてモノは、「1である」「1であった」と気付かせるための道具です。道具そのものは重要ではないけれど、気付かせるために必要な道具ですから、現実(道具)と真実は同格だと私は言うわけです。

重要なのは、自分が「1」であると自覚することです。その自覚は、瞑想によって得るわけですから、やはり瞑想が重要になってくるのです。瞑想とは、「1」なる私が、「1」なる私を意識することです。つまり、「1」が「1」を想うことです。自分が「1」だからです。この宇宙には、「1」しか無いのです。

○本当に生きている状態とは？

人はどうして苦しみに喘がねばならないのでしょうか？ 神様は苦しめるために人間を創られたのでしょうか？ いいえ、苦しんでいるのは無知ゆえです。本当の自分を知らないから苦しいのです。実際に無い物を有ると思いいているから苦しいのです。

本当の私たちは、肉体では無いのです。肉体は、本当の自分の乗り物です。本当の自分は、肉体の中で働いている生命です。生命には姿形がありませんから、生きる苦しみが無いのです。老いる苦しみが無いのです。病む苦しみも無いのです。勿論、死ぬ苦しみもありません。

私たちは、形を持って生ることが幸せだと思っていますが、形を持たないで生きることが幸せなのです。なぜなら、形を持てば不自由です。また、形は壊れやすいですから形を維持するために様々なケアが必要です。第一、消えて無くなる心配があります。これでは、心穏やかに生きられません。でも、形がなければ自由です。消えて無くなる心配がありませんから心穏やかに生きられます。生命が一番安心できる状態は、形を持たないことなのです。形は波動が低いですから形を持って生きるとは、生命にとって余り気持ちの良い状態ではないのです。

この宇宙の実態は、形を持って生きることは異常で、形を持たないで生きることが正常なのです。・た

だそれを知るには、形の虚しさや苦しさを体験する必要があるので、今、私たちは形の中に入って勉強しているのです。．．．ですからこの宇宙には、形を持たないで幸せに生きている生命が無数に存在するのです。彼らは、形を持っている生命を見ると異常だと思うのです。今、苦しんでいる人は、こう思ってください。

“今、私は、真の幸せを知るために肉体の中に入って勉強しているのだ！”と．．．。

今、私たちが体験している苦しみは、宇宙時間言えば一瞬です。後に待っている幸せのことを考えれば、そんな苦しみなど大したことありません。どうか、そう思っ生きてください。

※神様は、“難しい生き方をしなさい！”とは言っておられません “自分の思い通りに生きなさい！”と言っておられます。ただし、次の二つのことだけはやってください。一つは社会体験です。もう一つは瞑想です。この二つのことをやり自分の思い通りに生きたら、間違いなく原子核が大きくなります。

○私が解らない？

私の生まれが分からない？ どうして生まれたのか？ いつ生まれたのか？ どこから生まれたのか？
どのようにして生まれたのか？ 全く分からない。だから、私の素性が分からない。素性が分からないから、

私を知る手がかりが全く無いのである。正に分らないづくめの私である。

その私は、いつか消えてしまうのだろうか？ つか無くなくなってしまうのだろうか？ いや、そんなはずがない。なぜなら、私は見えないからだ。見えないモノが、無くなるはずがない。では、私って一体何モノなのだろうか？ 私が私を知らないで生きている、何と不思議な私である。

不思議と言えば、なぜ私に分かるのだろうか？ それは、私を認識できる意識があるからではないのか？ 私の意識がなかったら、私を認識できるはずがない。ということ、私は意識ではないのか？ そうだ、やっと解った！ 私は意識なのだ！ でも、意識って何なのか？ 意識って・・意識って・・意識って・・意識って何なのか？ 解らない？ では、その意識はどこから来たのだろうか？ どこから生まれたのだろうか？ 「私・私・私・・」といくら追いかけても、私の意識の源が、出処が、分からないのである。私に意識がなかったら、こんなに悩むこともないのに・・。でもこれは悩みなの・・？ いや、私に悩みなごどない。むしろ嬉しいのだ。楽しいのだ。なぜなら、私の意識が未知だからである。未知な意識なればこそ、追求のしがいがあるというものである。未知とは、嬉しいことなのである。未知とは楽しいことなのである。未知とは希望である。知ったら絶望である。

とは言っても、やはり私は私の意識を知りたい！ 未知なるものを知りたいのは、本能のようなものだけ

らである。でもどんなに知りたいたいと思っても、永久に知ることができないのだ。知ったら絶望だからである。でも、それで良いのである。なぜなら、「意識は永久に知ることができない！」と解ったことが、意識を知ったことになるのだから……。

では、永久に知ることのできない私の意識に名前を付けよう。どんな名前？・・・それは、神という名がふさわしいのではないだろうか？ 神は永遠に知ることのできない存在だからである。

※私の意識を知る手がかりが、一つだけあります。それは自分の意識を意識することで、自分が光ってくることです。意識とは、光なのです。私とは、光なのです。しかし、その光がどこから生まれたのか？ その光が何なのか？ は依然として解らないままなのです。でも、永遠に解らないままが良いのです。なぜなら、解れば宇宙は有限になってしまうからです。それでは宇宙の死です。

無限の宇宙を永遠に知ることが出来ないとは解ったら、宇宙を知ったことになるのです。

○トリックに引っかかっている神の子たち

今地球上には70億人を越す人類が存在しますが、その全員が神なのです。なぜなら、神にしか無い思い

を人類は持っているからです。思える人類は、間違いなく神なのです。でも、今はまだ魂の量が少ないので、「神の子」の段階です。でも「神の子」は、いずれ成長し神になるのです。

その「神の子」が、幻をホンモノに見せかけるトリックに引っかけり、今真剣に泣き笑いしながら生きています。神はどうして「神の子」たちを、このようなトリックの中に放り込んだのでしょうか？ それは、ホンモノに見せかけるトリックの中に放り込まなければ、真剣に生きようとしなからず。

どうでしょう！ 夢と知りながら、夢の中で真剣に生きられますか？ 幻の世界だと知りながら、幻の世界の中で真剣に生きられますか？ いい加減な生き方しかできないはずで。それでは成長できません。進化成長するためには、真剣に生きられる環境がどうしても必要なのです。その環境が、幻の現象界なのです。

神の子は、自我を持ち自由意志を持っている賢い魂ですから、少々のトリックでは騙されないのです。だから神は、トリックに引っかけられるよう肉体を持たせ、幻の現象界の中に放り込んだのです。これは、神にとって苦肉の策なのです。今地球上でこのトリックを見破っているのは、覚者だけです。でも騙されている一般人も、いずれトリックを見破る時がくるでしょう。その一番近くにいるのが、皆さんなのです。

実際に有るモノのことです。

さて、神は分からないモノであることを知りました。では、あなたは、あなたを知っていますか？ 自分を知っていますか？ 私・私・私・私・・・と自分の意識を追いかけて行ってみてください。いくら追いかけても、自分の意識の出処が分からないはずで、自分の意識がどこから来たのか、どこから生まれたのか、分からないはずで、自分の意識の正体が分からない？・・・自分が分からない？・・・分からない？・・・

先程、分からないモノに神の名を付けてくださいと言いました。では、分からない自分の意識に神の名を付けましょう！ 分からないのが神なのですから・・・。

私が「人間は神である」と断言するのは、分からないからです。そうです。私たちは、分からない神なのです。

※ 自我にとって都合の良いことは、真我(神我)にとって都合の悪いことです。真我(神我)にとって都合の良いことは、自我にとって都合の悪いことです。でもそれは見かけであって、本当は全て都合の良いことなのです。

○不可思議な存在？

自分って、どれほど不可思議な存在なのだろうか？ どれほど神秘的な存在なのだろうか？ 何せ、自分の正体が全く分からないのである。自分の素性も、経歴も、能力も、可能性も、発展性も、何が出来るのか出来ないのかも、全く未知数なのである。

今の自分に分かっていることと言えば、
姿形がないこと・・

永遠に無くならない無限の意識を持っていること・・
何でも考えられる、思える、想念を持っていること・・。
自由意志を持っていること・・

これくらいのことしか分からないのである。

それでは心配ではないのか？ 心細くはないのか？ と思うかも知れないが、そんな思いは一切ないのである。反対に分からないことの方が、嬉しいのだ。なぜなら、夢があるからである。

私・私・私・・と、どんなに探っていても掴めない自分の意識・・何と楽しいではないか？ 何と嬉しいではないか？・・この気持、分かって頂けるだろうか？

※有限は苦しみです。無限は喜びです。頭打ちのない、届かない、底のない、無限の自分を探る旅は、究極の幸せである。

○生きているとは？

生きているとは？・・・形の有る無しにかかわらず、意識の有るモノはすべて生きています。意識していること自体が、生きている証だからです。では具体的に、どのような状態を生きているのでしょうか？ 生きている条件は何でしょうか？

それは、

- 一. 永遠であること・・・
- 二. 無限であること・・・
- 三. 完全であること・・・
- 四. 思えること・考えられること・・・自分の存在も他の存在も認識できること・・・

この四つは基本条件です。

五. 力(エネルギー・光・想念)を持っていること・・・

六、息していること・

七、脈を打っていること・

この三つは副次的条件です。

この七つの条件がクリアーされていなければ、生きていたとは言えません。では人間は、この条件をクリアーしているでしょうか？

人間は、意識を持っています。その意識は、永遠に無くなりません。その意識は、無限です。その意識は、完全です。人間は、想念という創造の力を持っています。人間は、息をしています。人間は、脈を打っています。ということは、人間は七つの条件を全部クリアーしていることになります。だから人間は、間違いないで生きています。でも、肉体のことを言っているではありません。肉体の中で働いている意識のこと、魂のこと、生命のことを言っているのです。

肉体は無くなりませんので有限です。意識も持っていません。想念も持っていません。息もしていません。脈も打っていません。ですから、肉体は生きていないのです。

冒頭に、形の有る無しにかかわらず意識の有るモノは、すべて生きていたと言いましたが、それは意識そのものが生きていた条件を満たしているからです。

※この宇宙には、意識の有るモノだけが存在しているのです。意識の無い物は存在できないのです。

○真に生きている時とは？

この宇宙に生きモノは、たった一つしか存在しません。もし生きモノが二つも三つも存在するなら、宇宙は有限になってしまうからです。生きモノが一つしか存在しない理由は、宇宙が無限だからです。無限宇宙そのものが、一匹の生きモノなのです。私たちは今その無限宇宙の中に存在し、私たちの中に今その無限宇宙が存在しているのです。ということは、私たちは同じ一匹の生きモノ（一匹の無限宇宙）であるということです。

今私たちは、間違いなく生きています。これは何モノも否定できません。何せ私たちは、今実際に存在しているのですから……。今実際に生きているのですから……。存在してられるのは、生きているからです。また生きているから、存在してられるのです。私が・「私たちは宇宙そのものですよ！神そのものですよ！」というのは、今私たちは存在しているからです。今生きているからです。今存在しているのは、今生きているのは、宇宙しかないのです。今存在しているのは、今生きているのは、神しかないのです。

ただし、真に生きていると言えるのは、想念を持つようになった以降です。つまり、自我を持つようになった以降です。自我を持たない鉱物や植物や動物は、真に生きているとは言えないのです。それは、宇宙を、神を、自分を、認識してやれるところまで進化していないからです。

生きている時とは？

神を意識している時。

実際に有るモノを意識している時です。

生きていない時とは？

人間を意識している時。

実際に無い(この世)モノを意識している時です。

本当に有るモノを意識している時は生きており、本当に無い物を意識している時は死んでいるのです。どうか、死人にならないでください。

※人間の尊厳は、自分を認識できる、宇宙を認識できる、神っているのかな？ と思える想念を持った時に生まれるのです。

○ひたむきに神を求め続ける！

“何の欲も持たず・ひたむきに神を求め続ける！”こんな美しい姿はありません。

ひたむきに神を求め続けるとは？・純な心を持つて神を想い続けるという意味です。そんな純な気持ちで神を求め続けたら、神は(本当の自分は)きつとあなたを天に引き上げてくれるでしょう。

※自分を認め、宇宙を認め、神を認めてやれるところまで進化した自分を褒めてあげましょう！

瞑想できるところまで進化した自分を褒めてあげましょう！

苦難の道を歩み続けてきた自分を褒めてあげましょう！

褒めてあげた後は、更に努力しましょう！

社会体験と瞑想を・・・。

○自分の意識を感じている自分って何なの？

自分の意識を感じている自分があります。その自分って、一体何でしょうか？ それは、本当の自分ではありませんか？ つまり、神の自分ではありませんか？ その自分が無かったら、自分を意識できないのです。

ということは、自分は存在できないということです。

自分の意識が、自分の意識を存在させているのです。つまり、自我の意識が、神我(真我)の意識を存在させているのです。それは、同じ一つの意識だからです。神我(真我)意識があるから自我意識があり、自我意識があるから神我意識があるのです。今 私たちは、一つしか無い意識を二つの意識に別けているのです。それは、肉体を自分だと思っているからです。

繰り返します。

自我意識もあって、神我(真我)意識も有るわけではないのです。有るのは、神我意識のみです。この神我意識だけは、絶対無くならない意識なのです。自分の意識を消せないのは、自分の意識が永遠に実在する神我(真我)意識だからです。どうか、自分と思える自分の意識の不可思議さを探ってください。

※この宇宙で確かなのは、自分しかないという事実です。だから、自分でやるしか無いのです。他人(私)を当てにしてならないのは、他人(私)はいないからです。他人は、外側の世界の無いモノです。自分は、内側の世界の有るモノです。他人は実在しないのです。自分は実在するのです。外側の電車を待っていても来ないのは、外側の電車は実在しないからです。来ない電車を待つことほど、苦しいことはありません。どう

か来ない電車を当てにせず、自分の足で歩いてください。

○どうして相手がいるのですか？

どうして相手がいるのですか？・・・それは自分がいるからではありませんか？ 認識者である自分がいるから、認識される相手がいるのではありませんか？ 認める自分がいなかったら、認められる相手はいないですよ！ 「相手！」という字だけ考えても、自分が「相手」を作っていることに気付かされるのではありませんか？「片手」だけでは「相手」は生まれません。この話を、宇宙に置き換えて考えてみましょう。

どうして宇宙があるのですか？ それは自分がいるからではありませんか？ 認識者である自分がいるから、認識される宇宙があるのではありませんか？ 認める自分がいなかったら、認められる宇宙はないのですよ！ ということは、相手は、宇宙は、自分が創っているということです。こんな分かり切ったことを、人間は気付いていないのです。だから相手を憎んだり恨んだりして、戦争までするのです。憎んだり恨んだりしている相手は、自分が創った相手なのです。というよりも、相手は自分自身なのです。なぜなら、認められている自分が、認められている相手の中にいるからです。それは、認めている自分が、認められている相手

を創っている素材だからです。なぜ素材かと言いますと、認識している意識そのものがモノの素材だからです。意識はモノの素材なのです。認めている自分の意識(素材)が、認められる相手になっているのです。だから、相手の中に自分がいることになるのです。つまり、自分が相手を創っていることになり、相手は自分になるのです。

“いや、自分がいなくても他に認識者がいるのだから、相手はいるはずだ！”とあなたは反論するかも知れません。でも、自分がいなかったら、そのことをどうして知ることができるのですか？どこまでも主観的見方しかできないのです。なぜなら、この宇宙には自分しかいないからです。

○同時に二つの人生を歩むことは出来ない！

世の人々は、“あの時こうしておけば良かった！ああしておけば良かった！”と悔やみ事を言いますが、同時に二つの人生を歩むことなどできないのですから、悔やみ事は言わないことです。“人生は試すことができない！一回限りの人生である！”と言われるのは、今の人生を歩みながら別な人生を歩むことができないからです。私たちは、一つの人生しか歩めないのです。その意味では、確かに一回限りの人生です。仮に歩めたとしても、同じ人生ではないのです。なぜなら、時々刻々と条件が変わっているからです。今の

人生の条件は、現下における条件です。時が移れば時代背景も変わり、登場人物も変わり、社会情勢も変わります。そんな条件の違う下で同じ人生が歩めるはずがありません。

よくこんな事を言う政治家がいます。"私の言った事の正しさは、時代が証明してくれるだろう！"と・・・とんでもありません。そんな事、あるはずがありません。なぜなら、時々刻々と移り変わる無常の世界で、同じ条件が整うはずがないからです。

やったことが正しかったか正しくなかったかは、やってはじめて分かるのです。やらなかったら分かるはずがないのです。なぜなら、原因を作らなかつたら結果が生まれるわけがないからです。同時に二つのことはやれない(原因を作れない)のですから、どちらが正しかったか正しくなかったか比べることなどできないのです。だから、"あの時ああしておけば良かった！"などと悔み事を言ってはならないのです。

二つの人生が歩めないのは、一つの時間の中で二つの人生は試せないからです。試せるのは、今の一つの時間の中の人生だけです。それ以外の人生はありません。あの時ああしておけば良かったと思うのは、単なる望みです。望みは人生ではありません。歩んで初めて人生になるのです。今あなたが歩んでいる人生は、一つしかない人生です。その人生は、誰が作ったのでもありません。あなたの想いが作ったのです。例え今の人生が不幸そうに見えていても、最善の人生だったのです。なぜなら、あなたがその時の原子核の量にお

いて良いと思ってやったことだからです。それは必然であり良いことだったのです。その証に、今こうして真理を学んでいるではありませんか。もし他の人生を歩んでいたら、今真理を学んでいなかったかも知れないのです。いやそれどころか、悲惨な人生を歩んでいたかも知れないのです。

二つの人生は歩めないのですから、今の人生が最善だと思って一生懸命生きることです。どうか、自分を信じてください。その時の自分の思いでやったことが最善だったと信じてください。

※ やった事は結果として証明できませんが、やっていない事は結果が生まれなので証明できないのです。つまり起きたことの証明はできるけれど、起きなかったことの証明はできないのです。

ある学びの友の気づき。

「こうしておけばよかった！」 ああしておけばよかった！ と人は後悔するものですが、ではこうした時ああした時を比べられるか？と言ったら、絶対に比べられません。

もしああしていたらこうしてないので、こうしていたらどうなったかわからない・・・もしこうしていたらああしてないので、ああしていたらどうなったかわからない・・・

あれ？

これはどういうことか？

そうか・・・必然って今しかない！という意味だったんだ・・・」

※瞑想は、今の条件下(理解力の下)で行われています。でも、今の条件(理解力)は刻々と進化しているわけですから、常に進化した条件の下で瞑想が行われているのです。だから私は、雪だるま式に原子核が増え進化するというのです。

参考・・・心を安らげる一つの方法

この物質の世界は波動が粗いので、常時心を安定させておくのは容易ではありません。真理を学んでいる人でも、苦勞しているはずです。そんな人のために、心を安定させる一つの方法を教えましょう。

まず、B4の大きさの紙に、「神」という白抜き字を大きめにコピーします。その白抜き字の中に「ありがとう！」と心を込めて書いてください。多く書けば書くほど波動が上がります。七色を使い芸術的に書いたら最高です。学びの友が書いた作品が、「光の画集」で紹介されていますので参考にしてください。

書いていると心が落ち着きます。サタンにやられづらくなります。知人や肉親の中に心の病で苦しんでい

る人がいたら、ぜひ教えてあげてください。良い変化が起きると思います。

白抜きのは、あなたの好きな字を使ってください。お勧めのは、「光」「愛」「命」「心」などです。

○自由性の進化

私たちの肉体は、重く扱いづらく実に不自由です。だから人類は、少しでも自由性を高めようと車や飛行機を発明してきたわけです。でもそんな乗り物を発明するより、自分が意識体であると気付けばそく自由になれるのです。神はそのことを気付かせるために、今日まで人類に三身(位)一体の進化の体験をさせてきたのです。

大昔の人類は、幼かったため石炭すら扱えませんでした。でも、進化するにしがたい石炭を扱うことを覚え、石油を扱うことを覚え、ついにはガスまで扱えるようになったのです。これがエネルギーの進化です。石炭は個体で、石油は液体で、ガスは気体です。でも石炭の中に、油とガスが同居し三身(位)一体になっているのです。私たちの肉体も同じように、肉体の中に幽体と意識体が同居し三身(位)一体になっているのです。幼い内は肉体を自分だと思っていますので、肉体の生き方しかできません。地球人類の殆どは、今そのように生きています。でも進化成長するに従い、幽体に生きようになり、意識体に生きようになるの

です。

学びの友は、最終段階に入っている魂です。さあ、瞑想し意識をカゴ(肉体)から開放しましょう。瞑想して自分の本性が自覚できたら、意識(魂)は肉体から離脱して自由になるのですから……。

※ 幸せの基盤になっているのは自由性です。それゆえに私たちは、身体を縛られても、思想を縛られても、苦しいのです。人類が「自由！自由！」と声高に自由を求めるのは、自分の本性が自由な意識(魂・心・想念)であることを本能的に知っているからです。自由性イコール幸せです。どうか、原子核を増やし自由性を高めてください。

※ 一を知ったら個人間の対立も、人種間の対立も、国家間の対立も、宗教間の対立も、無くなります。一を知れば自由を知るからです。一は無限なのです。一つの中には、無限の中には、何の障壁もないのです。それは、区切られていないからです。不自由なのは、区切られているからです。区切られた世界は、不自由なのです。

○迷惑!?

世の人々は、「迷惑」を悪と考えています。でも本当に、「迷惑」は悪でしょうか？ 迷惑という意味は、

「迷わせ惑わせる」という意味ですから、字の意味だけ考えたらたしかに悪いことかも知れません。でも迷惑をかけられた人は、迷惑から色々学び成長するのですから悪いことではないのです。だから、人に迷惑をかけて良いと言っているわけではありません。迷惑を自分の成長につなげて欲しいと言っているのです。

あなたは自分を成長させたくて、迷惑をかける人を連れてきたのです。ならば、迷惑をかけてくれた人は恩人ではありませんか？ 実際にはあなたは、これまで迷惑をかけたことで成長してきてではありませんか？ これは、主観宇宙の仕組みを知った人なら分かって頂けると思います。

どうか、迷惑を良く受け取ってください。迷惑は、自分を成長させてくれるのですから……。

※嫌なことをしてくれた人を嫌っているうちは、未熟です。嫌なことをしてくれた人に感謝できるようになったら、成熟です。実際に、嫌なことを乗り越えたら原子核が増えるのですから、嫌なことをしてくれた人は恩人です。

※嫌なことをされたのは、あなたが嫌なことをしていたからです。あなたが嫌なエネルギーを出していたから、嫌なエネルギーが入ってきたのです。そのことに気付いたら成長です。迷惑が迷惑でないのは成長できるからです。

※ エネルギーは、出した分入るようになっていくのです。出しもしないで余計なエネルギーを貰おうとするのは欲です。欲のエネルギーは、いつか必ず返さなければなりません。痛みや苦しみで・・・。

○すべて自分の魂の成長のために起きている！

皆さん！ この世で起きているどんなことも、すべて自分の魂の成長のために起きていると思ってください。それは、自分しかいないからです。自分しかいないのに、誰かのために何かが起きますか？ もし起きるなら無意味なことが起きていることになり、宇宙を創造した神が無能になってしまいます。神が創られた完全な宇宙で、そんな無意味なことが起こるはずがありません。では、どうして自分のために起きるのでしょうか？ それは、自分が計画して自分が起こしているからです。

いつも言うことですが、どうして相手がいるのですか？ 自分がいるからではありませんか？ 自分がい

なかったら相手はいないのでしょ！ 相手がいないどころか、何も無いし、何も起きないのでしょ！

今日までのあなたの人生において、自分抜きの人生活ドラマが一つだってありましたか？ 自分の人生ドラマの中には、必ず自分が入っていたはずですよ。それは、自分が自分の人生ドラマの主役だからです。もし主役の自分が抜けたら（いなくなったら）、途端に脇役も舞台もすべて消えてしまうのです。

今あなたは前方を見えています。前方が見えるのは、あなたの目がカメラとなり自分の前を写しているからです。ですから今日までカメラアングルの外れた日は、一日もありません。あなたは今日まで、一度だってカメラを回さない日はなかったのです。

あなたは主役であると同時に、ドラマの原作者であり、演出者であり、監督であり、撮影技師であり、時代考証係であり、小道具係であり、照明係であり、衣装係であり、メイキャップ係だったのです。自分がドラマの筋書きを考え、自分がドラマの舞台を設営し、自分がその舞台の上で演技してきたのです。それは、すべて自分の魂の成長のためです。自分が計画して自分がやることですから、何一つ間違いはありません。だから私は、この世で起きているどんな出来事も、自分の魂の成長のために起きているというのです。

人生の目的は、あくまでも自分の魂を大きくすることです。神の自分の目的は、それしかないのです。

※ 下記の宇宙数式を深く理解してください。

この数式は、この宇宙には自分しか存在せず、しかもその自分は、永遠に存在し続けるという数式です。この数式が腹の底で理解できたら、「どんな事も、すべて自分の進化成長のために起きている！」と思えるようになります。もう、人の責任にすることはなくなりません。また、人を憎んだり恨んだりすることもなくなりません。

今日、何か特別なことが起きたら、なぜそのようなことが起きたのか、よく考えてみてください。理由が分かったら自分が成長できます。例えば理由が分からなくても、必ず意味があるはずですよ。完全な神が、意味のない体験をさせるはずがないからです。

苦しい！ 痛い！ 恐怖！ の反対の体験は何でしょうか？ 楽しい！ 気持ち良い！ 安心！ の反対の体験は何でしょうか？ 私たちは、相対的体験を通して成長して行くのです。どうか神を信じてください。神は、何一つ無駄な体験をさせないのですから……。

$$\text{無限時間} \times \frac{1(\text{今} \cdot \text{私})}{\text{無限時間}} = 1(\text{今} \cdot \text{私})$$

※ある学びの友の言葉

「おもしろいですね・・・」

地球人類 70 億人に質問してみたいです。

「一瞬でも、自分じゃなかった時を体験したことありますか？」って・・・。

自分じゃない状態って・・・どうしたら、創れるでしょうか???

いや～すごい!!

自分しかないですね・・・

自分・・・という状態以外に何かあるでしょうか?・・・ないですね!!

自分しかないって・・・こういうことだったのでですね。」

○代理戦争

人間はどうして「ひいきのチームを」作りたがるのでしょうか？ それは、自分の鬱憤を晴らしたいからです。

この社会は、「力の強い者が勝ち力の弱い者が負ける」、と言った動物まがいの弱肉強食の社会です。力

の強い者は良いでしょうが、力の弱い者は、力が弱いからと言って黙って指を加えているわけにはゆきません。そこで、ひいきのチーム(自分の代理人・身代わりの戦士)を作って相手と戦い、鬱憤を晴らそうとしているわけです。しかし勝った者は良いでしょうが、負けた者はどうなるでしょう。鬱憤が積もるだけです。これでは、互いに心(宇宙)を汚してしまいます。

ひいきのチームを作るということは偏りを作ることですから、宇宙(中庸)の法則によってしつぺ返しを受けるのは当然なのです。今地球人類は、武器をボールに持ち替え戦争しているようなものです。どちらが勝っても鬱憤は晴れません。こちらが負ければこちらの鬱憤が増し、相手が負ければ相手の鬱憤が増し、トータル的には変わらないからです。要するに喧嘩両成敗のようなものです。一日も早くそのことに気付いてもらいたいものです。

今地球に、たくさん醜い絵(戦争・事故災難・病気など)が描かれています。これは何事も偏っているせいです。偏れば苦しみが来るのが法則ですから、苦しい絵が描かれるのは当然なのです。神様は、人類が地球という表現世界にどのような絵を描くのか見ておられるのです。そろそろ人類も偏りの過ちに気付き、地球に美しい絵を描きたいものです。

※ 地球人類は実に好戦的です。それは、動物時代のクセがまだ残っているからです。でもそれは、真理を深く知れば取り除けるクセなのです。つまり、自分の本性が意識であり、生命であり、神であり、一つのモノであることを心の底で知れば自他の溝が埋まるため、好戦的な人から平和的な人になるのです。さあ、原子核を増やし動物時代のクセを取りましょう！

○現象に囚われてもならないが、軽んじてもならない！

私は今まで、必要以上に現象を嫌ってきたように思います。それは、現象に惑わされ人生の目的を見失っている人たちが、あまりにも多いからです。でも私は、それで良いことに気付かされたのです。

V字の左側にいる幼い魂は、全く神に顔を向けません。彼らは肉体維持のために、毎日物やお金集めに躍りになっています。でも彼らも、必ずV字の右側に進化して来るのです。なぜ、神に顔を向けない魂が進化するのか？ それは、物質的な生き方しても(現象に生きてても)原子核が増える仕組みになっているからです。

私は良く言います。“原因を良くしなければ結果は良くなりませんよ！”と・・・つまり、“どんなに川下でゴミ拾いしても川は綺麗になりませんよ！”と・・・確かに人の心(魂)を成長させなくては、根本的

解決にはなりません。でも、よく考えてみてください。原因と結果は離れていないのです。離れていないということは、互いに影響しあっているということです。ということは、結果をいじって原因に影響を与えることができるということです。それは、結果の中に原因があるからです。つまり、描かれた絵の中に画家の思いがあるからです。だから、絵を見て画家の思いを汲み取れた人は感動するのです。これは、汗水流してゴミ拾いしている人たちの姿を見たら、ゴミを捨てている人の心に影響を与えられるのと同じです。真剣に平和を叫んでデモしている人たちの姿を見たら、好戦的な人たちの心に影響を与えられるのと同じです。私が「人類の夜明3」の書を手書きして欲しいと願っているのも、同じ可能性を信じてのことです。

結果は結果だけで終わっていないのです。文字は文字だけで終わっていないのです。文字(結果)の中に原因者の思いがあるのです。その思いは、文字を書くことで汲み取ることができるのです。言葉は、神の思いが響(音)きとして形に現れたものです。同様に文字も、神の思いが形として現れたものです。つまり、「身……行為」と「口……言葉」と「意……思い」は一つなのです。一つゆえに、文字から思いを汲み取ることができるのです。

この物質世界も幽界も、神の思いが形として現れた夢幻の世界です。でも今私たちは、その夢幻の世界で学んで目覚めようとしているではありませんか？ 実際に、目覚めた先輩たちが沢山いるのです。それは、

結果で原因を変えられたという証拠です。もし夢幻の世界から何も学べないなら、私たちは永久に目覚めることはできないでしょう。という事は、V字の左側にいる幼い魂は、永遠にV字の右側に来られないということです。そんな無慈悲な宇宙を神が創られるわけありません。ですから文字も言葉も、単なる文字や言葉ではないのです。つまり現象は、単なる現象ではないのです。神は現象世界(結果の世界)からでも、成長できるようにしてくれているのです。だから私は、現象を軽んじてはならないということです。

だからと言って皆さんに、ゴミを拾いに行きなさい！ デモをしに行きなさい！ とは言いません。そんな時間があるなら、原因を良くすることに時間を使ってください。つまり、瞑想して原子核を増やすことに時間を使ってください。客観的見方しかできない一般人は、外側に生きても(川下でゴミを拾ったり、デモをしたり)仕方ありませんが、主観的見方ができるようになった皆さんは、内側に生きるべきです。つまり、瞑想して原子核を増やすべきです。それが、熟した魂の生き方です。

※ 現象の世界(結果の世界)は、意識の世界(原因の世界)を知るための教室ですから、学び終えたら直ちに上の学年に進むべきです。懐かしがっては、留年してしまいます。

※ 夢から目覚めたと思っても・・それは夢です。その夢から目覚めたと思っても・・それもまた夢です。またその夢から目覚めたと思っても、それもまたまた夢です。私たちは永遠に夢を見続けてゆくのです。でもこれは、喜ぶべきことなのです。なぜなら、その夢は、苦しみ多い夢から楽しみ多い夢に変わってゆく夢だからです。それが進化です。

○ 気楽に生きよう！

世の人々は、悩み多い人生を送っていますが、この世は夢幻の世界なのですよ！ あなたに起きているどんな出来事も、時間がくれば事情が変わってしまうのです。もし今あなたに死にたいほどの悩み事があるなら、そんな悩み事など笑い飛ばしてしまいなさい！ どうせ夢幻なのですから・・。

そうです。この世は、あなたが悩むほど価値のある世界では無いのです。それよりも、せっかく夢幻の世界に出てきたのですから楽しんでください。あなたは、”今夜は楽しい夢を見よう！”と違って床についてたことはありませんか？ 日々の人生もそうしたら良いのです。ただし、夢を真剣に楽しんでなりません。真剣に楽しんで、ミイラ取りがミイラになってしまいます。夢幻だと自覚した上で楽しんでください。

考えてみると、神は実にうまい方法で私たちを目覚めさせようとしています。夢の中で真理の勉強をさせ、

目覚めさそうとしているのですからね。これは、神ならでの見事な覚醒法です。実にありがたいことです。

※例えあなたに罪深い過去があったとしても、それは真理に目覚めるために必要な過去だったのです。罪を犯さない人など、一人もいないのです。自分を責めないでください。どんな苦しい過去も、みな自分の成長に必要なだったのですから……。

※自分の思い通りに生きてください。それが必然であり良いことなのですから……。その証拠に、今まで自分の思い通りに生きてきて、真理につながったではありませんか？ これからも、そのように生きたいのです。ただし、社会体験と瞑想だけはやってください。それをやらなくては、本末転倒になってしまいます。

○神は常に表現媒体を探している

神には、姿形がありません。それでは、どんなに偉大な神でも存在していないのと同じです。そこで神は、人間を自分の分身としてこの世に送り自分の存在を明かそうと考えたのです。ですから人間は、神の代弁代

行役を果たす使命があるのです。でも多くの人間は、神に顔を向けようとしません。ですから神は、使いたくても使えないのです。でも、皆さんは違います。いつも神に顔を向けています。ですから、"私を世のため人のためにお使いください！"と真剣に祈れば神は喜んで使ってくれるのです。

神の意図は、人類に理想の世を創ってもらうことです。そのためには、地球に真理を根付かせねばなりません。皆さんは、その先駆けとして地球に送られた魂です。でも使命を果たすには、まず皆さんが成長しなくてはなりません。それには瞑想が必要なのですが、瞑想はなかなか難しく時間もかかります。そこで神は、「身・口・意」を利用して魂を大きくしようと考えたのです。この方法なら即効性があり、具体性もありますから、真理を知った者なら誰でもできます。

「身」とは、行為です。「口」とは、言葉です。「意」とは、想いです。想いは見えませんが、口と行為によって見える状態にできるのです。つまり神(天)の意を、言葉と手書を通して地に降ろせるのです。実際には、勉強会でお話することで降ろしています。また、今週の真言や更新集や本で降ろしています。それを、皆さんにもやって頂きたいのです。

どうか私の本を手書きしてください。間違はなく神(天)の意を降ろすことができます。それは、書いて気持ちが良いなることで証明できます。気持ちの良い状態・・・それが、神(天)に使われている状態なのです。

※ 真理を手書きしている時、あなたは罪滅ぼしをしているのです。

瞑想している時、あなたは罪滅ぼしをしているのです。

この二つをやっている時、あなたは、日本に、地球に、「光」を降ろしているのです。

○背信(背神)を悪と決めつけてはならない！

この世には「背信」という言葉がありますが、この「背信」の文字は、本当は、「背神」と書くべきなのです。神を信じない人、あるいは神に背いている人を、背神というのです。

あなたは過去に、神に背いて生きた時代があつたかも知れませんが、でも、自分を責めてはなりません。なぜなら、背神によって痛い目に遭い成長できたからです。大切なのは、自分を責めるのではなく、神を真剣に求め自分を成長させることです。今神を真剣に求めたら、昔の背神の罪はすべて許されるのです。過去を悔やむことほど、愚かなことはありません。どうか、今、真剣に神を求める賢い人になってください。過去の背神は決して悪いことではないのですから・・・

※世の人々は、自業自得を悪と決めつけていますが、自業自得は決して悪いことではないのです。なぜな

ら、自分が作った業で苦しい目に遭い、気づいて、自分が成長できるからです。たしかに、苦しい部分だけ見たら、悪くのように見えるかも知れません。でもこの宇宙は、表裏を体験して成長するようになってきているのです。神は完全です。その完全な神が、自業自得を悪にしておくはずがありません。信じてもらうために、自業自得の正しい意味を教えましょう。

漢字辞典では、自業自得とは、自分で作った「業」で自分が「苦しむ」という解釈をしています。でも、これは誤りです。本当は、自分で作った「業」で自分が「得」をするという意味なのです。実際に私たちは、苦しむことによって得(成長)しているではありませんか。だから、自業自得は良いことなのです。

○肉体を出ることを最大の喜びとしなさい！

老いることを憂いている人に、死ぬことを恐れている人に、私は言いたいと思います。老いることは良いことだ、死ぬことは良いことだと・・・。

どうでしょう？ カゴの中の鳥は幸せですか？ 苦しいものではありませんか？ 私たちは、カゴの中の鳥のように、不自由な肉体の中に何十年間も閉じ込められ生きてきたのです。老いるということは、死ぬということは、その肉体から開放され自由になるということです。どうか、老いることを、「死ぬことを、恐れな

いでください。むしろ、喜んでください。だからと言って、自殺はしないでください。なぜなら、計画を途中放棄して帰ることになるからです。それでは、生まれてきた意味がありません。どうか、計画を全うして帰ってください。計画を全うして帰るとは、寿命が来る日まで自分の思い通りに生きなさいという意味です。ただし真理を学んでいる皆さんは、二つのことはやってください。

年のはじめに「おめでとうございます！」というのは、帰る日が近づいて「おめでたい！」という意味です。どうか、老いることを、死ぬことを、悪いことだと思わないでください。

○正しい言葉の使い方！

神には姿形がありませんので、自分の存在を明かすことができません。存在を明かすためには、何らかの方法で明かさねばならないわけですが、手っ取り早い明かし方が思いです。でも思いも見えませんが、明かすことはできません。そこで神は、存在を明かす手段として言葉を編み出したのです。これが「言葉は神なりき！」と言われる由縁です。言葉は、神を明かす一番端的な表現道具なのです。

今の地球は情報真つ盛りの時代ですが、それは情報が多くなれば言葉の使い方が勉強できるからです。でも、魂が成熟してゆくとあまり情報は必要なくなります。だから熟成した星では、言葉が少なくなつてゆく

のです。その証に学びの友は、大分言葉が少なくなっているはずで、ではここで、正しい言葉の使い方を、真理に照らして考えて見ることにしましょう。

今必要なことだけ話すことです。余計なことを話せば、余計な言葉が返ってきます。そうなれば、トラブルも多くなります。また言葉が多くなれば、連想が多くなるので雑念も多くなります。これは、瞑想する者にとって大敵です。

心が満たされないから言葉が多くなるのです。つまり、心が寂しいから言葉が多くなるのです。どうか、心の寂しさを神で満たしてください。心が満たされれば、余計なことを話さなくなります。

飾り言葉は、今のギクシャクした社会では必要かもしれません。でも真理を学んでいる皆さんは、できるだけ飾り言葉は使わないことです。飾り言葉とは、例えば「良い天気ですね!」とか、「今日は少し寒いですね!」といった言葉、「それではお元気で!」とか、「ご苦労様でした!」とか言った言葉です。つまり、要件を話す前に使う言葉と終わった後に使う言葉です。使い過ぎても少な過ぎても間が保てません。丁度良い使い方をしてください。

おべんちゃら、おべっか、へりくだった言葉などを、あまり使わないことです。余り使うと、人をバカにしているように取られます。特に歯の浮くような褒め言葉は厳禁です。

「こうしなければならぬ！ ああしなければならぬ！」といった押し付け語や制約語を使わないでください。苦しくなってしまう。また、和やかな場を壊してしまいます。

相手の弱みを突くような言葉を使つてはなりません。人には、触れてもらいたくない弱みがあるものです。その弱みを突いては怒りを買つてしまいます。どうしても分かつてもらいたなら、譬え話とか遠回しの言葉を使つて分かつてもらつてください。このテクニックを身に付けるのも学びの一つです。

相手をやつつけるような言葉の使い方をしてはなりません。相手の間違いを正したい気持ちは分かりませんが、あからさまに指摘したら怒りを買つてしまいます。言いたいことがあれば、会議の場で一般的な意見として言ひましょう。自分の体験を話せば、説得力があつて良いでしょう。作り話を交えて話すのも効果があるでしょう。お釈迦様が嘘も方便と言われたのは、本当に人の成長を願つて使う嘘は良いことだからです。否定語やネガティブな言葉を使つてはなりません。否定語やネガティブな言葉は、波動を下げます。前向きな、建設的な、ポジティブな言葉を多く使うようにしましょう。次のような言葉の使い方も良くありません。例えば、「平和でありますように、元氣でありますように、成就しますように、神でありますように」と言った言葉です。これらの言葉は否定語です。使うなら、「平和です。元氣です。成就しました。神です。」と言つた肯定語・確定語を使つてください。

「ありがとう！」という言葉をも、臨機応変に使いましょう。「ありがとう！」という言葉ほど、波動の良い言葉はありません。皆の心を和ませます。皆の心を嬉しがらせます。皆の心を喜ばせます。できるだけ、「あ・い・う・え・お」と言った響きの良い言葉を使い、「ば・び・ぶ・べ・ぼ」と言った響きの良くない言葉は使わないでください。

褒め言葉を使いましょう。褒め言葉を上手に使えば、人を成長させることができます。褒め言葉は、幼子を成長させる最大の良薬です。怒って成長させるのではなく、褒めて成長させましょう。

○結果が存在することの有り難さ！

見える結果体は幻です。でも私たちにっては、見える幻はとても大切なのです。もし幻(結果)が見えなければ、原因追求しようと思いませんから、反省もしないし悪いところも直そうとしないでしょう。それはまた同じ悪いこと(悪い結果を招く)をしてしまいます。交通事故を起こしても結果が見えなくては原因追究しようと思わないでしょうから、また同じ交通事故を起こしてしまうということです。

写真があるがたいのは、起きたこと(結果)の良し悪しが目で見られるからです。この表現世界は、写真のようなものなのです。(実際に無い結果の世界は写真で撮れるが、実際に有る原因の世界は写真で撮れない)

見えない原因の良し悪しは、見える結果になって初めて分かるのです。だから見える結果は、成長するためにはとても大切なのです。

原因と結果の関係は、自我と真我との関係に当てはめてみると良く解ります。自我の自分は結果の自分です。真我の自分は原因の自分です。真我(原因)の自分だけでは、「自分」の存在は無いのです。勿論、結果の自分だけでも「自分」の存在はありません。それでは、「自分」が存在していないのと同じです。自我(結果)の自分が真我(原因)の自分を認め、はじめて「自分」を存在させることができるのです。そう考えると、自我(結果)の自分の存在が何と有難いことか・・・それが、どんなに嫌な自我(結果)の自分だろうが、感謝しなくてはなりません。

自我(結果)の自分を愛している人は、真我(原因)の自分を愛しているのです。真我(原因)の自分を愛している人は、自我(結果)の自分を愛しているのです。愛するとは意識することなのです。愛するとは思うことなのです。自我(結果)が真我(原因)を意識し、真我(原因)が自我(結果)を意識することが、「自分」を愛することになるのです。これが、「自分が自分を愛するよう仕向けた」自己完結型宇宙の素晴らしい仕組みなのです。

ここで言っている「自分」とは、本当の自分のこと・・・つまり神人の「自分」のことです。

○私たちは日々成長している

学んでいる皆さんの中に、昔の幼い自我の思いでやったことを悔んでいる人がいるようですが、そんな過去のことで悔やまないでください。

私たちは時間の中にいるのですから、刻々と成長しているのです。ましてや真理を学んでいる皆さんは瞑想をしているわけですから、今の自我の思いは昔の自我の思いに比べたら、格段の差で高度になっているのです。

確かに過去、幼い思いによって苦しい体験をしたかも知れませんが、でも、その苦しい体験が真理に顔を向けさせたのですから、それは良かったのです。

過去のことを悔やんで、自分の宇宙を汚すことほど大損なことはありません。どうか、そんな愚かなことはしないでください。私だって幼い時には、くだらない思いを持ち、くだらないことをしたのです。でも、それで今の自分に成長できたのですから、くだらないことをやったことは無駄ではなかったのです。神は完全です。その完全な神が、私たちに無駄なことをさせるわけがないのです。

あなたが過去に置いた黒石は、今真理を学んでいることすべて白石に変わったのです。大切なのは、過去を悔やむことではなく、今の今を真実に生きることです。

※過去を悔やんでいる人たちは、苦しみを作っています。また未来を憂いている人たちも、苦しみを作っています。今の今 真実に生きている人たちだけが、幸せを創っているのです。ですから、今の今に生きている人は生き人です。過去や未来に生きている人は死に人です。

○すべて良いこと！

世の中には、不幸災難に見舞われ苦しんでいる人たちが大勢おります。確かに見た目には、可愛そうに見えるでしょう。でも、不幸災難は決して悪いことではないのです。このことは、真理を学んでいる人の前で言えることで、一般人の前で言ったら怒られますので気を付けてください。ではなぜ、不幸災難が悪いことではないのか？ 少し難しいかも知れませんが、理由を述べたいと思います。

私たちの本性は、肉体ではありません。形ではありません。人間ではありません。永遠に生き通す、意識です。生命です。魂です。このことを前提に読んでください。

なぜ、何か(不幸災難)が起きたのでしょうか？ それは、意識させる必要があったから起きたのです。ということ、意識されないとどこで何かが起きることは、絶対あり得ないということです。この点に、注目してください。

仮に、意識しないところで何(不幸災難)かが起きたとしましょう。ではそれは、誰のために、何のために、起きたのでしょうか？ 意識しないところで起きたことに、意味があるのでしょうか？ また、意識しないところで起きたことは、起きたことになるのでしょうか？ それは例え起きていても、起きていないのと同じではありませんか？ 認める意識者がいなければ、認められる何かがお起ようがないのですよ！ ということは、人のいないところ(意識しない所)で何(不幸災難)かが起きることは、絶対あり得ないということです。ということは、意識の前で起きたことは、すべて意味のある必然だということになります。これは、起きたことの意味を受け取ってもらいたくて、意識の前で起きたのですから当然です。では、起きたことにどんな意味があるのでしょうか？ それは、意識に疑問を持ってもらいたくて起きたという意味です。では、意識にどんな疑問を持ってもらいたいのでしょうか？

今私たちの前で、刻々と何かが起きています。その起きたことを私たちは、今意識していません。その意識は、なぜこんな事が起きたのかと疑問を持ちます。疑問を持たず、疑問の謎を解こうと追求するでしょうから、疑問の謎が解けます。謎が解ければ、進化成長できます。このように私たちは、進化成長するために意識させられているのです。ということは、起きたことは、すべて必然だということになります。起きたことに意味(目的)がなかったら偶然ですが、意味(目的)があって起きたのですから必然なのは当然でしょう。

起きた、苦しいこと、悲しいこと、辛いこと、すべて進化成長に必要な必然です。だから、不幸災難は悪いことではない！ と私は言うのです。今まで私たちは、沢山の不幸災難に遭って進化成長してきたのです。

※ どうして、意識の前でしか起きないのでしょうか？ それは、意識されてはじめて起きたことになるからです。意識されなくては、起きていても起きていないのです。起きたのは、意識が存在していたからです。その起きたことは、意識に何らかの影響(疑念・不審・疑惑・疑問・訝しさ)を与えるのです。影響を与えるということは、意味があったということです。では、どんな意味があったのでしょうか？ それは、影響を受けた意識は、すべて進化成長して行くという意味です。疑問や疑念を持った意識は、疑問の謎解きをするので必ず進化成長するのです。

○神の媒体になろう！

神は地球に光を降ろしたくて降ろしたくて、常に媒体を探しています。でも地球人類は、一向に神に顔を向けようとしません。これでは光を降ろしたくても降ろせないのです。どうか学んでいる皆さんだけでも、媒体になってやってください。そのためには、神に意識を向けることです。神に意識を向けるとは、プラグ

をコンセントに差し込むこと、つまり瞑想することです。神は電気ですから、プラグを差し込んだ途端に電流が流れ、電球である私たちは光りだすのです。

真理を手書きすることも、プラグをコンセントに差し込むことの一つです。真理を手書きしている時は、天の光を地に降ろしている状態なのです。

どうか瞑想してください。どうか真理を手書きしてください。神は喜んで光を降ろしてくれるでしょう。

※ 神に会いたかったら、「私を世のため人のためにお使いください！」と祈ってください。神は喜んで使ってくれるでしょう。使ってくれるという意味は、神に会えるという意味です。皆さんが神の媒体になっている時は、神に会えている状態なのです。その時、細胞が震えます。自分が光り出します。気持ちが良くなります。

○ 神様の願い!? (目的)

神様の願いは、すべての存在物を、永遠に尽きない、永遠に色あせない、幸せの中に連れて行くことです。

では、どのような方法で連れて行ってくれるのでしょうか？ それは体験です。体験すれば原子核が増えま

す。原子核が増えれば進化成長します。進化成長すれば、自然と真の幸せの中に連れて行ってくれるのです。体験は宝なのです。

例えば、日々やっている、子育ても、介護も、家事も、仕事も、スポーツも、芸術も、音楽も、学業も、みな進化成長させてくれます。鳥の糞が頭に落ちてきたことも、犬に吠えられたことも、蚊に刺されたことも、足をくじいたことも、電車が遅れたことも、みな進化成長させてくれます。痛いことも、痒いことも、寒いことも、暑いことも、みな進化成長させてくれます。当然、地震も、台風も、雷も、病気も、事件事故も、進化成長させてくれます。一見関係なさそうな、カエルが鳴くことや、セミが鳴くことや、蜂の巣を作ることや、蜘蛛の巣を作ること、**「風が吹いたら桶屋が儲かる！」**の譬えで、みな進化成長させてくれます。この地球で、この社会で、体験したことのすべてが、原子核を増やしてくれるのです。体験は、幸せに近づく原理なのです。この原理が信じられたら、どんな苦しいことも、辛いことも、喜んで受け入れられるようになるでしょう。

これまで体験したことを、一つひとつ紐解いてみてください。良い体験も悪い体験も、みな進化成長に結びついてはいます。私が、すべてよし、すべて善し、すべて好しというのは、どんな体験も進化成長させてくれるからです。これは一般人には理解できなくても、学んでいる皆さんなら理解できると思います。

どうか、「体験は宝」であることを信じてください。信じられたら、どんな体験も、ありがたくて、ありがたくて、仕方なくありません。

※なぜ必然には、意味があるのでしょうか？ それは、目的を持っているからです。どんな目的を持っているのか？ それは、進化成長させるという目的です。だから、必然で固められているこの宇宙では、どんなモノも進化成長して行けるのです。

○笑う門には福来る！

私たちは常々、光の恩恵を受けています。光がなければ、何も見えません。何も育ちません。何も行動できません。それよりも何よりも、心が楽しくないのです。光ほど有り難いものはないのです。では、光って何でしょうか？ 光は、どこから生まれてくるのでしょうか？

光は、意識なのです。光が感じられるのは、意識が光だからです。意識がなくては、光は無いのです。意識は光なのです。その意識は神ですから、光は神なのです。この宇宙は、その神の光(意識)で満ち溢れているのです。その光の性質は、楽しいのです。嬉しいのです。喜びいっぱいなのです。光に満たされると幸福

な気分になるのは、光の性質が楽しくできていくからです。

「笑う門には福来たる！」という諺がありますが、これは光の性質から言って当然のことなのです。笑い声の絶えない家門には、福がやってくるのです。なぜ笑えば福がやってくるかと言いますと、笑いが光を呼び寄せるからです。その笑いは、苦しい心からは生まれません。楽しい心から生まれるのです。では心を楽しくするには、どうすれば良いのでしょうか？

一つは、神を想うことです。神を想えば光に満たされますので心は楽しくなります。

二つは、良いことを想うことです。それには、どんなことも良く受け取ることです。心とは不思議なもので、何でも良く受け取れば楽しくなるのです。

三つは、光をイメージする方法です。これは訓練次第で使えるようになります。

この他にも心を楽しくする方法はありますが、それは皆さんが考えてください。

どうか、神を想ってください。良いことを想ってください。光をイメージ(想う)してください。原子核が増え同時に福もやって来ます。

※心が曲がると、口も曲がるし、技も曲がるし、ボールも曲がるし、作った野菜も曲がるし、世話した花

や木も曲がるし、飼っている犬も凶暴になるのです。すべて心次第です。

心を上手に使ってください。上手に使えば、必ず福がやってきます。

○理解力が創っている宇宙(人生)

この表現宇宙に、「元々このような姿の宇宙がある!」、と言った宇宙が存在するわけではないのです。人類の理解力に比例して生み出された宇宙があるだけです。もしこの表現宇宙に、元々このような姿の宇宙があったなら、結果が先にあったことになり、宇宙は無茶苦茶になってしまいます。あったから創られたのではなく、創ったからあったのです。

この表現宇宙には、人類の理解力に比例して美しく(高度になって行く)なって行く宇宙があるだけです。人類の理解力は、時々刻々と進化成長して行くわけですから表現宇宙も、時々刻々と進化成長して美しくなっていくのです。人類の理解力の成長に限りがありませんから、表現宇宙も限りなく美しくなって行けるわけです。

この地球に、元々醜いモノや美しいモノがあったわけではないのです。人類の理解力が、醜いモノや美しいモノを作っただけです。確かに今の地球人類は、美しいモノより醜いモノを多く作っています。でもどん

なに醜いモノを多く作ろうと、それは間違ではないのです。ただ地球人類は、今の理解力によって精いっぱいモノを作っているだけです。

この地球に、間違いも失敗も悪もありません。理解力の乏しい幼い魂が、存在するだけです。それは、間違っても、失敗でも、悪でも、ないのです。魂が成長して行けば、自然と美しい地球を創るようになるのです。どんな優秀な画家も、未熟な時代には醜い絵を描くものです。でも勉強して技を身につければ、美しい絵を描くようになるのです。地球人類も同じです。途中の醜い絵を見て、間違いだ！失敗だ！悪だ！と、言わないでください。なぜクドクド言うのかと言いますと、元々何かがあったのではなく、人類の理解力が何かを創っていることを知って欲しいからです。

※ あなたの人生も同じです。元々、苦しい人生があったわけではないのです。理解力の幼さが、想念を苦しいことに使い、苦しい人生を作っただけです。学んで理解力を高めれば、良い人生を作ることができるのです。

※ 良い宇宙を創るのも、良い人生を作るのも、すべて私たちの理解力です。

※ 宇宙が無限なのは、人類の理解力が無限だからです。

○病を消す！ 業を消す！

病を消す、業を消す、こんな簡単な方法があったのです。

【病を消す】

今 出ている症状(痒い・痛い・苦しい状態)は、病気が消えて行っている状態ですから、放っておいたら病気は治るのです。ただ、また掴むから、治らないだけです。神様はこの宇宙に、「原因と結果の法則」という素晴らしい仕組みを作ってくださいました。その仕組みは、宇宙(白板)に書いた字や絵は、放おって置いたら自然に消えて行くという仕組みです。つまり、作った原因は結果として現象化(痛い・苦しい)されますが、放おって置いたら現象(痛い・苦しい)は消えてしまうのです。この法則があるから、私たちは救われるのです。でも私たちは、痛い苦しいがやってきたら、心配したり、恐れたり、悩んだりします。だから、治らないのです。例えば痛い苦しいがやってきても、「今、病気が消えていつている！ 消えていつている！ ありがたいことだ！ ありがたいことだ！」と思えば、原因を作らないわけですから病気は治るのです。

【業を消す】

過去世の業を消すのも同じです。例え今苦しいことが起きていても、「ああ、今、過去生の業が消えていつている！ 今、過去生の業が消えていつている！ ありがとうございます！ ありがとうございます！」と頑張って下さい。それも、苦しいことが来るたびに、「今、過去生の業が消えていつている！ 今、過去生の業が消えていつている！ ありがとうございます！ ありがとうございます！」と思ってください。そう思っている時は、悪い想いは持てませんから、業の上乗せをしないで済むのです。同時に二つ思えないのが想念の性質ですから、その性質を利用することです。

さあ、いつも、「ありがとう」とか、「嬉しい」とか、「楽しい」とか、良い思いを持ってください。その時、悪い思いは持てないのですから、段々と悪いことは起きなくなるのです。一番良い思いは、神を想うことです。

難しい技術は要りません。いかに悪い想念を持たないようにするか、だけです。そのためには、常に良い想念を持つよう心がけることです。

※痛み苦しみを半減させる二つの方法があります。

一つは、痛み苦しみが来たら「想わない！ 想わない！」と思うことです。

もう一つは、痛み苦しみが来たら「今、病気が消えていつている！ 消えていつている！ 消えていつている！ ありがとうございます！ ありがとうございます！ ありがとうございます！ ありがとうございます！」と思うことです。

※ 一番大切なのは、自分の原子核(魂)を大きくすることです。病気も業も、魂を大きくするために必要な方弁ですから、魂が大きくなれば、病気も業も消えてゆくしかないので。どうか、二つのことをやってください。

※ 肉体(この世の現象)が、自分で悪くなることはありません。肉体には何の力もないからです。肉体が病気を作ると思えば心配しますが、想念が病気を作ると思えば嬉しくなります。なぜなら、自分の想念で病気が治れると思うからです。想念は自由に使えます。どうか、想念を良く使って病気を治してください。想念の持ち主であるあなたが、あなたの主治医なのです。

※ ひどい外傷を負ったときには、やはり病院には行かねばなりません。でも少々の傷なら、気にせず放お

って置いたら生命力が治してくれます。どこまで生命力に任せるかは、中庸の学びです。

○私が嬉しいこと！

あなたの前で何かが起きた！ それは、誰のために起きたのですか？ 何のために起きたのですか？ それは、自分の進化成長のために起きたものではありませんか？

自分の意識の前で起きたことは、すべて自分の進化成長のために起きた必然なのです。未だかつて、自分の意識以外の前で何かが起きたことはないのです。自分の意識の前でしか起きようがないのは、自分が認識してはじめて起きるからです。それは、自分が主観の主(創造主)だからです。

だから、起こっているのじゃない！ 自分が起こしているのです。見せられているのじゃない！ 自分が見せているのです。

私が嬉しいのは、どんなことも、私(自分)の進化成長のために起きているという必然です。

※ 宇宙も、地球も、社会も、家族も、恋人も、私(自分)の進化成長のために存在し、私(自分)の進化成長のために生まれてきたのです。こんな嬉しいことがありますか・・・

○真剣に真理を求め続けよう！

神は全能です。その神が、私たちの中におられるのですから、絶対ごまかしが効かないのです。神は、あなたが何を思っているのか、何をやりたいのか、すべてご存知なのです。

私たちは、何のために生まれてきたのでしょうか？ お金や物や権力を得るためですか？ あるいは、この世の楽しみを謳歌するためですか？ 魂を大きくするためではありませんか？ 今あなたは、日々何のために生きていますか？

真理を学んでいるのに、なぜ苦しいことが来るのか？ 苦しんでいる人は、考えてみてください。神に真剣に顔を向けていないからではありませんか？ つまり、片手で真理を求めているからではありませんか？ 今のあなたの苦しみは、“真剣に真理を求めなさい！” という警告なのです。神は成熟した魂のあなたに、それほど厳しい真理の求め方を望んでいるのです。今幸せな人生を歩んでいるからと言って怠けていたら、必ずしつぺ返しが来ます。その時泣きを見ないためにも、真剣に真理を求めましょう！

どうか神が望んでいる「真剣さ」に気づいてください。真剣に真理を求めているかどうかは、神なるあなたが一番良く知っているのですから・・・。

さあ、“私は今日只今から真剣に真理を求めます！”と、一大決心してください。もう、あなたの行く先

に石や岩は置かれないうでしょう。

※「真理もやりたいがこの世の楽しみも謳歌したい!」、と語っている人は、リスクを覚悟でやってくさい。

「楽あれば苦あり」です。必ずリスクを背負うようになってるのが、宇宙の仕組みです。だからと言って、「楽しんでならない!」と言っているわけではありません。中庸を守りながら楽しんでください、と言っているのです。

○すべて想念の反映

最近 家に閉じこもっている人が多くなっていますが、彼らの想っている事と言えば、心配、恐怖、憂い、取り越し苦労、怒り、恨み、憎みなど、殆ど悪い想いばかりです。何もしないで家にいれば、想う事と言えばそんな悪い事ばかりなのです。悪いことを想えば周りの悪い波動が同調してきますので、悪い波動に憑依され精神的にも肉体的にも不健康になるのです。ですから、家に閉じこもっている人で健康的な人は、一人もおりません。外で働いている人は、家に閉じこもっている人よりネガティブな思いを持ちませんので、

精神的にも肉体的にも健康なのです。ただし、外で働いている人もいつも暗い思いを持っていたら、家に閉じこもっている人と同じになります。

健全な精神と肉体を保つには、明るい思いを持つことです。想念は、何でも実現させる偉大な力を持っているのです。賢い人はその想念を良いことに使って幸せになり、愚かな人はその想念を悪いことに使って不幸せになっているのです。それは、すべて想念の持ち方次第なのです。

念仏行を勧めている宗教がありますが、これには一理あるのです。例えば、普段は悪いことばかり想っている人も、「波阿弥陀！」とか「何無妙法蓮華経！」の題目を唱えている時は悪いことは想えません。悪いことを想わなければ、悪い原因(悪い業を作らない)を作らないわけです。ですから良い人生になるのです。これは題目の文言に神祕力があるのではなく、唱えている時は悪いことを想えない(業を作らない)からです。その意味では、「ありがとう！」でも、「嬉しいな！」でも、「楽しいな！」でも、良い想いなら何でも良いのです。

私が神を想いなさいというのも、神を思っている時は悪い想いが持てないからです。特に学びの友は、神の概念が深く厚く大きく大きくなっていますから、神を想えば原子核が増えかつ業を作らないという二重の功德が得られるのです。

人生を良くするも悪くするも、想念次第です。もし地球人類が良い想念ばかり出すようになったら、そく地球は理想社会になるでしょう。私はこのことを、全人類に訴えたいのです。

「幸せになるのに何もする必要はない！ ただ、想念を正しく使えば良いだけであると・・・」

これは宗教でも何でもありません。良いことを想えば良いことが返ってくる。悪いことを想えば悪いことが返ってくる。これは「原因と結果の法則」ですから科学です。それは想念がやっているのです。だから私は、想念の偉大さを教育の場で教えて欲しいと願うのです。そうすれば、もう犯罪防止にお金をかける必要も、防衛費にお金をかける必要も、医療費にお金をかける必要もありません。嘘だと思えば、まずはやってみるのです。やってダメでも、元々ではありませんか？ これは、誰にも迷惑はかからないのですから・・・何も損することがないので・・・。

※地球環境の悪化は、人類の心(想念)の反映です。

社会環境の悪化は、人の心(想念)の反映です。

家庭環境の悪化は、家族の心(想念)の反映です。

競技成績の悪化は、アスリートの心(想念)の反映です。

事故・災難・病気の増加は、人の心(想念)の反映です。

気をつけたいものです。

※世の乱れを嘆く必要はありません。自分が成長したら、そんな厭なものは見なくなるのですから・・・。
厭なものを見なくなるという意味には、二つの意味があります。一つは、厭なものは成長のための厭なものだから、厭なものに見えないという意味です。もう一つは、自分が成長したら、もうそんな厭な世に生まれてこないの見えないという意味です。

○好敵手！

神は私たちを、五感(目・耳・舌・鼻・肌)の誘惑によって進化成長させようとしています。中でも厄介な誘惑は舌と肌です。舌と肌は欲望を掻き立て、私たちを真理から離れさせようとします。この欲望に勝つのは、容易なことではありません。多くの求道者が真理から離れて行くのは、五感の惑わしに負けたからです。

神様は意地悪なお方で、カツオブシを目の前において、私たちを惑わそうとしているのです。でも、この惑わしに勝ったら大きく成長できるのですから、神様を意地悪な方だと思わないでください。反対に、私た

ちを成長させるためにしてくれていると思つて感謝してください。

五感の誘惑によつて欲望が湧いてくる、悪意が湧いてくる、この悪しき想いを好敵手だと思つてください。また、誘惑する肉体(五感)も好敵手だと思つてください。好敵手が強ければ強いほど、私たちは大きく成長できます。ぜひ、好敵手に勝つて原子核を増やしてください。

※耳を貸さない人に真理を伝えることはできません。また嫌がる人を真理に誘うこともできません。でもそんな人たちも、いつか必ず真理に目覚める時がやってきます。その時のために私は、真理の明かりを灯し続けたいと思います。

○業とは想い癖(クセー)のこと!

皆さんは、人間ではありません。形の中で生きて働いている生命(意識)です。その生命(意識)が、肉体を自分と思ひ違ひすることで、人間という想ひグセを付けてしまったのです。この想ひグセのことを、業と言つてゐるのです。

私たちは何万転生も人間をやつてきたために、人間の業をつけてしまったのです。コマーシャル漬けにな

っていると、コマージュの言葉が自然と浮かんでくるように、人間漬けになっていると人間グセがついてしまうのです。このクセを取るには、想念を利用することです。つまり、何度も何度も反対の想念を持つことです。反対の想念とは、生命の自分の想いのことです。(マントラの想いのこと)

神様は、私たちに偉大な想念を与えてくださいました。この想念をどう使うかで、幸せにも不幸せにもなるのです。何も難しいことはありません。ただ、どのような想念を持って日々生きるかだけです。それは、自分の自由意志でできることなのです。

※瞑想は、悪い思いグセを取る一番の方法です。それはただ、生命(皆さんのマントラ)を想い続けるだけです。さあ、瞑想して人間グセを取ってください。

※想念を悪用すれば地獄、想念を善用すれば天国、それは自分次第です。

※学びの友の中に、悪想念を無くそうと苦労している人がおりますが、意識して無くそうと思わなくても良いのです。原子核が増えれば自然と悪想念が持てなくなるのですから・・・。それは、神の性質に近づい

たからです。

○想わない！

人生は、すべて自分の想いの作品です。今日までの人生は、みな自分の想いで作ってきたのです。学校に入ったのも、会社に就職したのも、自動車を買ったのも、結婚したのも、みな自分の想念でやってきたのです。ということは、想わなければ何も起きない、何も生まれえない、つまり、何の作品も作られないということです。では本当にそうなのか、実検してみましょう。

クシャミや、アクビや、オナラが出そうになった時、あるいは、痒みや、痛みなどが起きた時、あるいは嫌な思いが湧いてきた時、“想わない！ 想わない！ 想わない！”と思ってください。消えて行きます。“消えてゆく！ 消えてゆく！ 消えてゆく！”と思っても消えて行きます。初めは効果が分からないかも知れませんが、コツが掴めたらハッキリと分かります。

あなたの思いは、どんなことにも効果があるのです。それも想いの力が強ければ強いほど、効果が大きくなります。それは、神と同じ想念を持っているからです。想念は実現の力です。もし身体に何か起きたら、あるいは嫌な思いが湧いてきたら、“想わない！ 想わない！ 想わない！” あるいは、“消えてゆく！

消えてゆく！消えてゆく！”と思ってください。消えてゆきます。どうか試してみてください。

「何も想わなければ何も生まれません！想ったら何でも生まれる」この想念力の凄さを身近で感じてもらいたくて、このようなことを書いたのです。どうか想念力を信じ、瞑想してください。必ず神の自覚が得られます。

※人の言う事を気にしたら有ることになり、気にしなかつたら無いことになります。それは、気にした自分の思いが作ってしまうからです。

○黒石と白石

人間は、悪いことを思いがちです。ですからこの世には、沢山の苦しみがあるのです。でもこの苦しみは、悪いことではないのです。理由はこうです。

人間は過去世の業を背負って生きていますから、何かというところすぐ悪いことを思ってしまう。悪いことを思うと、当然苦しみがやってきます。でも苦しみがくれば、原因を追求し悪い所を直しますので成長します。でもまた悪いことを思うので、また苦しみがやってきます。苦しければ、原因を追求し悪い所を直し

ますのでまた成長します。(悪いことを思った時は黒石を起き、原因を追求し悪い所を直した時は白石を置いてみる。) このように私たちは、黒石-白石-黒石-白石と交互に置きながら成長してゆくのです。だから、悪いことは悪いことではないのです。ただし、一般人は原因を追求しないので、黒石が置かれたままになっているのです。だからまた同じ苦しみがやってくるのです。

本当は、白石を置こうが黒石を置こうが、魂は成長しているのです。なぜなら、体験したことはすべて魂の成長の糧になっているからです。これが黒石を起きながら原子核が大きくなる、進化の仕組みの晴らしさです。

この宇宙に無意味なことは、一つもありません。無意味に見える悪も、進化成長の糧になっているのです。だから、悪は悪ではなく善なのです。このことを知れば、気持ちが明るくなります。気持ちが明るくなれば、光が入ってきます。どうか、どんなことも良く受け取って光を頂いてください。

※アスリートが、勝とうと必死に戦っている時は成績が伸びず、楽しもうと戦っている時は成績が上がります。これは、欲を持つと光を閉ざし、楽しもうと思うと光が入ってくるからです。何事も楽しむことです。社会体験も瞑想も、楽しみながらやることです。

○この宇宙に恐れるものは何も無い！

あなたを傷つけるモノは、この宇宙に一つありません。ですから、何も恐れることは無いのです。恐れるモノがあるとすれば、あなたの想念だけです。

この宇宙に実在しているのは、唯一自分の想念だけです。その想念は何でも作ることができ、何でも壊すことができる、偉大な力を持っているのです。しかもその想念は、自分の自由意思で、自由に・いつでも・どこでも・どうにでも・使える、とても便利なものです。とても便利で偉大な力を持っているがゆえに、慎重に使わなくてはならないのです。

今あなたが体験している苦しいことは、昔自分が使っていた悪想念の結果です。悪想念の結果として現れているのですから、掴まなければ(放っておけば)苦しいことは消えてゆくのです。掴んで離さないから、いつまでも苦しみが無くならないのです。一般人が悪想念を使って苦しむのは、学びのためですから仕方がないとしても、皆さんは学び終わったのですから、もう苦しむ必要はないのです。

皆さんは、人生をいかようにも良くできる、素晴らしい想念を持っているのです。それは、何処へ行く必要もありません。誰の力を借りる必要もありません。お金も必要ありません。どうか自分の想念を使って、良い人生にしてください。

※ この宇宙に、恐ろしいものなど何一つありません。もし怖ろしいものがあるとすれば、あなたの(自分の)想念だけです。

※ 良い人生にするには、神を想うことです。良い想念を使うことです。

※ 悪想念を使ってならないと言われても、長年のクセで、どうしても悪いことを想ってしまいます。でも瞑想すれば、同時に二つのことが想えないのですから、悪い想念を使わないですむのです。

※ あなたは愚痴って自分を責めていますが、愚痴っている時は悪い原因を作っているのですから、いつまでも苦しみは無くならないのです。自分を責めないでください。自分を許してやってください。

苦しい人生があったればこそ、今真理を学ぶようになったのですから、苦しい人生は良かったのです。愚痴をこぼす時間があるなら、自分を責める時間があるなら、どうぞ瞑想してください。

○避けて通れない道

学びの友の中で、このようなことを言う人がおりました。「真理を知らない時は、そこそ楽しく生きられたけど、真理を知ってからは楽しく生きられなくなっただ」と・・・その気持、私にも良く分かります。私にもそういう時代があったのですから・・・悩むほど苦しかったら、止めても良いのですよ！でも止められますか？ここまで成熟した魂は、止めたらかえって苦しくなるはずですよ。

この真理の道だけは、絶対避けて通れない道なのです。なぜなら、我が家に帰る道はこの道しかないからです。ならば、せっかく道(真理)に出会ったのですから、前に進んでおいた方が利口ではないでしょうか？世の中には、ホンモノの道を探してウロウロしている魂が沢山いるのです。それに比べたら、ホンモノの道に出会ったあなたは幸せではありませんか？それは、過去生において布石を打っていたからです。今生も布石を打っておきましょう。

どんな魂も、自覚の境界線を超えねばならないのが定めです。逃げて、避けて、通れる問題でないことを知ってください。

※私は思うのです。

「肉体って、か弱いなあ！」

「肉体って、汚いなあ！」

だからせめて、心だけでも強くなりたい！心だけでも美しくなりたい！と……。

○法則に任せる！

「法則に任せる」とは、「人事を尽くして天命を待つ」という意味です。「人事を尽くす」とは、今やるべきことを真心を込めてやることです。

一つは、今家庭でやるべきことや、今社会でやるべきことや、今職場でやるべきことを、真心を込めてやることです。

二つは、真心を込めて瞑想することです。

やった後は何も考えず法則に任せること……つまり、天命を待つことです。良い原因を作れば良い結果が得られます。この原因と結果の法則は、完璧な科学ですから間違いなく働いてくれます。でも、結果を望んではいけません。徳を積むことです。つまり、原因を積み重ねることです。

自我で「ああだ！こうだ！」と考えても何もなりません。私たちがやるべきことは、人事を尽くすこと

です。人事を尽くせば、法則が必ず自覚の境界線を超えさせてくれます。どうか法則を信じて、二つのことをやってください。

※瞑想している時は、同時に二つのことを思えません。つまり、余計なことを考えないし、余計なことを話さないし、余計なことをしませんから、人事を尽くしていることになるのです。

○私は嬉しい！

私は、時々思うのです。

「あの人の魂が、私の魂でなくて良かったなあ！もしあの人の魂が私の魂だったら、こんな惨めなことはない」と・・・。

私の魂は、人に奪われることはありません。

誰かと交換することもできません。

勿論、売り買いすることもできません。

私の魂は、永遠に私の魂であり続けるのです。

こんな嬉しいことないではありませんか？
ここまで魂を大きくしてくれた、過去生の自分よありがとう！

○知って欲しいこと！ やって欲しいこと！

「知って欲しいこと」

この世は、夢幻の世界である。

死んで無くなる肉体が自分ではなく、永遠に生き通す魂(神・生命)が自分である。

人生の目的は、魂を大きくすることである。

この宇宙は、「中庸の法則」と「原因と結果の法則」によって秩序立てられている。したがって法則を犯せば苦しみが、法則を守れば幸せが、やってくる。

自分の想念は、何でも作り 何でも壊せる 凄い力を持っている。ゆえに正しく想念を使わなくてはならない。

「やって欲しいこと」

法則を守ること。

良い想念し続けること。

何事も真心を込めてすること。

瞑想をすること。

お金やモノや地位や名誉や権力に執着しないこと。

足ることを知った生き方をする事。

神の恵みに(愛に)感謝して生きること。

以上、やってください。そうすれば、あなたの人生は万々歳です。

※ 神様は、真理に顔を向けるようになった人に、導き手として光の兄弟を派遣します。皆さんは今日まで、光の兄弟によって導かれてきたのです。

※ 神を信じられる人は幸せな人です。神を信じられない人は気の毒な人です。なぜなら、神を認める人だけが神に認められるからです。ということは、神を認めない人は、宇宙に存在していないことになります。何と悲しいことでしょう・・・。

○使う人次第！

この宇宙には、本当に有るモノだけが有るのです。その本当に有るモノには、何の色も着いていないのです。良く使えば白になり、悪く使えば黒になるだけです。つまり、良く使えば幸せになり、悪く使えば不幸せになるだけです。どう使うかで、白(良く)にも黒(悪く)にも変化するというわけです。では、本当に有るモノとは何でしょうか？

本当に有るモノとは、「力・エネルギー」のことです。つまり、宇宙の力・神の力です。その「力・エネルギー」には、善悪のレッテルが貼ってないのです。使い方次第で、善にもなり悪にもなる「力・エネルギー」です。

人類には、その「力」が想念という形で与えられているのです。ですから人類は、その想念力を使って何でも作れるのです。良いモノも・・・悪いモノも・・・それも自由意思で・・・。それだけ宇宙(神)は、人類の自由意志を尊重しているというわけです。だから、想念の使い方が重要になってくるのです。今人類が苦しみに喘いでいるのは、想念を悪用しているからです。つまり、想念の使い方が下手だからです。

あなたが持っている想念は、料理に使えば善になり、人殺しに使えば悪になる包丁のようなものです。どうか正しく使ってください。使い方次第で、幸せにもなり不幸せにもなるのですから・・・。

※「人事を尽くして天命を待つとは」・・・今自分がやられることを精一杯やって、後は法則に委ねて待つという意味です。賞罰は人が与えるものではありません。間違いのない法則が与えるのです。

「真剣に・純粋に」真理を求めている者を、神は決して悪いようにはしません。私はこのことを、解ってもらえるまで何度も言い続けます。

○誰も苦しみなど与えていない！

誰も苦しみなど与えていません。自分のネガティブな想念が、自分を苦しめているだけです。

よく、

愚痴をこぼす人がおります。

自分を責める人がおります。

何でも悪く受け取り、心配したり、恐怖したりする人がおります。

人を憎んだり恨んだり悪口を言う人がおります。

すぐに腹を立てる人がおります。

欲望と感情をあらわにする人がおります。

何でも人のせいにする人がおります。

このような人は、決して幸せにはなれません。私は不幸せだという人の想念を見てみると、全員が全員悪想念を持っている人たちです。

神が創られた宇宙に、不幸せなどないのです。不幸せにしているのは人類の想念です。病気は勿論事故災難自然災害も、すべて人類の悪想念によって引き起こされているのです。それほど私たちの想念は、すごい力を持っているということです。それはそうでしょう！ 私たちは、神の分身なのですから・・・。

幸せになりたかったら、想念を良いことに使ってください。一番良いのは、神を想うことです。神を想えば、原子核が増えます。悪い業を作りません。家庭に、社会に、地球に、宇宙に、貢献できます。それはただ、神を想えば良いだけです。「家庭を変えたい！ 社会を変えたい！ 世界を変えたい！」とデモって歩く必要はありません。家においてできるのです。

※ 本来この宇宙に、「これが善だ！ これが悪だ！」と言った決まり切った善悪や、「これが苦しい！ これが楽しい！」と言った決まり切った苦楽もないのです。なぜなら、善悪は条件次第（場所・時代・人・環境など）で変わり、苦楽も受け取り方次第で変わるからです。でも、それを知るには体験が必要なのです。

なぜなら、体験しなければ、ただ善悪の表面や苦楽の表面だけを見て、自分を苦しんだり甘えたりしてしまうからです。確かに、今苦しい体験をしているかも知れません。でもその体験の背後に、必ず魂の成長があるのです。善悪も苦楽も魂を大きくするためにあることを信じ、今の苦境を乗り越えてください。

※無意識に悪想念を持つのは、止めようもありません。でも、できるだけ少なくしてください。そのためには、手の甲にでも赤印を付けておいてください。そうすれば気づき、神に思いを向けることができるでしょう。

○皆さんが皆さんを変えるのです！

私が皆さんを変えるものではありません。私の言ったことを皆さんが実践し、皆さんが皆さんを変えるのです。では、何を実践したら良いのでしょうか？ それは、次の二つのことをすることです。

○ 社会体験です。

○ 瞑想です。

この二つは、誰もやってくれません。自分でやるのです。だから自力です。一の社会体験は、すでに皆さん

んやっていますから何も言うことはありませんが、あえて付け加えるとすれば、今やるべきことを真心を込めてすること、それも厭なことが来ても逃げないですることです。二の瞑想は、雑念が湧いてなかなか集中できないかも知れませんが、普段から正しい「身・口・意」のクセをつければ集中できるようになります。

正しい「身・口・意」のクセとは、

余計なことを思わないこと・

余計なことを話さないこと・

余計なことをしないことです。

一の思いを正しく管理していたら、瞑想のしやすい環境が与えられます。

どうか、一と二を実践し原子核を大きくしてください。原子核が大きくなれば自分の意識が変わりますので、外側の環境も変わってきます。「自分を変えるのは自分である！」ということ信じ、ぜひ二つのことをやってください。

※人を誘ってはなりません。人に誘われてくるようでは、真剣に真理を求めているとは言えないからです。

※神は真剣に真理を求めている者を、決して悪いようにはしません。

○努力は宝！

成功者の伝記を読むと、偉大なことを成し遂げた人ほど努力しているようです。これはこの世の成功者だけでなく、真理の成功者にも言えることだと思います。私が努力を好むのは、努力すれば原子核を増やすことができるからです。

一生懸命努力してこそ、何事も成し得るのです。神だって、一生懸命努力して宇宙を創造されたのです。鉄も打てば打つほど強くなるのです。あんも練れば練るほど艶を増すのです。玉も磨けば磨くほど輝きを増すのです。努力すれば成るのは、原因と結果の法則が実現させてくれるからです。神は努力する者のために、原因と結果の法則を一番の宝物として与えてくれたのです。

努力は宝です。努力は進化の柱です。努力がいかに大切かは、努力している人ほど実感しているものです。どうか努力を惜しまないでください。

※努力すれば成るのは、「動」けば成る法則(原因と結果の法則)が実現させてくれるからです。つまり、「心」

が努力して想念を「動」かし、「想念」が努力して体を「動」かし、実現させてくれるからです。

○想念は実在

何を信じなくても、自分の想念だけは信じてください。なぜなら、自分の想念だけが実在だからです。他のモノは、どんなに見えても、聞こえても、触れても、みな消えてしまう幻です。しかし想念だけは、永遠に無くならない実在なのです。でもその想念は、誰でも持っているありふれたものですから、空気や水のようにならなくても軽んじてしまうのです。空気や水を軽んじては生きられないように、想念を軽んじても良い人生が作れないのです。

病気にしたのも自分の想念です。事故災難に遭わせたのも自分の想念です。盗難にあったのも自分の想念です。人に騙されたのも自分の想念です。結婚したのも自分の想念です。車を手に入れたのも自分の想念です。素晴らしい絵を描いたのも自分の想念です。悪いことを想えば悪いことが実現し、良いことを想えば良いことが実現するのです。人生は想念次第なのです。どうか想念を良く使ってください。良い想念の一番は、神(マントラ)を想うことです。

※ 想念は、両刃の剣のようなものです。悪く使えば、人を傷つけ、自分を傷つけ、地球を傷つけます。良く使えば、人を喜ばし、自分を喜ばし、地球を喜ばします。

※ 不幸は闇の思いから生まれ、幸せは光の思いから生まれます。幸せになりたかったら、明るい想念を持つよう心掛けましょう。

○ 良い準備

最も大切なことは、良い準備をしておくことです。良い準備をしておくとは、良い原因を作っておくという意味です。今苦しんでいる人は、良い準備をしていなかったからです。良い準備さえしていれば、誰でも幸せになれるのです。では、良い準備(良い原因)には何がいるのでしょうか？ 物やお金がいるのでしょうか？ 地位や名誉や権力がいるのでしょうか？ いいえ、何もありません。いるのは、良い想念だけです。

世の人々は、良い準備もしないで幸せを願っていますが、それは予約しないタクシーを待っているようなものです。来ないタクシーを待つことほど、苦しいことはありません。タクシーに乗りたかったら、予約しておくことです。つまり、準備をしておくことです。原因を作っておくことです。そうすれば、間違いなく

タクシーは来ます。これは当たり前前のことです。

原因を作っていたから結果が来たのです。「成せば成る！やれば成る！」これは科学です。

※そのような想いしか持てない！

そのような判断しかできない！

そのような納得の仕方しかできない！

そのような理解しかできない！

それは、まだ器(魂)が小さいからです。今地球で争いが絶えないのは、小さな器の人が多いからです。

1リットルの器に、10リットルの水は入らないのです。10リットルの水を入れたかったら、器を大きくするしかないのです。器を大きくする方法が、社会体験と瞑想なのです。

○あなたが神である証

あなたがどんなに人間だと思っていようと、あなたは間違いなく神なのです。なぜなら、あなたには、次のような神の証があるからです。

意識を持つていること自体が、神である証なのです。

自分と考えること自体が、神である証なのです。

言葉を話せること自体が、神である証なのです。

「自分がいる、家族がいる、地球がある、宇宙がある、神っているのかなあ！」と考えること自体が、神である証なのです。

「人を愛せる、人を慈しめる、人に優しくできる」こと自体が、神である証なのです。

「真を貫ける、善を施せる、美を表現できる」こと自体が、神である証なのです。

「何かを発明発見できる、何かを創作できる」こと自体が、神である証なのです。

「それよりも何よりも、瞑想できること」自体が、神の証なのです。

あなたは肉体ではないのですよ！ 人間ではないのですよ！ 個人ではないのですよ！ あなたは紛れもなく神なのです。

神は一樣です。この宇宙には、一しかないのです。ならば、今あなたが存在していること自体が、あなたが神である証ではありませんか？ 一つしか無いということは、今存在しているすべてのものは、その一の現れであるということですから、あなたは間違いなく神なのです。ただ、形を見て人間だと誤解している

だけです。誤解が解けたら、あなたは神として自由に宇宙に飛び出して行けるのです。

あなたは、そのような素晴らしい存在なのです。

※外側のモノ(現象・幻)に誘惑された時、こう想ってください。「私は何のために生まれてきたのか?」「人生の目的は何か?」と・・・きつと冷水を浴びせられたように誘惑から逃れることができるでしょう。

○物質は悪の元凶!?

どうして物質は悪なのでしょう? いいえ悪ではありません。善を学ぶための教材ですから善です。この宇宙に悪など無いのです。なぜなら、どんな物質も神の素材で創られているからです。もし物質が悪ならば、神は悪になってしまいます。

神は表現宇宙を創るにあたり、自分の意識の波動を下げ物質の素である「核」を生み出したのです。波動を下げ核を生み出さなくては、物質が創造できないからです。波動が低いということは、エネルギーが低いということ、光が弱いということです。光が弱い状態は、気持ちの悪い状態、苦しい状態、痛い状態、なのです。光が弱ければ、悪的なモノがはびこるのです。今地球で多くの悪がはびこっているのは、物質文明

が旺盛すぎて波動を低めているためです。

確かに物質は、苦しみの要因になっていきますが、幼い魂の多い地球人類にとっては、必要不可欠な物質でもあるのです。なぜなら、物質に溺れることによって、真実を発見することができからです。

でも学びの友の皆さんは、もうそのような学びは卒業しているのですから一日も早く物質から離れることです。幼い時代には物質の学びは必要ですが、皆さんのような熟した魂にはもう必要ないのです。

※ 物質は波動の低くい闇の状態ですから、物質文明には悪しきモノがはびこるのです。物を多く持てば持つほど波風が立つのは、闇が悪しきモノを呼び寄せるからです。

今 地球人類は、物質文明に酔いしれていますが、いずれその虚しさに気づき精神文明に舵を切り替えることでしょうか。

○価値は誰が創る？

ここにある「モノ」があったとしましょう。その「モノ」に価値を与えるのは誰でしょうか？ それは、受取人ではないでしょうか。どんなに有り難い「モノ」であっても、受取人が有り難いと思って受け取らな

かったら、その「モノ」に価値は生まれないのです。どんなに良い品物を作っても、買い手(受取人)がいなかったら価値は生まれないのです。よく畑で野菜を腐らせる農家がありますが、あれは受取人(買い手)がないからです。

これは真理も同じなのです。ただし真理の場合は、受取人がいても真理が理解できなかつたら価値は生まれないのです。だから私たちは、原子核を大きくして理解力を高めなくてはならないのです。それまでは、目の前に真理があっても無価値なのです。今人類の目の前に厳然として真理が存在していますが、理解力がないため宙に浮いている状態なのです。

このようにモノの価値も真理の価値も、受取人が納得し受け取ってはじめて生まれるのです。

※認めない価値は無いのです。例えば一億円持っていて、持っているのと認めなければ使えないので価値は生まれません。どんなに有り難い真理も、理解力が乏しかったらその真理は無価値になってしまうのです。真理に価値が生まれるのは、受取人が真理を理解し受け取った時です。

○利口な人の生き方

この世は、仮相の世界です。日々世の移り変わりを見ているあなたは、それを実感しているはずですが、なのに仮相と思えない。それは、肉体があなたを惑わせているからです。

今あなたが苦しんでいるのは、夢幻のモノを追いかけて過ぎていくからです。苦しみたくなかったら、この世のモノとの関わり合いをできるだけ少なくすることです。では、関わり合いを少なくするには、どうすれば良いでしょうか？ 一番良いのは瞑想です。瞑想している時は、この世のことが想えません。この世のことを想わなければこの世の物が寄ってこないのです、関わり合いが少なくなるのです。

想念は何でも実現させます。私たちはその想念を持っているのですから、有効に利用しなくては損です。有効に利用する方法は、本当に有るモノを想うことです。本当に有るモノとは、神のこと、本当の自分のこと、すなわち、あなたのマントラのことです。

ここまで成長してきたあなたは、もうこの世の物は何もいらなはずです。幸せだけが欲しいはずですが、それは、瞑想によって得られるのです。利口な人はそのような生き方をします。ぜひ瞑想し、幸せを得てください。

※ あなたは肉体人間ではありません。

あなたは光り輝く神です。生命です。意識です。常にそう思いながら生きてください。多く思えば思うほど、あなたは変わります。なぜなら、本当にあなたは神だからです。生命だからです。意識だからです。

※ 世界に知れ渡ったアスリートが、コマーシャルに出ます。出た途端、世界の顔が一企業の顔になってしまいます。これは大損です。なぜなら、大きな自分が小さな自分に成り下がってしまうからです。偉大な魂も人間と名乗れば、大きな自分が小さな自分に成り下がってしまうのです。

○意識は一つ

意識は誰のものでもあり、誰のものでもありません。意識は一つであり、全体であり、無限だからです。一つゆえに、何か一つでも消えたら、すべてのモノが消えるのです。

砂一粒 無くても宇宙絵が完成されないのは、砂一粒が全体だからです。砂一粒にしてそうですから、あなたが消えたら宇宙が消えるのは当たり前なのです。あなたは、全体であり、一つであり、無限なのです。もともとの宇宙に、真理が存在するわけではありません。

もともとこの宇宙に、神が存在するわけではありません。

もともとこの宇宙に、光が存在するわけではありません。

もともとこの宇宙に、物質が存在するわけではありません。

もともとこの宇宙に、時空が存在するわけではありません。

もともとこの宇宙に、幸せが存在するわけではありません。

意識を持っている人類が存在するから、真理が存在し、神が存在し、光が存在し、物質が存在し、時空が存在し、幸せが存在するのです。

こう言えるのは、認める者(人類)がいなければ認められるモノ(真理・神)が存在できないからです。

意識はすべての大本です。本源です。その意識を人類は持っているわけですから、人類がすべてのモノを生み出しているのは当然のことなのです。意識イコール人類なのです。人類イコール意識なのです。「人類が存在するから宇宙が存在する」という真理を腹の底に落としてください。

※意識の正体は解らなくても、意識そのものには成り切ることはできません。なぜなら、あなたは意識そのものだからからです。ただ今のあなたは、肉体を自分だと思っ違っているから意識に成り切れただけ

す。思い違いを解けば、そく意識そのものに成り切れるのです。思い違いを解く道具が、瞑想なのです。

※この世のことを意識している時は、幻の世界に生きていることになり、瞑想し神を意識している時は、真実に生きていることになります。ということは、想念は実現の母ですから、この世のことを意識している時は、無いものを作っていることになり、瞑想している時は、有るものを創っていることになるのです。

※私の勉強会の動画を見て波動を受け取れる(感じられる)ようになった人は、よほど波動を落とさない限り、サタンにやられることは無いでしょう。どうか、一日一回でも勉強会の動画を見てください。または光の音声を聴いてください。その人は、もう真理から離れることはありません。

○必然の奥の深さ！

偶然の「偶」という字の意味は、「無茶苦茶・思いがけず・当たりばったり・計らずも・たまたま・計画性が無い・無法則」という意味です。必然の「必」は、「必ず・きっと・間違いない・確かに・きっちり」とぜひとも・揺るがず・有法則」という意味です。

「然」という字の意味は、「起きる・成る・流れ・道・方向・力・動き・働き」という意味ですから、通して解釈すれば「偶然」とは、「無茶苦茶に起きる・思いがけなく起きる・当たり前だったりに起きる・計らずも起きる・たまたま起きる・計画性もなく起きる・無法則に起きる」という意味になります。必然とは「必ず起きる・きつと起きる・間違いなく起きる・確かに起きる・きつちりと起きる・揺るがず起きる・法則どおり起きる」という意味になります。

この宇宙は、きつちりとした「必然の法則」の下に管理されておりから、偶然などあるわけがないのです。もし偶然があるなら、今宇宙は存在していません。今あなたは存在していません。今宇宙が存在し今あなたが存在していること自体、「必然の法則」によって管理されている証拠なのです。法則とは秩序を意味しますから、どんなことも必然で起きているのです。つまり、成るべきにして起きているのです。

神は、「必然の法則」によって私たちを進化成長させようとしているのです。だから、「悪いことを思っただから、悪いことを語ったから、悪いことをしたから」と言っって、自分を責めてはなりません。必然で思い、必然で語り、必然でした良いことなのでから・・・。

この宇宙には、間違いも失敗も悪いことも無いのです。なぜなら、進化成長に結びついている間違いであり、失敗であり、悪いことだからです。ということは、あなたが思った悪いことも、語った悪いことも、し

た悪いことも、良いことだということですよ。

※なぜ、起きたことが必然なのか？ それは自分しかないからです。自分しかないのですから、何かを起こそうと思つたら自分で起こすしかありません。自分が起こそうと思つて起こしたのですから、必然なのは当たり前です。

※死ぬと分かっているのに、人はどうして生まれてくるのでしょうか？ それは、何か学ぶべきこと・・・やるべきこと：があるからではないでしょうか？ では学ぶべきこと、やるべきこととは何でしょうか？ それは、自分の本性を知ること、そして原子核を増やすことです。これは、表現宇宙では必然事項となりますから、死ぬと分かりながら生まれてくるのです。

必然には意味があるのです。それは、「どんなことも進化成長のために起きている！」、という意味です。進化成長のために起きている必然ですから、どんなことも良いことなのです。例えば「事故に遭つた、病気になる、人に騙された」ことも・・・「頭に鳩の糞が落ちてきた、ズボンに泥水をかけられた、石につまづいた」ことも・・・「悪いことを思つた、悪いことを語つた、悪いことをした」ことも・・・「悩んだ、心配し

た、恐怖した、「ことも・みな良いことなのです。どんなに無意味と思えることも、みな進化成長に結びついているからです。このことは今は解らなくても、自覚の境界線を超えれば解ります。

○魂の熟成度の差

学びの友の皆さんは、「人間は魂であり、生命であり、意識であり、神である！」と言っても信じてくれません。また、「地球は意識と意思を持った生き物である！」と言っても信じてくれます。でも「鳥たちが、鳥向けの言葉と人間向けの言葉の使い分けをしている」と言ったら、信じてくれるでしょうか？ 一般の人と言ったら、冷たくあしらわれてしまうでしょうが、あなた達なら少しは戸惑っても信じてくれるでしょう。なぜなら皆さんは、神が鳥たちを差別していることを知っているからです。でも一般人はそんなこと信じませんから、聞き耳を持たないのです。これは魂の熟成度の差ですから、彼らを蔑んではいけません。彼らも人生体験を積んでゆけば、いずれ信じられるようになるのですから……。

幼い魂は、波動の高い話は理解できないのです。でも、それだから生きていられるのです。もし彼らが、一瞬でも下から上が見えたら、恐らく惨めさのあまり生きていられないでしょう。彼らが曲がりなりにも安心して生きていられるのは、下から上が見えないからです。

魂の上の者は、下の者の愚かさが見えても指摘するようなことはしません。指摘しても、彼らには解ってもらえないからです。だから、彼らと私たちは共存してゆけるのです。私がこのようなことを平気で書けるのは、読んでも彼らには理解できないからです。

「知らないことの有り難さ！．．．知らないことの罪深さ！．．．」学びの友の皆さんは、このことを知っておいてください。

※「知らぬが仏」という諺がありますが、正に知らぬことは有り難いことです。でも、恐ろしいことでもあるのです。なぜなら、やってならないことを、知らぬがゆえに平気でやるからです。

○高度になる学び

現状に変化が起きた時、疑問に思ってください。どれほど成長したか？ 神は試しているのかも知れません。また、こうも考えてください。

新たな変化は、「真剣に真理を求めていますか？」という問いかけかも知れません。ここまで成長した皆さんは、もう片手間で真理を求める時代は終わったのです。神は、「真剣に階段を上がりなさい！」と言っ

ているのかも知れません。とは言っても、魂の計画はみなそれぞれ違うわけですから、全員に当てはまるとは限りません。でも神我の自分に聞けば、どのような意味のある変化か分かんと思います。

「この度の変化は何を試しているのか？ 私は今の求め方でいいのか？」 一度、神我に問うてみてください。

私たちは日々惰性で過ごすことが多いため、現状で満足してしまうのです。だから神は、マンネリを打破させるために刺激を与えるのです。変化の刺激は、考える良い機会なのです。

魂が成長すると、学びの内容も高度になることを知ってください。

※ 喜びの強さも、悲しみの強さも、感動の強さも、魂の熟成度に沿うように変わってきます。あなたの魂がさらに成熟すれば、今の喜びも、悲しみも、感動も、まだまだ高度なものになるでしょう。これは誇った良いことです。

このような仕組を創られた神に感謝しましょう！

○神は能動的！

神は能動的な存在です。これが良いと思つたら、すぐに行動に移すのが神です。私たちは神の子ですから、神と同じように能動的にならねばなりません。ウジウジしては、原子核を増やすチャンスを逸してしまいます。それどころか、一般人にも遅れを取ってしまいます。どうか、積極的な行動をする人になってください。

良いと思つて直ぐに行動を起こせば、原子核が自乗的に増えるのです。これは、神が創つてくれた素晴らしい仕組みです。学びの友の皆さんが、スピードアップして原子核が増えるのは、そのためです。たとえ積極的にやつて失敗したように見えても、それは成功のための失敗ですから成功なのです。すべて必然で良いことです。だから積極的にやれば、必ず進化成長するのです。

どうか行動的な人になってください。行動的な人は、大きく成長します。それは・・向こうへ帰つたらはつきりと分かります。

とは言つても、やはり中庸は守ってください。いくら積極的が良いからと言って、人の家に土足でツカツカと入るようなことだけはしないでください。

求道者は、常識人でなくてはなりません。どうか、自分の原子核の量に見合った中庸を守ってください。

※ 学びの友のやるべきことは、瞑想することです。クヨクヨ考える暇があるなら、悩む暇があるなら、心配する暇があるなら、瞑想することです。すべて瞑想が解決してくれます。こんな有り難いことが有りましょうか？

○表と裏の関係

モノには表と裏が必ずあります。表だけのモノもなければ、裏だけのモノもありません。その証に、あなたの手を真ん中から切ってみてください。どんなに切っても切っても、表と裏は離れません。1cmの厚みのものを1mmに切り、1mmの厚さのものを更に0.1mmに切っても、表と裏はあり続けます。この表と裏は、永遠にあり続けるのです。ですから、表だけの手もなければ、裏だけの手もありません。表と裏があつて、はじめて手があるのです。

今私たちは、肉体を持っています。この肉体は表なのです。表の肉体が有るということは、今言ったよう必ず裏があります。その裏のことを私は、神と言ったり、生命と言ったり、意識と言ったりしているので、その神は見えません。でも間違いなく神は存在しているのです。裏の手がなくては表の手がないように、裏の神がなくては表の人間はいないのです。

本当に有るものとは何でしょうか？ 表が有って裏が有ってはじめて「手」が有ると心の底で思えた時に、本当に有るものが生まれるのです。つまり、人間が有って神が有ると心の底で思えた時、はじめて神人が生まれるのです。神人が本当に有るモノなのです。でも、本当に有る神人は形がないので観えません。ですから、理解力で神人を観るしかりなのです。

このように本当に有るものは、表と裏の関係を心の底で理解した時に生み出されるのです。この心の底で理解できた人のことを、「理解眼の開かれた人」というのです。このことを理解するのは容易ではありませんが、ぜひ理解してください。それは、自分の手が教えてくれます。

※この宇宙に有る確かなものは、幸せだけです。幸せだけが實在だからです。この宇宙に存在している生命体は、みな幸せだけを欲しがっているのです。

○自分を責めてはならない！

あの当時は、あのような幼いことしか考えられなかったのです。

あの当時は、あのような幼いことしか話せなかったのです。

あの当時は、あのような幼い行いしかできなかったのです。

それはまだ原子核が少なかったからです。原子核が少なければ、幼い考え、幼い話し、幼い行為しかできないのです。それは自分の責任ではありません。幼さゆえの過ちですから、自分を責めてはなりません。その当時はその当方で、やれることを精いっぱいやって生きてきたのです。でも、今のあなたは違っておりま
す。なぜなら、当時より原子核が増えているからです。

「時は原子核」なりのです。「一日の長」です。人を成長させようと思ってもできませんが、時間は人を成長させてくれます。それが解った人は、人を責めないし自分も責めません。

今私たちがやるべきことは、今やれることを精いっぱいやることです。今やれること、それは社会体験と瞑想です。

※私の小学生時代、一年間休まず学校に通ったら皆勤賞がもらえました。一日休んでも、精勤賞がもらえました。あの当時のことですから大したご褒美はもらえませんでした。鉛筆やノートなどを頂きました。でも嬉しかったものです。

真面目に学んでいる人に、ご褒美が与えられるのは当然ではありませんか。真理も同じです。真面目に学

んでいれば必ずご褒美がいただけます。それは、原子核が増えるというご褒美です。このご褒美は、原因と結果の法則が与えるのです。

○ある求道者の手記

「あの当時の私は、親にも、妻にも、子供にも、ひどいことをしていました。また人を憎み、世を憎み、自分に都合の悪いことは、すべて人のせいにしていました。また欲望に負け、人として恥ずかしいこともしていました。そんな私でしたから当然、苦しみがやってきました。それでも私は、目覚めなかったのです。そんなある日、キツイ苦しみがやってきました。そこで『バチが当たった!』と思い、やっと目覚めたのです。

自分を弁護するようですが、あの当時の私はあのような生き方しかできなかったのです。それは、真理を知らなかったからです。だからと言って、『原因と結果の法則』から逃れられるものではありません。私はその代償を、苦しみで償ったのです。

これは後で分かったことですが、あの苦しみは目覚めに必要な警告だったのです。欲望のままに生きていた当時、何度も警告を受けていたのですが、それが警告だと気づかなかったのです。いいえ、薄々気づいて

いたのですが、改心する勇気がなく、警告を無視していたのです。悲しいことですが、人は我が身で苦しみを体験し、はじめて改心するものなのです。私が良い証です。

真理を学んでいる今の私は、心穏やかです。心の中に昔のような曇天はありません。晴れ晴れしています。もう、何のわだかまりもありません。真理に導いてくれた守護霊様、本当にありがとうございます！」

人は誰でも悪を犯し痛い目に遭っているものです。大切なのは、その痛い目から何を学ぶかです。学んで成長したら、悪は善になるのです。黒石が白石になるということです。

※「バチが当たった！」という思いの中には、二つの思いが込められています。一つは、神の存在を認める思い、もう一つは反省の思いです。ですから「バチが当たった！」と思える人は、結構、魂の熟した人なのです。

○一を心の底で知る

宇宙は、一であり無限です。ゆえに一の中には、一のモノしか無いのです。ですから、一の中の何を探し出して同じ一のモノです。宇宙が二つ有るなら(有限なら)他の宇宙の中に別のモノが有るかも知れませ

が、一つの宇宙しかないわけですから有るのは同じ一のモノなのです。だから、わざわざ遠くに探査機を飛ばして石を持ち帰ることはないのです。足元に転がっている石も、何億キロ先の小惑星の石も、同じ石なのですから……。

何でも二つで一つです。手の中に裏と表が同居しているように、明るさの中に光と闇が同居しているように、人間の中にも神が同居しているのです。このことが心の底で解つたら、自分が「一である」「神である」と自覚できるようになるのです。どうか色々な角度から一に光を当て、一の正体を知ってください。一の裏には、必ず神がおられるのですから……。

学びの友の最大の目的は、このことをいかに心の深いところで知るかです。

※ あなたのいない一秒ってありますか？

あなたのいない一日ってありますか？

あなたのいない一年ってありますか？

誰が一秒を作ったのでしょうか？

誰が一日を作ったのでしょうか？

誰が一年を作ったのでしょうか？

あなたではありませんか？

あなたがいなかったら一秒は無いですよ！

あなたがいなかったら一日は無いですよ！

あなたがいなかったら一年は無いですよ！

ならばあなたは、何なのですか？

主観者ではありませんか？

宇宙の主ではありませんか？

すなわち・神ではありませんか？

○幻を掴まないこと！

想念したものは、どんな想念であっても宇宙空間に青写真として残ります。その青写真は、いつか必ず想念した人の所にお荷物として帰ってきます。病気も事件事故災難も、想念した人の苦しいお荷物です。でもその苦しいお荷物は、悪想念が消えてゆく姿でもあるのです。

不幸というものは、元来この宇宙には無いのです。人類の迷いの想念が一時生み出した、幻の不幸にか過ぎないので。一時の幻ですから、放っておいたら必ず消えてゆくのです。本当に有ると思つて手放さないから、いつまでもあるのです。

病氣・事件・事故・災難は、すべて悪い在庫品が掃けてゆく姿です。今あなたがすべきことは、悪想念を持たないようにすることです。悪想念を持たなければ、悪い在庫品を増やさないので悪い在庫品は無くなつてゆくのです。

どうか、悪想念を持たないようにしてください。悪想念を持たないためには、瞑想をすることです。瞑想すること・・・それが幸せになる秘訣です。

※肉体のことは生命力(真我)に任せ、あなたは瞑想をしましょう。そうすれば、生命力が肉体を健康にしてくれます。肉体のことをクヨクヨ考え心配するから病気になるのです。

※雑念に悩まされている人は、何か雑念が湧きそうになったら「想わない！ 想わない！ 想わない！」と思ってください。

肉体の現象（痛み・痒み・痺れ・クシャミ・咳・辛さ・シンドさ・胸悪さ・息苦しさ・など）に悩まされている人は、そのような現象が生まれそうになったら「想わない！ 想わない！ 想わない！」と思ってください。雑念も、現象も、消えてゆくはずですよ。

雑念や現象が消えたら、自分のマントラ（光・神・生命）を想い続けてください。瞑想してください。

※ 私たちが纏っている肉体は、確かに汚くか弱く不自由かも知れませんが、でもその肉体がなくては、何も学べないのです。だから肉体は大切です。

人生の目的は、その肉体を使って何を学び、何を築き、何を残すかです。

○奥を見てください！

上面だけを見ないでください。上面の奥を見てください。どんなモノにも面の奥があるのです。面の奥が無ければ上面は無いのです。二つで一つなのです。見える物の背後には、必ず見えないモノがあるのです。唯物論者はそのことが理解できないため、「肉体有る限りの人生だ！」というのです。

肉体有る限りの人生なら、人は何のために生きねばならないのでしょうか？ 肉体有る限りの人生なら、

例え何を作っても、何を得ても、何を残しても、何を学んでも、残らないのですから無意味です。

あなたは、「生まれてきたからには、死ぬわけにゆかないから生きる！」というのですか？ そんな無目的な人生に、何の意味があるのでしょうか？ 生まれてきたからには、生まれてきた目的があるのであればありませんか？ 生きることによって「何かが残るから！」生まれてきたものではありませんか？

唯物論者は思考の停止した死人です。自分の存在を否定している人です。そんな死人にならないでください。どうか、奥の奥が見られる人になってください。奥の奥が見られる人は、自分を殺すようなことは言いません。

○もう懲り懲り!?

あなたは今生 肉体を持つことによって、どれほど辛い、苦しい、悲しい、体験をしたことでしょうか。あなたはもう、「こんな肉体を持つのは懲り懲りだ！」と思っているではありませんか？ でも、肉体を持ったお蔭でここまで成長してこられたのですから、今生 肉体を持って生まれたことは大成功だったのです。せっかく肉体を持って生まれてきたのですから、もう少し厭な体験をして帰ってください。

このように言うのは、厭な体験をすればするほど原子核を増やして帰れるからです。だからと言って、わ

わざわざ厭なことを貰いに行きなさいとは言っていないません。やってきたら逃げないで乗り越えてください！
と言っているのです。

どうか厭なことがやってきても、成長のための体験だと思って乗り越えてください。乗り越えたら、あなたはまた一段大きくなっているでしょう。

※厭なことの少ない人と多い人との、どちらが成長するのでしょうか？ 厭なことの多い人ですね！だから幼い魂は、厭なことを想って厭なことを多く引き寄せ、厭なことを多く体験するのです。

大人になった魂は、あまり厭なことを想わなくなりますから、厭な体験も少なくなるのです。ということ、それだけ瞑想しやすい環境が整うということです。

※体をこまめに動かす人は、サタンにやられづらいのです。なぜなら、体を動かせば宇宙エネルギーが入ってくるからです。どうか、こまめに体を動かしてください。動かせばサタンにやられないばかりか、原子核も大きくできるのですから・・・

○ゆめ幻！

あなたが今 嫌な人に出会っているのも、今 厭な環境にいるのも、過去の自分の悪想念が引き寄せた結果です。でもその結果は、時間が消してくれているのですから、嫌な人だと思わず、厭な環境だと思わず、「過去の自分の悪想念が、今 消えているのだから良いことだ！」と 思ってください。「嫌な人だ！ 厭な環境だ！」と 思っているから、いつまでも嫌な人も厭な環境も無くならないのです。過去のことは忘れてください。今の今、何を思うかが大切なのです。

「嫌な人の中に・・厭な環境の中に・・」光をイメージしてください。そうすれば嫌な人も嫌でなくなり、厭な環境も厭な環境でなくなります。あなたの見方が変われば、人も環境も変わるのです。

嫌な人も、厭な環境も、みなゆめ幻です。そんなゆめ幻のために、自分の心を汚すことほど損なことはありません。さあ、どんなことも良く受け取ってください。「自分の成長のために必要な人だ！ 自分の成長のために必要な環境だ！ 自分の成長のために必要で起きたことだ！」と・・・。

あなたがすべきことは、今やるべきことを真心を込めてやること、そして瞑想をすることです。この二つのことをやっていけば、間違いなくあなたは成長します。

※ 病気を作っているのは、自分の想念です。過去に抱いた悪想念が、今の病気にしているのです。

病気から抜け出す方法は、病気にエネルギーを与えないことです。難しいかも知れませんが、痛みや苦しみが来たら「今病気が消えている！消えている！消えている！消えている！良いことだ！良いことだ！良いことだ！」と思ってください。そうすれば、ネガティブなエネルギーを与えないので病気は快方に向かうのです。

病気のこととは考えないことです。そのためには瞑想することです。

※ 宇宙に書いた絵や文字は、相手にしなければ刻々と消えて無くなるのです。ですから悪い事が起きても、あまり動揺しないこと・あまり心配しないこと・難しいかも知れませんが、相手にしないことです。相手にしなければ、エネルギーを与えないので悪いことは起きなくなります。

○客観的世界観と主観的世界観

人それぞれ世界観を持っています。同じ世界観を持っている人は一人もいません。なぜなら、理解力によって世界観が違ってしまいうからです。ということは、世界は外側にあるのではなく、人それぞれ理解した思っていることにあることになるでしょう。

世界観には、見方によって客観的世界観と主観的世界観があります。客観的世界観で見た場合、その世界には波動の違う世界が無数に存在し、そこに沢山の人や物が存在することになります。ですから客観的な見方をしている人には、人や物や環境が実際に存在することになるので、どうしても争いごとが起きるのです。しかし主観的世界観で見た場合、その世界に存在するものは、すべて自分の進化成長に都合の良いものばかりになります。なぜなら、自分の進化成長に必要な物・人・環境を自分が用意するからです。勿論そこ起きたことは、みな自分が起こさせたことです。

外側に世界があるように見えますが、それは誤解なのです。なぜなら、自分しか存在しないからです。客観的世界があると思っている人は、自分の想念で客観的世界を作ってしまうのです。その客観的世界はもともとあったのではなく、今の自分の理解力が作った自分独自の世界なのです。

客観的世界観を持っている人も理解力が増せば、今見て感じている世界は消えて新たな世界が見えてくるようになります。それも、理解力が増した分の高度な世界が見えてくるようになります。そうなると、昔の客観的世界観は幼稚になってしまうのです。

このように世界は外側にあるのではなく、自分の理解力によって自分が内側に世界を創るのです。このことは、自覚の境界線を超えなくては解らないかも知れませんが、世界とはそういうことだけ知

っておいてください。

○相手関係？

「どうして相手がいるのですか？ それは、自分がいるからではありませんか？」・・・。あなたは、どうして自分がいると思えるのですか？ それは、自分がいるからではありませんか？ 自分がいなかったら自分が認められないので、自分はいないのです。自分が自分を認め、自分を存在させているということですよ。ということは、自分の中に二人の自分があることになるでしょう。そうです。あなたの中には、二人の自分があるのです。では二人の自分とは、どのような自分なのでしょうか？

一人の自分は、自我の自分です。もう一人の自分は、真我の自分です。真我の自分がいなかったら自我の自分はいません、また自我の自分がいなかったら真我の自分もいません。真我の自分が自我の自分を創り、自我の自分が真我の自分を認め、真我の自分を存在させているのです。自我の自分と真我の自分は、相互の関係にあるということです。しかし実際に存在しているのは、原因者である真我の自分の方です。真我は実在しますが、自我は真我が創った幻の自分しか過ぎないのです。だからと言って、自我を軽んじてはなりません。自我は幻の自分ではありませんが、自我が真我を認めて真我を存在させているのですから、自我

と真我は同等の価値があるのです。

どうか・自我を大切にしてください。肉体を大切にしてください。家族を大切にしてください。社会を大切にしてください。地球を大切にしてください。表現宇宙を大切にしてください。

※ 友達のAさんは、あなたが認めているから存在しているのです。あなたがいなかったらAさんは認められないのですから、Aさんは存在しないのです。またAさんから見たら、Aさんがあなたを認めているからあなたは存在しているのです。もしAさんがいなかったらあなたは認められないのですから、あなたは存在しないのです。

この宇宙には、一様の自分(真我の自分)しか存在しません。でも、一様の自分では自分が存在できないので、分身を創って自分が自分を認め合っているのです。

○理解力の大切さ！

現世利益が欲しくて真理を求めている人は、真の求道者とは言えません。現象が欲しくて真理を求めている人も、真の求道者とは言えません。知識を頼りにしている人も、真の求道者とは言えません。勿論、義理

や人情で真理を求めている人も真の求道者とは言えません。真の求道者とは、人生を賭して「本当の自分に目覚めたい！」と思っている人のことです。そのような人は、外側のものを頼ろうとせず、自分の理解力を頼りにします。

真理の扉は、理解力によってのみ開かれるのです。理解力が高まれば、先見の明が付き、判断力が高まるため、視野が広がります。視野が広がれば、色々な気付きが生まれます。その気付きは、自分の意識の中から生まれるヒラメキで、これは天から降りてくるのです。

外から教わるのは、外側の幻のことです。内から教わるのは、内側の真実(真理)のことです。どうか理解力を高め、内側から真理を得てください。その理解力を高めるのは、自力による社会体験と瞑想です。どうか、二つのことをやって理解力を高めてください。

※気付きやヒラメキは、原子核を増やしたら与えられるご褒美です。原子核を増やすのは自力です。理解力を高めたかったら・・・気付きが欲しかったら・・・どうか自力で原子核を増やしてください。

○神の自己満足!?

神様は時空の中に素晴らしい絵(表現宇宙)を描かれましたが、その絵は神様の満足心から生まれた絵でした。私たちも神様を見習い、自己満足心で人生を描きたいものです。

神様が描かれた絵は美術品です。人間が描いた絵は芸術品です。

神様は、自己満足度100%の絵を描かれたのです。誰の目も気にしない！ 何の囚われも拘りもない！ただ自分が「納得する・満足する・…」絵を描かれたのです。だから美術品なのです。人間が描いた絵には、色々な汚れが入っています。例えば、自分を良く見せたいという顕示欲、お金を儲けたいという金銭欲、名を上げたいという名声欲などです。だから人間が描いた絵は、波動の低い芸術作品になるのです。

真の美術品は、自己満足度100%から生まれるのです。職人バカという言葉がありますが、真の職人さんは金儲けしたいという思いも、名を上げたいという思いもありません。ただ、自分が満足する絵が出来上がるまで作り続けるのです。彼らは、自己満足度100%の絵を描きたいのです。でも最近、そういう職人さんは少なくなりました。殆どの職人さんは、色々な汚れの入った絵を描いています。特にお金が絡む資本主義社会においては、自己満足度の純度は落ちる一方です。

私は、美芸に携わっている人にも、一般の人にも言いたいのです。本当に良い作品(人生)を作りたいなら、

神様のような自己満足度 100%で作ってくださいと・・・。

このように言うのは、自分が主観者だからです。この宇宙には自分しかないのです。だから、自分が満足する絵を描いたら良いのです。雑音を出す外側の人たちは幻ですから、何を言われようと気にしないことです。

ただし、どんなに自己満足する絵(人生)を描いたら良いと言っても、人が嫌がるような絵(人に迷惑をかける人生)を描いてはなりません。自己満足する絵(人生)を描くにも条件があるのです。

一つは、真善美を犯さない描き方(生き方)・・・

二つは、中庸を犯さない描き方(生き方)・・・

三つは、宇宙の法則を犯さない描き方(生き方)です。

神様が描かれた自己満足 100%の絵は、この三つを満たしている絵ですから、素晴らしい作品になっているのです。私たちも、この三つを守って絵(人生)を描いたら、素晴らしい絵(人生)が出来上がることでしよう。

※ 神様と同じように私たちも、自己満足度 100%の生き方をしたら良いのです。人の目を気にせず明るく楽しく生きれば、人とのトラブルも、事故、災難、病気なども一切起きなくなります。自己満足度 100%の状態は、光 100%の状態ですから、光のあるところに不幸は入ってこられないのです。

自己満足の絵では自分は喜ばせられても、人を喜ばすことができないと思うかも知れませんが、人の目を気にして作った絵より返って人を喜ばせることができます。何一つ欲の入っていない純度 100%の絵は、自己満足度 100%の神様の絵と同じですから、素晴らしい波動の絵になるのです。つまり、自己満足度 100%の楽しい生き方をしたら、周りの人たちも喜ばせることができます。

※ どんなに真理を学んでいる者でも、自覚の境界線を超えるまではトラブルを起こすことがあるのです。でも一般人と違う点は、そのトラブルを成長につなげている点です。ある学びの友が言っていました。

「あのトラブルのおかげで、色々な気付きが得られ成長することができました。だから、トラブルを起こした相手に今は感謝していますと・・・。」

またこうも言っていました。

「私が成長するくらいだから、トラブルを起こした相手も成長しているはずだと・・・。」

神様は、何と素晴らしい仕組みをお創りになられたことでしょう。どんな悪い事もすべて成長につなげてくれているこの有り難さ！ 感謝あるのみです。

○物性から靈性へ！

私たちは、波動の高い天におりました。そこでは波動の高いものは体験できても、波動の低いものは体験できません。それでは真の幸せが味わえないので、私たちは波動の低い体験をするためにわざわざ記憶を失い地上界に降りてきたのです。記憶を失った状態は、自我の無い状態です。これでは何も認められないので、地上界に降りてきた意味がありません。ですから自我を持つために、鉱物から植物へ植物から動物へ動物から人類へと進化のプロセスを踏んだのです。私たちの中に鉱物・植物・動物の習性が残っているのは、そのような進化のプロセスを踏んできたからです。特に動物時代の習性は、色濃く残っています。未熟な魂が物欲や性欲に溺れるのは、動物時代の習性が強く残っているからです。これを私は、第一段階の動物人間の習性と言っています。その魂も人間社会で揉まれるうちに、第二段階の人間の習性を身に付けるようになります。つまり、物欲・金欲・地位や名誉欲・権勢欲・自己顕示欲などの人間的欲望を持つのです。今の地球人類の多くは、動物の習性と人間の習性を併せ持った動物人間の状態なのです。

でもこの状態は、決して悪いことではありません。私たちの目的はあくまでも霊性の進化を遂げるためです。波動の低い人間体験を数多くすることは必要なのです。ですからV字の左側の時代は、人間的欲望に溺れて様々な苦しみを体験するのです。苦しい体験をするうちに、人間的欲望の虚しさを知ります。知った魂は、V字の右側に入っていきます。V字の右側に入ってきた魂は、霊性の進化を遂げる方向へ自然と舵を切るようになります。つまり、人間的欲望から自然と離れるようになるのです。学びの友の皆さんが、あまり欲望を持たなくなったのは、それだけ霊性の進化が進んだからです。欲望を強く持つか持たないかは、霊性の進化のバロメーターだと思ってください。霊性の進化を目指している者に、地位や名誉や権力などは不要です。お金も物も必要最低限あれば良いのです。

※物質の世界は、汚いです。醜いです。鈍重です。不自由です。霊の世界は、綺麗です。美しいです。精妙です。自由です。私たちは、物質人間ではないのです。霊です。もうそろそろ、霊の自分に戻りましょう。

※私たちはすでに、肉体という動物を飼っているのです。その上、まだ他の動物を飼うつもりですか？ 私たちは、一日も早く動物から卒業し霊性の進化を遂げねばならないのです。

※今の地球人類は、動物と同じ営みをしています。食べて出す・セックスする・眠る・すべて動物的習性です。私たちは一日も早く靈性の進化を遂げ、動物的習性から抜け出さねばならないのです。

○現実と真実の違い！

この宇宙には、ホンモノらしき顔をしているニセモノと、ニセモノらしき顔をしているホンモノが存在します。つまり、見えるニセモノと見えないホンモノが存在するのです。では本当に実在するのは、見える物でしょうか？ 見えないモノでしょうか？

この宇宙は、対になっております。二つで一つなのです。二つで一つですが、どちらかがホンモノで、どちらかがニセモノなのです。ニセモノは、実際に無い現実です。ホンモノは、実際に有る真実です。ニセモノの現実は見えるのです。ホンモノの真実は見えないのです。つまり、「見える・聞こえる・触れる・味わえる・臭える」モノは、すべて幻なのです。なぜなら、肉体に付属する五感そのものが幻だからです。幻の五感で幻を見聞きしても、それは幻にしか過ぎないのです。もし五感にかかるモノが永遠に無くならないなら、私は五感にかかるモノを追い求めなさいと言います。でも五感にかかるモノは一時存在しているだけで、いつか必ず無くなってしまいますのです。無くなるモノを追いかけ、心が満足するはずがありません。

真実(真理)とは何でしょうか？ 現実(非真理)とは何でしょうか？ 真実とは永遠に無くならないモノ、現実とは必ず無くなってしまうモノです。何千億年・何兆億年存在しようと、無くなるモノは真実ではないのです。宇宙の無限時間での一兆億年など、一瞬です。ましてや私たちの住んでいる地球は、どんなに長く存在しても数百万年程度です。その地球における人類の文明も、せいぜい数万年維持できれば良い方です。更に今の地球人類の寿命は、どんなに維持できても百数十年程度です。その百数十年程度の命を守ろうとして、競い、闘い、奪い、戦争までしているのが、地球人類なのです。それは、真実と現実の見分けができていないからです。

この表現宇宙は幻です。地球も幻です。幽界も幻です。夢も幻です。幻覚も幻です。詐欺師の言葉も幻です。柳を幽霊と見間違ったのも幻です。蜃気楼も幻です。UFOも幻です。物質化現象も幻です。この世の現象は、すべて幻なのです。幻の世界で起きていることは、すべて幻なのです。私たちは、生まれて死ぬまで、いや、死んだ後も幻の中で生きて行くのです。そしてまた幻の中に生まれ、幻の中で生き、幻の世界に帰って行くのです。あなたは、こんな幻の輪廻をいつまで繰り返すつもりですか？

幻の中で味わう幸せは一時です。必ず色褪せ無くなってしまいます。あなたは、そんな一時の幸せで満足できますか？ 永遠の私たちは、永遠の幸せを掴まなくては満足できないはずです。その永遠の幸せは、真

実を知れば得られるのです。どうか真実を知ってください。そうすれば幻の輪廻から抜け出し、「永遠に尽きない！永遠に色褪せない！」幸せを掴むことができるのですから……。

私たちそのものが、永遠に無くならない「意識」なのです。ただその自覚がないだけです。どうか、真実と現実を見分ける目を持ってください。

※一兎追うものは一兎も得ず・・・虻蜂取らず・・・この二つの諺を持ち出すまでもなく、二つのものを追いかけては一つも得ることはできません。ですからまずは、形の世界の様子を知りましょう。その後、見えないう世界の様子を知れば良いのです。

○鉄は熱いうちに打て！

「鉄は熱いうちに打て！」という諺がありますが、この諺には二つの意味があります。一つは、「人は柔軟性のある若い時に鍛えた方が良い、或いは、時期を逸しないうちに実行すべきである」という意味・・・もう一つは、「早い時期に反対の体験をした方が、魂が良く育つ」という意味です。

輪廻転生において「男・女・男・女・男・女」と交互に性別を変えて生まれてくるのは、熱いうちに鉄を

打った方が、効果が大きいからです。私たちは、なぜこんな体験をさせられるのだろうか？と疑問に思うことがあるかも知れませんが、みな前生の反対の体験をさせられているのです。

例えば・

- ・人をいじめたら、いじめられます。
 - ・人を殺したら、殺されます。
 - ・人を傷つけたら、傷つけられます。
 - ・人を騙したら、騙されます。
 - ・人を誘惑したら、誘惑されます。
 - ・人を憎んだら、憎み返されます。
 - ・人を怒ったら、怒り返されます。
 - ・怠けて働かなかったら、強制労働させられます。
 - ・物を盗んだら、盗み返されます。
- 勿論、良いことも同じです。

この反対の体験は、記憶が薄れてからでは効果が薄いので、記憶の濃い次生でなされることが多いのです。

人を責めたり、なじったり、してはなりません。私たちは、国を変え、性別を変え、立場を変えながら転生を繰り返してゆくのですから、今の立場が優位だからと言って人を責めたりなじったりしたら、必ず来生逆の立場に立たされます。

どうか、立場が優位であればあるほど、自分を戒めてください。

※人間は過去にこだわり過ぎます。過去は閉ざされたページです。「過去を清算せよ！」という国がありますが、過去をどう清算せよというのでしょうか？ お金で清算することを清算というなら、ただお金が欲しいだけではありませんか？ 戦争した人たちは、もうとっくに死んでいないのです。どうして、戦争もしていない子孫が責任を負う必要があるのでしょうか？

精算できる過去などあるわけがないのです。もしあるとすれば、今仲良くすることです。そうすれば戦争で犠牲になった人達も、きっと報われるでしょう。いつまでもいがみ合っている、亡くなった人達は浮かばれません。事実・・彼らは、仲良くして欲しいと口々に言っています。向こうへ帰ったら波動が高くなるので、寛容な心が持てるようになるのです。

彼らに報いるのは、靖国神社にお参りすることでも、慰霊碑に花束を捧げることでもありません。お互い

仲良くすることが、彼らに報いることになるのです。

※ 国の威信？・面子？・プライド？・それって何ですか？ 単なる自己満足ではありませんか？ そのために戦争までする。こんなことをしているのは、幼い地球人類だけです。どうか大人になってください。

※ 「辱めを受けた！ 自尊心を傷つけられた！」と怒る人がおりますが、争わないですむなら、皆が幸せになるなら、私は「人の股をくぐります！ 人の足をなめます！」

この世は幻なのです。肉体は幻なのです。神の心はあっても、人の心など無いのです。傷つけられる人も無ければ、傷つけられる心も無いのです。

○外側の物が内側のモノを進化成長させている！

外側のモノは、どんなに美しく見えても、どんなに醜く見えても、どんなに楽しく見えても、どんなに苦しく見えても、どんなに心地良く感じて、どんなに痛く感じて、現象ですからみな幻です。でもその幻によって心がダメージを受ければ、みな真実になるのです。柳の木を幽霊と見間違えて心臓がドキッとした

時、柳の木は真実になるのです。木の切り株をクマと見間違えて心臓がドキッとした時、木の切り株は真実になるのです。

このように現象であっても心がダメージを受けた時、現象は真実になるのです。私たちは五感を持っているため、どうしても外側の現象の影響を受けてしまうのです。でもこれは、決して悪いことではないのです。なぜなら、外側の現象のお蔭で進化成長できるからです。現象を軽んじてはならないというのは、外側の物が内側のモノ(魂・心)を進化成長させるからです。

現象だからと言って病気を軽んじないでください！ 必要なら病院に行き、薬も飲み、手術も受けることです。特に重い外傷は、外科的治療は必要です。私は真理をやっているから医者にかからないという人は、真理を生半可にかじった人です。どうか、「現象と真実は」同等の重みがあることを知ってください。

※確かに現象を軽んじてはなりません、現象に惑わされ過ぎてもなりません。特にここまで魂の大きくなった皆さんは、現象など笑い飛ばしてしまいなさい。何せ私たちは、外側の影響を受けない神なのです。ら・ら・「自分は神である！」と心の深いところで想えたら、病気などはもう他人事です。神の世界に病気など無いからです。あなたは、無限の生命力を持った神なのですよ！ ですから、病気などに絶対ならないの

です。

※悪い想いは持たないことです。「想念は実現の母」ですから、悪い想いを持ったら悪いことが実現するのです。いつも良い想いを持ってください。良い想いの一番は、神(あなたのマントラ)です。良い想いを持っている時は、悪い想いは持てません。良い人生にする秘訣は、常に神を想い続けることです。

○私が解らない!?

「私は意識です!」・・・と堂々と言えるのは、今私と思っている意識を持っているからです。でも意識は見えませんが、私の意識の正体が解らないのです。一体私の意識は、何処から来ているのでしょうか? 私の意識は、何なのでしょう? 一体私は、誰なのでしょう? 解りませんか?

私が解らない?

どうしてこのような想いが湧いてくるのか解らない?

どうしてこんな言葉が出てくるのか解らない?

どうしてこんなことをするのか解らない?

私が解らない？

どうして憎しみが湧いてくるのか解らない？

どうして愛おしくなるのか解らない？

どうしてこんな感情が湧いてくるのか解らない？

私が解らない？

どうして悲しくなるのか解らない？

どうして嬉しくなるのか解らない？

どうしてこんな想いが湧いてくるのか解らない？

解らない尽くめの私です。でも、それで良いのです。もし私が解ったら、私(自分)が消えてしまうからです。私たちは、永遠に解らない私(自分)と一緒に永遠に生きてゆくのです。

※ 神を求め続ける大切さを知らない人は、真理を知らない人です。

※ 神の別名は「不明」です。神は不明なのです。不明なモノに「神」と名付けただけです。ならば不明な

私の意識は、神では無いでしょうか？　そうです。不明な私の意識は「不明な神」なのです。

※ 神を深く知ると、もう・・・神に降参するしかありません。なぜなら、神に逆らっても勝てないことが分かるからです。まさに「バンザイです！」「お手上げです！」「白旗を揚げるしかありません。

神を知らない人は、痛い苦しいと言いながら神に手向っています。手向かえば手向かうほど苦しくなるといのに、・・・です。

でも魂(原子核)が成熟するまでは、仕方のないことかも知れません。

○サタンは味方!?

サタンはまだ幼いから、悪さをしていることが、自分たちの居場所を少なくしていることに気づかないのです。闇が濃くなればなるほど、光は強くなるのです。つまり、サタンが悪さをすればするほど、私たちは強くなるのです。だから、サタンは味方だということです。

神が創られた完全な宇宙に、悪が悪で終わることは無いのです。もし悪が悪で終わるなら、神は完全でなくなってしまう。悪いことの背後には、必ず良いことが連なっているのです。サタンがこのことを知っ

たら、サタンは悪さをしなくなるでしょう。でも幼いサタンはこのことを知りませんので、悪さをして自分たちの居場所を増やそうとしているのです。悪さをすればするほど、自分たちの居場所が少なくなるというのに・・・です。

サタンが生き残りたいなら、大人しくしていることです。そうすれば、居場所は少なくなっても生き残れるでしょう。でもこのことは、サタンに内緒にしておいてください。サタンがこのことを知って悪さをしなくなったら、私たちは強くなれないのですから・・・。

悪を恐れなくてください！ サタンを恐れなくてください！ どんな悪いことも、成長につながっていると思ってください！ 私たちが今日ここまで成長してこられたのは、サタンの悪さのお陰なのですから・・・。

※ 求道者の玄人と素人の見分け方

- ・ 悪が成長の糧になっていると思える人は、求道者としては玄人です。
- ・ 悪の体験が終わって、全く悪心を持たなくなった人は、玄人中の玄人です。
- ・ 思いを内に向けている人は玄人です。思いを外に向けている人は素人です。
- ・ 続けることの重要性を知らない人は素人です。

- ・現象を追いかけている人は素人です。
- ・宗教に誘っている人、宗教に入っている人は、どちらも素人です。
- ・知識を光らかす人は、素人です。
- ・お寺や神社に入り浸っている人は、素人です。
- ・ジャングルや洞窟の中で悟ろうとしている人は、素人です。
- ・肉体業をやって悟ろうとしている人は、素人です。
- ・宗教大学で教えている教師、学んでいる生徒は、全くの素人です。
- ・他力を信じている人は、求道者の資格はありません。

○エネルギーロス無くそう！

世の中には、無名な時は良い成績を残しますが、名前が知れるにしたがい段々と成績を落とすアスリートがおります。これは、エネルギーロスが多くなったからです。エネルギーロスは、意識を外側に向けた時に起きるのです。

例えば、

賞金を稼がなくてはならない！・・

ランキングを上げなくてはならない！・・

スポンサーの期待に応えなくてはならない！・・

ファンの期待に応えなくてはならない！・・

国のため！・・

メダルのため！・・

このように意識を外側に向けると、エネルギーロスを起こすため良い成績が残せなくなるのです。

意識は、「エネルギーであり光」なのです。この表現世界は、エネルギー（光）が強ければ良いことが起き、弱ければ悪いことが起きるようになっていっています。先が見え勝ったと思った瞬間 逆転されるのは、未来に（外側に）意識を向けエネルギーロスを起こしたからです。これは、学びについても言えることです。

未来のことをクヨクヨ考える人がおりますが、明日があるかどうか分からないのですよ！ あるかどうか分からない明日のためにエネルギーを使う、こんな大損ありません。「明日」あるかどうかの保証は、誰にもないのです。でも、「今」の保証は確実にあるのです。確実に保証されている「今」のためにエネルギーを使いましょう。

今だけが実在です。今だけがあるのです。今だけに生きられるのです。ということは、今だけしか学べないということです。明日 学べる保証はないのです。なぜなら、明日 地球が無くなるかも知れないからです。明日 肉体が無くなるかも知れないからです。どうか、確実に保証されている今に生きてください。

※「求めよ！ さらば与えられん！」・これは真理です。

・空腹を満たしたい者は、自分の方から餌を探しに行きます。待っていて餌がやってくることはありません。
・果物が食べたかったら樹に登ることで。樹の下でいくら口を開けて待っていても食べられません。

※この世のことを色々とも考えることも、境界線を超えたいとも考えることも、外側に意識を向けることになるので、エネルギーロスを起こします。瞑想する時は何も考えず、ただただ神(マントラ)に想い(エネルギー)を集中させることです。

○皆さんは**名作家であり、名演出家であり、名監督であり、名演技者です。**

皆さんの今日までの人生ドラマは、自分が筋書を書き、自分が演出をし、自分が監督をし、自分自身が演

じてきたのです。

この時代に、この国に、こんな家に、男性(女性)として生まれましょう！

このような学校に入り、このような仕事に就き、このような生活基盤を作りましょう！

この時期に、このような人と結婚し、何人子供を設けましょう！

この時期に、会社の倒産やリストラを体験したり、離婚を体験したり、事故や病気を体験したりして、人生に疑問を持つようになりましょう！

それがきっかけで真理に目覚めましょう！

この学びの場に来る筋書きを書いたのも、皆さん自身です。だから皆さんは、名作家であり、名演出家であり、名監督であり、名演技者であるということです。

自作自演の人生ドラマです。そのドラマの内容は、みな進化成長に結びついているのです。だから苦しい人生だったからと言って、失敗だと思わないでください。失敗どころか大成功です。なぜなら、苦しい人生が今のあなたにしたからです。

※ 人生は夢幻です。あなたは今夢幻の中で、「泣き笑いしながら・・・それも必死になって・・・」生きてい

るのです。でもその夢幻の人生が、あなたを成長させてくれるのです。

※あなたが生まれてきたのは、結婚するためでも！子供を設けるためでも！金持ちになるためでも！名を挙げるためでも！ありません。本当の自分を知るために生まれてきたのです。どんなにこの世の宝物を得てもこの世限りです。でも自分を知った宝物は永遠なのです。

○究極の学びは？

究極の学びは、想念を正しく使えるようになることです。想念を正しく使えば、「究極の幸せ」の中に入ることができるようになります。世界が、何かが、誰かが、「究極の幸せ」の中に連れて行ってくれるのではないのです。自分の想念が、究極の幸せの中に連れて行ってくれるのです。

- ・ 幽界も幻です。
- ・ 表現世界も幻です。
- ・ 夢も幻です。
- ・ UFOも幻です。

・物質化現象も幻です。

・幻覚も幻です。

表現されたモノは、みな幻なのです。そんな幻が、究極の幸せの中に連れて行ってくれるわけがありません。究極の幸せの中に連れて行ってくれるのは、自分の想念だけです。

やることは、単純です。ただ、ポジティブな想いを持てば良いだけです。つまり、明るい想いを持つこと・前向きな想いを持つこと・建設的な想いを持つこと・肯定的な想いを持つことです。一番良い想いは、「神を想う」ことです。

宇宙のどんな生命体も、究極の幸せを欲しているのです。だから彼らは、常に良い想いを持つよう心掛けています。

※私たちがやるべきことは、簡単です。単純です。難しいことは何一つありません。ただ動くだけです。ただ想う(瞑想)だけです。やれば間違いなく自覚の境界線に近づくことができます。

○言葉(名前)や文字や絵が必要な理由？

どうして言葉が必要なのでしょう？ どうして名前が必要なのでしょう？ どうして文字や絵が必要なのでしょう？ それは、「何か」が有ると認識しただけでは、有ることにならないからです。なぜなら、認識した「何か」に何の具体性もないからです。認識した「何か」に具体性を持たせて、はじめて「何か」が有ることになるのです。具体性を持たせるためには、言葉や名前や文字や絵が必要なのです。

「何か」を認識した状態・具体性のない状態

「何か」を思った状態・少し具体性の出来た状態

「何か」を言葉にした状態・具体性が出来た状態

「何か」に名前を付けた状態・更に具体性が出来た状態

「何か」を文字や絵にした状態・更に更に具体性が出来た状態

例えば、「何か」を認識したとしましょう。この状態では具体性がないので、その「何か」は存在していません。その認識した「何か」を「丸い星」だと「思った」としましょう。しかし思っただけでは具体性がないので、その「丸い星」はまだ存在していません。「丸い星」と言葉にしたら具体性ができたので、その「丸い星」は存在することになります。更に「丸い星」と名を付けたら、なお具体性ができたので存在感が

増します。更に「丸い星」を文字や絵にしたら、更に更に具体性ができたので益々存在感が増すのです。

この表現世界は波動が荒い世界なので、「思い」だけでは相手に伝わらないのです。「思い」を相手に伝えるためには、具体性の有る「言葉(名前)や文字や絵に」する必要があるのです。

※言葉と名前は同じです。例えば「丸い星」と言葉にしたとしましょう。その「丸い星」という言葉は、すでに名前なのです。名前は具体性を持った言葉であり、言葉は具体性を持った名前なのです。その意味では、名前を付けた途端に言葉が生まれたと言ってもいいし、言葉が生まれた途端に名前が生まれたと言ってもいいのです。

※この表現宇宙には「音」が存在しますが、「音」は「響き」であり「波動」なのです。その音(響き・波動)は、言葉であり名前なのです。「ア・イ・ウ・エ・オ」の音(響き・波動)そのものが、言葉であり名前になっているのです。

「認識・思い」は、音になっていませんので言葉にも名前にもなっていません。それでは、その「認識・思い」は存在していないことになるのです。認識(思い)を言葉(音・響き・波動)にしてはじめて、認識(思い)

が存在したことになるのです。

※意識の世界で使われているテレパシーは、想いの籠もった言葉です。ですから、寸分も狂わず自分の想いが相手に伝わるのです。意識の世界に言葉が要らない理由は、テレパシー(想い)そのものが「言葉(音・響き・波動・名前)」になっているからです。

※「ここに何かがある！ あそこに何かがある！」という認識だけでは、その何かは存在していないのです。その何かに名前をつけ(言葉や文字に表現して)はじめて何かが存在していることになるのです。名のない何かは、存在していないのと同じなのです。だから、どうしても名前が必要なのです。

※神が人類になったのですから、「神の名」を「人類の名」に置き換えたら良いのです。神の名イコール人類の名なのです。人類という名前(言葉)は、人類が神であることを教えてくれる名前なのです。

※神は人類に、すべてのモノに「名」を付けさせました。なぜ「名」を付けさせたかと言いますと、「名」

付けられたモノが、すべて神であることを知ってもらいたいためです。しかし人類は、「名」付けた「名」に惑わされ、神が不明になってしまったのです。私たちは、「名」を遡って神を知らなければならぬのです。

※名前が持つ使命は、他のモノと区別するためと、そのモノの役割や目的を知るためです。例えば、鉱物の名だけでは漠然として分かりませんが、「石」とか「銅」とか「鉄」とか名前を付ければ分かります。更に「鉄」を加工したモノに、ナイフだとか鍋だとかスプーンだとか名前を付ければ、そのモノの役割や使命がはっきりと分かります。

○神の完全性！

この物質世界は、片方は満足させられても、もう片方は満足させられない世界なのです。なぜなら、同一空間に二つの物が同居できない世界だからです。

ここに、一軒の家があったとしましょう。その家に二人の人がやってきて住もうとしました。でも、小さな家なので二人は住めません。そこで、家の奪い合いになりました。力のない者は負けて寒空に追い出され、

力のある者は勝って家でぬくぬく過ごすことができました。

良いものがあれば、悪いものもある。

楽しいものもあれば、苦しいものもある。

光があれば、闇もある。

幸せもあれば、不幸もある。

それが、この物質の世界なのです。でも、そのような世界だから成長できるのですから、有り難い世界なのです。良いものばかりある世界なら、私たちはひ弱に育ってしまうでしょう。

神の完全性は・・悪が善に結びついており、不完全が完全に結びついており、不幸が幸せに結びついており、苦しみが進化成長に結びついているからです。

※ある政治家は、万民に良いと思ってある政策を実施しました。でも、その政策を実施したために都合の悪い人たちが出てきました。しかし反対に、旧来の政策で苦しんでいた人たちは、都合が良くなったと喜んでいきます。万民に良い政策などこの世にはないのです。でも、それで良いのです。なぜなら、万民に良い政策なら進化成長できないからです。

この世界でうかつに良し悪しを口にできないのは、都合の良い人と都合の悪い人がいるからです。

※不幸せな人とは、全く神を信じられない人のことです。

幸せな人とは、心から神を信じられる人のことです。

○幻である証拠

私たちは毎日、人の死を見せられています。また、状況が刻々変わってゆくのも見せられています。にもかかわらず全員が全員、四苦八苦して生きています。それは、この世が本当にあると思っっているからです。

「人が死んだり状況が変わったりするのは、この世が幻である証拠なのです。」

本当に有る世界なら人が死ぬことも無いし、状況が変わることも無いからです。でも殆どの人が、そのことに気付いていないのです。

この世が幻の世界なら、五十歩百歩の生き方をしたら良いのではありませんか？ どんなに苦勞してお金を集めても、みな置いて帰らねばならないのですからね。このように言うのは、皆さんが熟した魂だからです。幼い魂は、四苦八苦して魂を大きくすることが必要ですが、皆さんのような熟した魂はそこを卒業した

のですから、もう四苦八苦して生きる必要はないのです。だからいい加減に生きなさい！と言っているわけではありません。何事も真心を込めてやってください。真心を込めてやれば、原子核を増やすことができますから……。

○二通りの知る

「知る」には、二通りの「知る」があります。一つの知るは、頭で知った知るです。この頭で知った知るは、単なる「知識」です。もう一つの知るは、頭で知ったことを身体で体験し、「体験知」に変えた「知る」です。頭で知った知るは、体験の無い知るですから知恵になっていません。ですから頭で知った「知る」は、原子核をあまり増やさないので。でも「体験知」に変えた知るは、知恵になっているので原子核を大きく増やすのです。

「体験」という字の意味を考えてみましょう。この字の意味は、「体」で「経験する」という意味です。体を動かして経験すれば、より原子核を増やすのです。年寄りが知恵者だと言われるのは、年の数ほど身体で体験し知恵に変えてきたからです。若者は知識を得てもまだ体験が少ないので、知恵者になっていないのです。

今多くの人が人生の荒波に揉まれ苦しんでいます、それは知識を知恵に変えている真つ最中の姿なのです。つまり、原子核を増やしている真つ最中だということです。

※ 「一度知ったことは二度と知ることができません！」

なぜなら、知れば原子核が増え理解力が高まるため、同じような知り方ができなくなるからです。このことは、知る前のあなたの背丈と知った後のあなたの背丈は違うため、二度と同じ景色が見られないという例えで解ってもらえると思います。その時の背丈で知ったことは、その背丈限りの知ったことなのです。

※ 知ることは、とても大切です。なぜなら、知れば過ちを犯さなくなるからです。でも、知っても過ちを犯す幼い魂がおります。それは、知ったことを疑っているからです。その者は、過ちを犯して痛い目にあつて疑いを晴らすしかないのです。でも、それで良いのです。なぜなら、過ちを犯すことによって原子核を増やすことができるからです。

○自己満足で良い！

需要と供給は、常に一致していなければなりません。でもそれを主導するのは、需要者の方です。なぜなら、この宇宙には需要者しかいないからです。よく考えてみてください。供給は需要が決めるのです。需要側が望み供給されるのです。それは、需要者が供給物を創るからです。つまり、認識者(需要)が認識されるもの(供給)を創るからです。

受け取る側が主体者なのです。ですから、受け取り方次第で価値が変わるのです。例えば、郵便物が配達されても受け取る人がいなかったら、その郵便物は無かったことになります。たとえ受け取っても、受け取る人が満足しない郵便物は、すぐにゴミ箱ゆきになってしまいます。受け取る人が満足して、はじめてその郵便物に価値が生まれるのです。満足しなかったらという意味は、その郵便物が何なのか理解されない郵便物は？という意味で、理解されない郵便物は無価値になってしまいます。だから私は、「受け取る側が大切ですよ！」というのです。郵便物を良くも悪くもするのは、つまり活かすも殺すもするのは、受け取り側次第だということです。私が「何でも良く受け取りなさい！」というのは、良く(理解して)受け取らなければ、悪い郵便物になってしまうからです。つまり、受け取る側に理解力がなければ、その郵便物は意味のない郵便物になってしまうからです。ですから、需要者側の能力(理解力)、あるいは対応力が、とても大切に

なってくるのです。今の社会は、供給者の方が主導権を握り、需要者側が踊らされている不思議な社会なのです。だから、畑で作物を腐らす無駄なことが頻繁に起きるのです。

この宇宙には、主観者しかいないのです。主観者しかいないのですから配達される郵便物の中身は、主観者の都合の良いモノばかりのほうです。でも自我はそのことが解りませんので、折角価値のある郵便物を無価値にしてしまうのです。つまり、成長のために与えられた郵便物(痛み苦しみを)、無駄にしてしまうのです。無駄にするならまだしも、悪く受け取り悪業さえ作ってしまうのです。何と悲しいことでしょう！

主観者(需要者・認識者)しか存在しないのですから、人を満足させようと考えなくても良いのです。自分が成長すれば良いのですから、自己満足で良いのです。(いない人を成長させようとするのは矛盾である) 自分は、自分の成長のために勉強会でお話しているのです。また光のメロデーも、自分が満足したくて作っているのです。作ってくれている人は、みな私だからです。

※どんなことにも「意味」がある。それは、その中に神の思いの味が含まれているからです。神は私たちに進化成長してもらいたいのですから、何が起きてもその中に進化してもらいたい神の思いの味が入っているのです。「意」とは、神の想いです。「味」とは、神が何をどう望んでいるかの味です。

○第三の幸せとは？

幸せとは意識状態です！ 意識状態ですから体験した本人にしか分かりません。特にこれから説明する第三の幸せは、文字や言葉で伝えようのない幸せです。どんな幸せかと言いますと、「意識が意識で味わう幸せです。」

私はこれまで、二つの幸せについてお話してきました。一つは理解力で味わう幸せ・もう一つは意識的五感で味わう幸せです。でも、この二つの幸せを味わうためには条件が必要でした。しかし「意識が意識で味わう幸せ」には、条件がないのです。なぜか解らないけれど、

「ただただ嬉しいのです！」

「ただただ楽しいのです！」

「ただただ幸せなのです！」

この条件なしの幸せこそが、究極の幸せなのです。ただしこの幸せを味わうためには、心の底で「自分は神である！」という自覚が必要です。なぜなら、神意識そのものが究極の幸せを備えているからです。自我意識も神意識ではありますが、今の私たちは神意識の糸の下の方に意識を落としているため、心の底で神だと思えない状態なのです。ですから今の私たちは、幸せに満ちた神意識を味わえないのです。味わうために

は、どうしても神の自覚が必要なのです。どうか原子核を増やし、自覚の境界線を超えてください。超えたら、幸せに満ちた神意識を味わえるでしょう。

※ 学びの友の一人が、こんな素敵なおメールを送ってくれましたので、皆さんにもご紹介したいと思います。

「寝たきりの母が、私が葛粉で作った羊羹を食べながら・・・

” 幸せ〜幸せ〜 ” と何度も言ってくれました。

” ありがとう！ ” は頻繁に言ってくれていましたが、 ” 幸せ〜 ” は、初めてでした。

私はその母の言葉を聞いて、無性に嬉しくなりました。そして気付いたのです。 ” ありがとう！ ” は相手に対して言う言葉ですが、 ” 幸せ ” は自分に対して言う言葉だと・・・そしてその ” 幸せ ” は、 ” ありがとう！ ” の何十倍も嬉しいのだということ・・・。

この宇宙には一なる自分しかないから・・・母が ” 幸せ〜 ” と言っているのを聞いて、一なる自分も ” 幸せ ” を感じたのですね・・・。

” 幸せ ” という言葉は、あくまでも主観的言葉なのです・・・。」

※ この表現世界は、次から次へと変化する無常の世界です。その世界に確かなモノが有るとすれば、それは幸せだけです。なぜなら、幸せは実在だからです。この宇宙に存在している全ての生命体は、幸せだけを欲しているのです。

おわりに

学びの友の皆さんは、今、大変な学びをしているのです。皆さんは、一生や二生の人生のことを学んでいるのではないのです。永遠の生のことを学んでいるのです。こんな凄い学びが、他にありませんか？

人生の目的はただ一つです。それは、自分が意識だと心の底で思えるようになることです。そうなるために、難行苦行は不要です。難しい論理もありません。必要なのは、真心を持って社会体験し、余った時間に瞑想をすることです。それには、強い意志がいります。根気がいります。努力がいります。

ぜひ、「自分は意識である！」と強く、深く、想えるようになってください。

二〇二〇年一月一日

かとう はかる